

令和 5 年度

第 2 回 市政モニターアンケート報告書

テーマ

1. 上下水道局の取組について
2. 里親制度に関する意識調査・広報啓発について
3. 自転車の利用環境について
4. ごみ減量化・リサイクル、適正排出について
5. 大阪 880 万人訓練について
6. 広聴活動について

堺市 市長公室 広報戦略部 市政情報課

目 次

■ 調査概要	1
■ 回答者属性	2
1. 上下水道局の取組について	
調査結果の概要	3
(1) 災害・地震対策について	4
(2) 家庭での備蓄について	5
(3) 上下水道局スマホアプリ「すいりん」について	10
(4) 節水意識について	14
(5) 上下水道局ホームページについて	17
(6) LINE のメッセージ頻度について	18
(7) 上下水道局からのお知らせについて	19
(8) 上下水道局の取組の満足度について	22
2. 里親制度に関する意識調査・広報啓発について	
調査結果の概要	24
(1) 里親制度に関する意識調査・広報啓発について	25
3. 自転車の利用環境について	
調査結果の概要	34
(1) 都市魅力について	35
(2) 利用促進・安全利用について	36
(3) 安全利用について	41
(4) 自転車通行環境について	43
(5) 駐輪環境について	47
4. ごみ減量化・リサイクル、適正排出について	
調査結果の概要	50
(1) 堺・ごみ減量 4R 大作戦について	51
(2) ごみ減量化・リサイクル、適正排出の情報発信媒体について	54
(3) ごみの 4R 運動について	58
(4) ごみ減量の具体的取組について	60
(5) 水銀使用製品の保有・使用状況について	64

5. 大阪 880 万人訓練について	
調査結果の概要	66
(1) 大阪 880 万人訓練について	67
6. 広聴活動について	
調査結果の概要	78
(1) 広聴について	79
(2) 「市民の声」の公表について	82

■ 調査概要

1. 趣旨・目的

(1) 上下水道局の取組について

(担当課：上下水道局 経営企画室 危機管理・広報広聴担当)

(2) 里親制度に関する意識調査・広報啓発について

(担当課：子ども青少年局 子ども青少年育成部 子ども家庭課)

(3) 自転車の利用環境について

(担当課：建設局 サイクルシティ推進部 自転車企画推進課、自転車環境整備課、自転車対策事務所)

(4) ごみ減量化・リサイクル、適正排出について

(担当課：環境局 環境事業部 環境事業管理課)

(5) 大阪 880 万人訓練について

(担当課：危機管理室 危機管理課)

(6) 広聴活動について

(担当課：市長公室 広報戦略部 市政情報課)

2. 調査期間

令和 5 年 12 月 1 日 (金) ～令和 5 年 12 月 14 日 (木)

3. 調査方法

(1) 対象

市内在住・在勤・在学の 18 歳以上の方で、公募による市政モニター

(2) 人数

471 人

(3) 調査方法

インターネットを通じたアンケート回答

(4) 回収率

調査対象者 497 人に対して、有効回収数 471 人 回収率 94.7%となった。

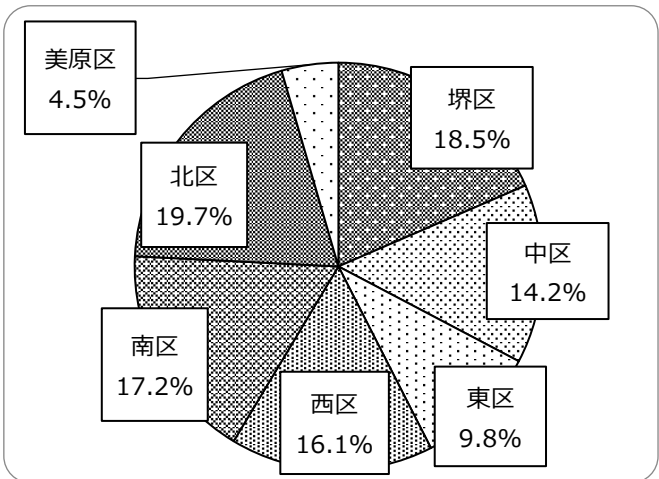
4. 報告書の見方

- (1) 本調査の集計分析対象とした調査票総数は 471 である。数表中の N は比例算出の基礎となる回答者総数を表している。
- (2) 個々の選択肢比率を合算する場合は、個々の回答数の合計を N で除して百分率を求め、小数点第 2 位を四捨五入した。このため、個々の比率の合計が 100%にならない場合がある。
- (3) アンケートへの回答は、単数回答と複数回答を求めた設問があり、複数回答を求めた設問では、比率の合計が 100%を超える。
- (4) 「その他記述」及び「自由回答」に関しては、紙面の都合上、主な内容を集約、抜粋して掲載した。

■ 回答者属性

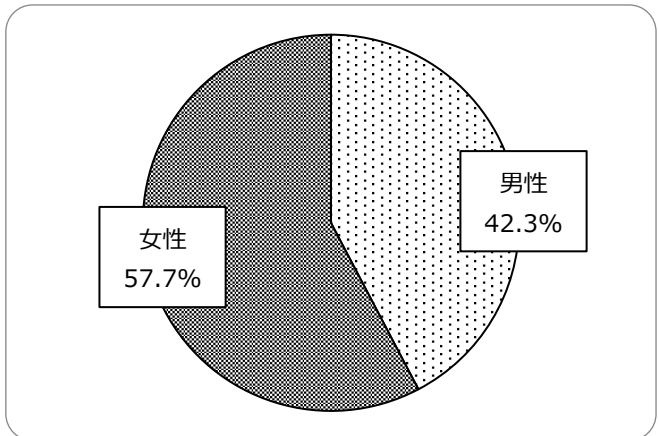
居住区別		回答数	構成比
1	堺区	87	18.5%
2	中区	67	14.2%
3	東区	46	9.8%
4	西区	76	16.1%
5	南区	81	17.2%
6	北区	93	19.7%
7	美原区	21	4.5%
計		471	100.0%

居住区別



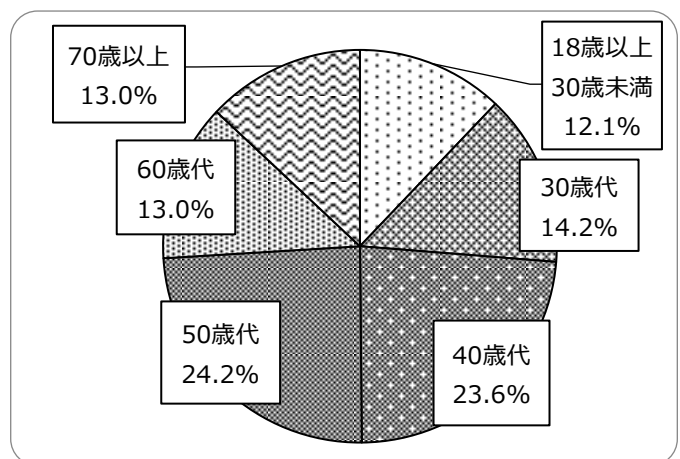
性別

性別		回答数	構成比
1	男性	199	42.3%
2	女性	272	57.7%
計		471	100.0%



年齢層別

年齢層別		回答数	構成比
1	18歳以上30歳未満	57	12.1%
2	30歳代	67	14.2%
3	40歳代	111	23.6%
4	50歳代	114	24.2%
5	60歳代	61	13.0%
6	70歳以上	61	13.0%
計		471	100.0%



1. 上下水道局の取組について

調査結果の概要

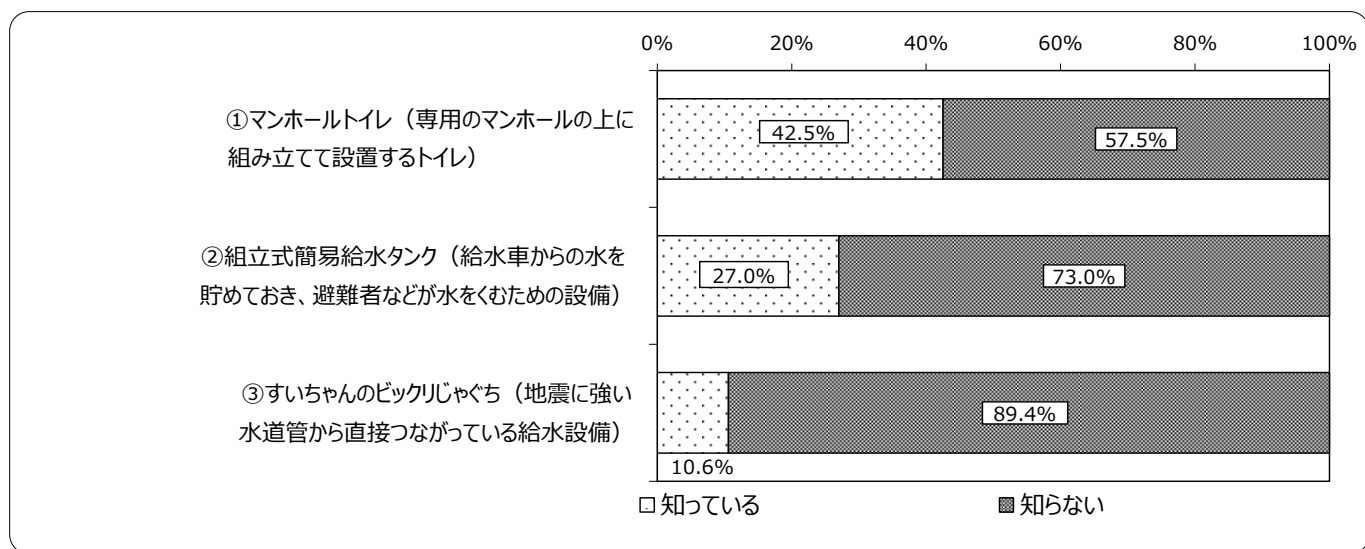
テーマ	上下水道局の取組について
担当課	上下水道局 経営企画室 危機管理・広報広聴担当
設問数	15 問
趣旨・目的	<p>上下水道局では、令和 5 年 2 月に、取り組むべき具体的施策や事業及びそれらのゴールを取りまとめた「堺市上下水道事業経営戦略 2023-2030」を策定し、効果的・効率的で、利用者に信頼される事業運営をめざしています。</p> <p>今回のアンケートは、上下水道事業に関する認知度や満足度を確認し、今後の戦略などに反映させるため、実施するものです。</p>
調査結果	各設問のページをご覧ください。
調査結果に係る 担当課の所見	<ul style="list-style-type: none">・問 1 では、指定避難所にある上下水道の災害対策設備があまり知られていないため、問 14 の結果を参考に、40 歳以上に多く見られている広報さかいや、40 歳未満に多く見られているすいりんを活用した広報を実施します。・問 5 では、スマホアプリ「すいりん」の認知度は、令和 4 年度から 8.1 ポイント上昇したが、まだ認知度は半数を下回っているため、継続した広報を実施します。特に、問 8 では、「ご使用水量のお知らせの裏面」が効果的であるため、引き続き活用します。・問 15 では、どの項目においても、満足していない理由として広報不足が挙げられているため、令和 6 年度は全市民向けの情報誌を発行するなどの広報を実施します。

(1) 災害・地震対策について

問1. 以下の項目は、上下水道局が地震などの災害対策として、指定避難所となる市内すべての小学校に設置している設備です。
これらについて知っていますか。 【各項目：1つ選択】

各項目において、「知っている」と回答した方は、マンホールトイレは 42.5%、組立式簡易給水タンクは 27.0%、すいちゃんのビックリじゃぐち は 10.6%しかいなかった。

選択項目(N=471)	知っている	知らない	計 (回答総数)
①マンホールトイレ (専用のマンホールの上に組み立てて設置するトイレ)	200 42.5%	271 57.5%	471 100.0%
②組立式簡易給水タンク (給水車からの水を貯めておき、避難者などが水をくむための設備)	127 27.0%	344 73.0%	471 100.0%
③すいちゃんのビックリじゃぐち (地震に強い水道管から直接つながっている給水設備)	50 10.6%	421 89.4%	471 100.0%



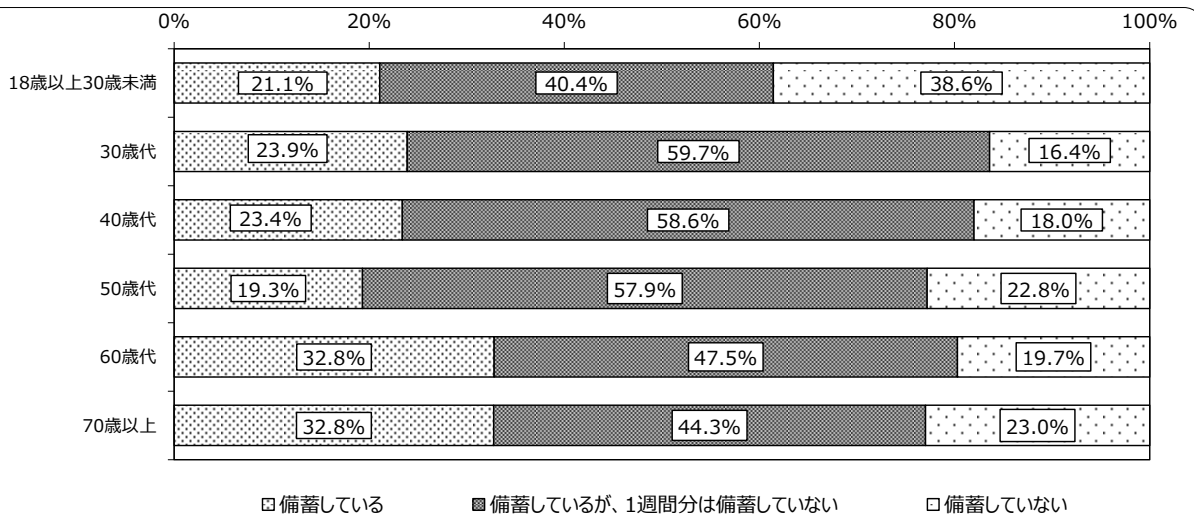
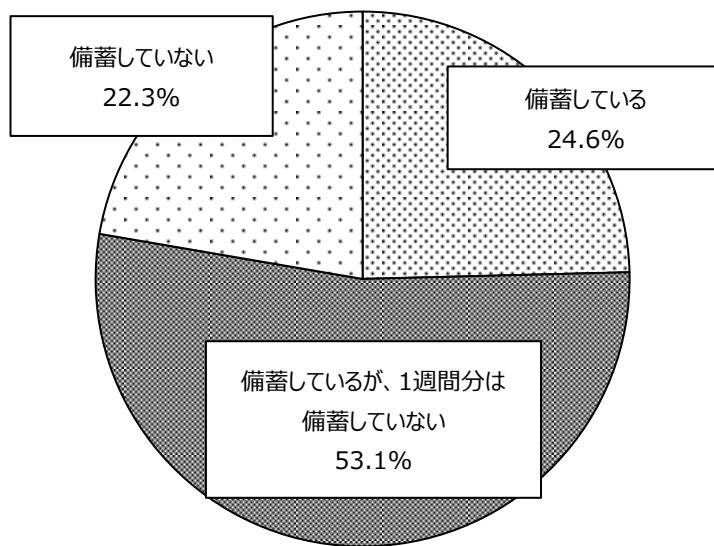
(2) 家庭での備蓄について

問 2. 災害発生に備え、ご家庭で 1 週間程度の飲料水（お茶、ジュースなどを含む）を備蓄していますか。

【1 つ選択】

「備蓄している」と回答した方は 24.6%であり、令和 4 年度の 12.4%から増加した。「備蓄している」と回答した方の割合は 60 歳代と 70 歳以上で一番多く、他年代よりも約 10 ポイント程度高かった。

選択項目 (N=471)		回答数	構成比
1	備蓄している	116	24.6%
2	備蓄しているが、1週間分は備蓄していない	250	53.1%
3	備蓄していない	105	22.3%
計 (回答総数)		471	100.0%



問 3. 問 2 で「2 備蓄はしているが、1 週間分は備蓄していない」または「3 備蓄していない」と回答された方に伺います。

備蓄していない理由は何ですか。

【複数選択可：いくつでも】

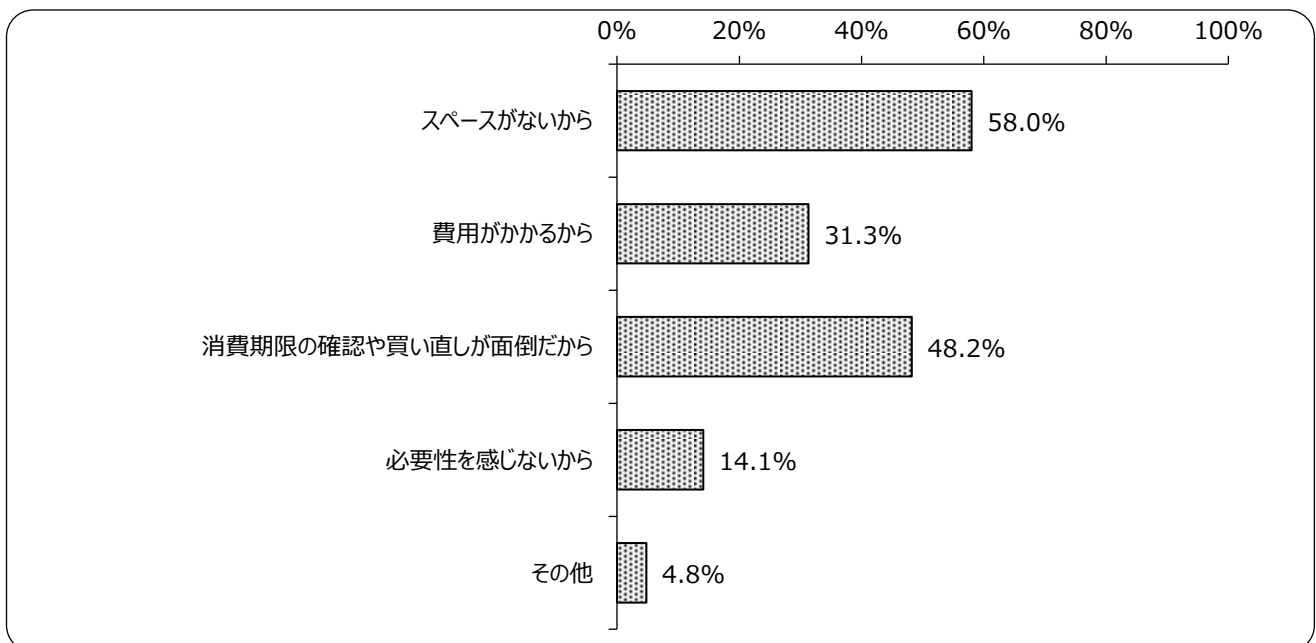
「必要性を感じないから」と回答した方は 14.1%であり、令和 4 年度の 7.1%から増加した。「消費期限の確認や買い直しが面倒だから」と回答した方の割合は 70 歳以上で一番多かった。

	選択項目 (N=355)	回答数	回答数/N
1	スペースがないから	206	58.0%
2	費用がかかるから	111	31.3%
3	消費期限の確認や買い直しが面倒だから	171	48.2%
4	必要性を感じないから	50	14.1%
5	その他	17	4.8%

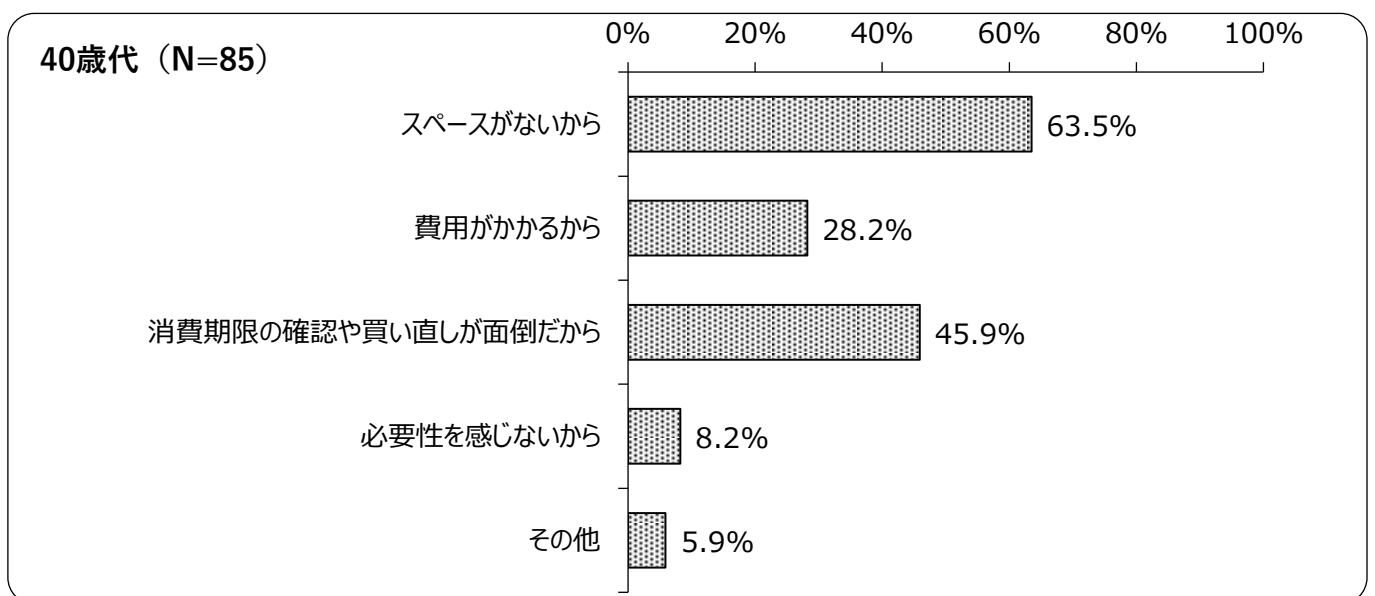
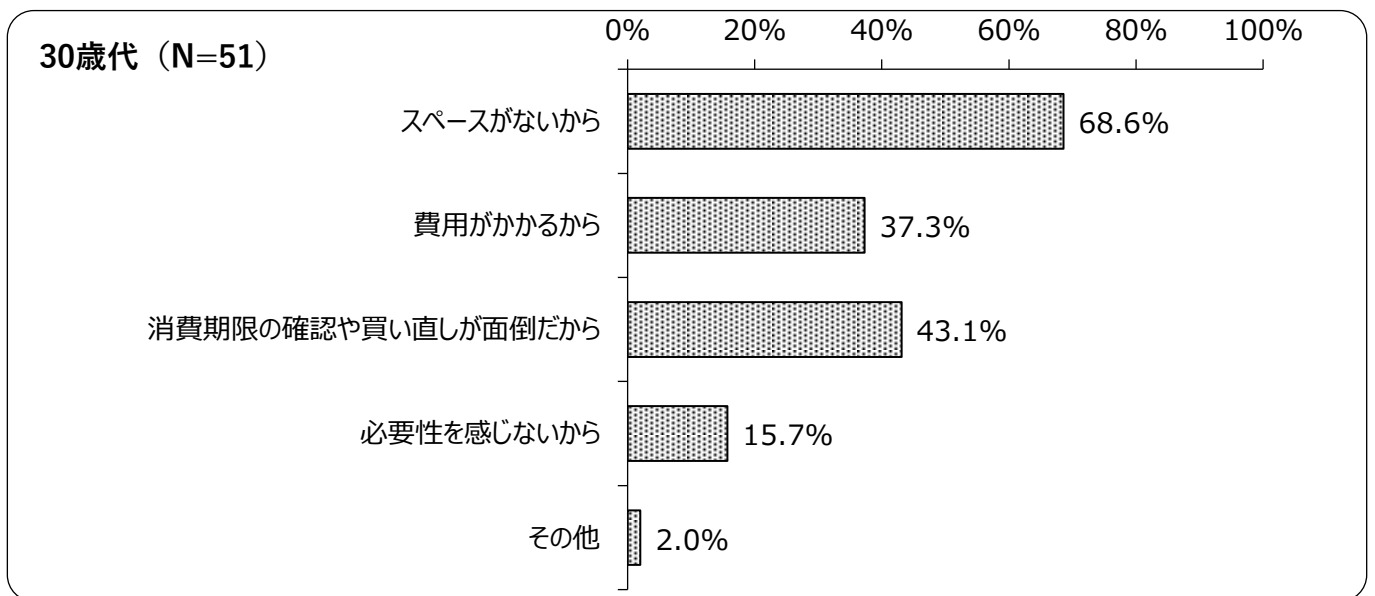
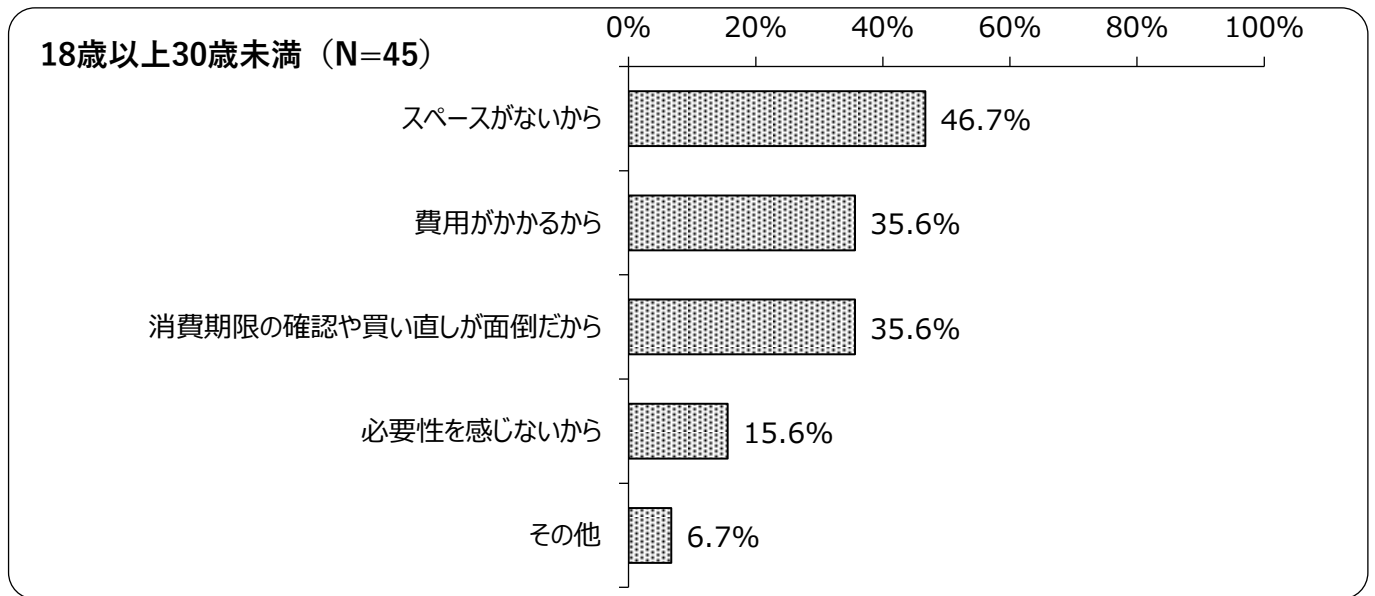
[5 その他]

【主な回答】

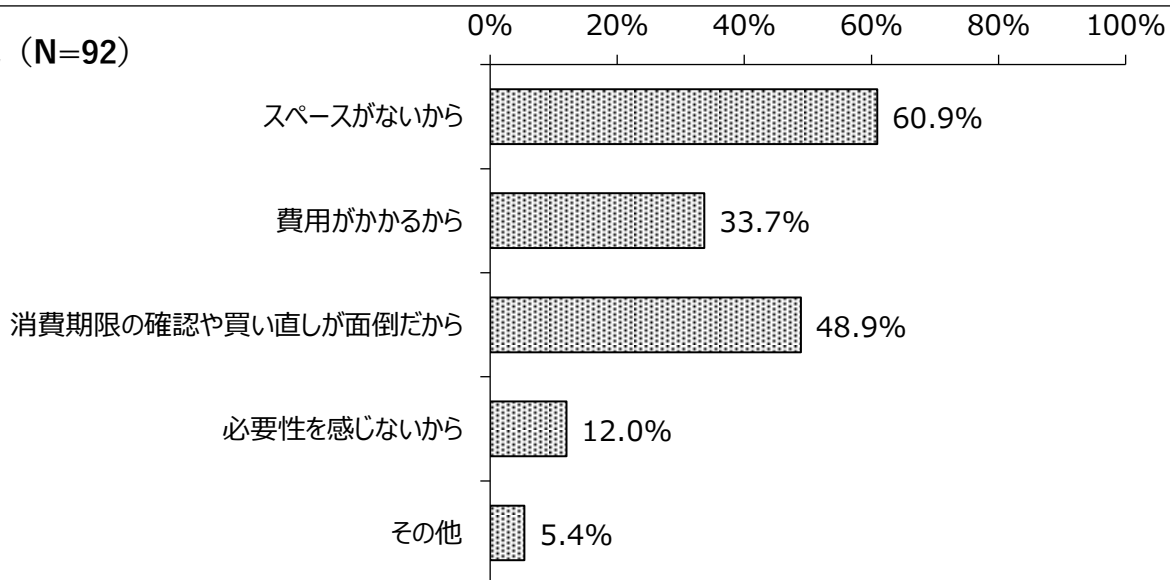
- 一週間以上用意するが、段々と減ってきて、補充するまでの間に不足していることがある。
- 何をどれくらい準備すればいいかわからない。
- 特に何も考えていなかった。
- 市街地に住んでいるので、救援がくる日までの量で良いと考えている。



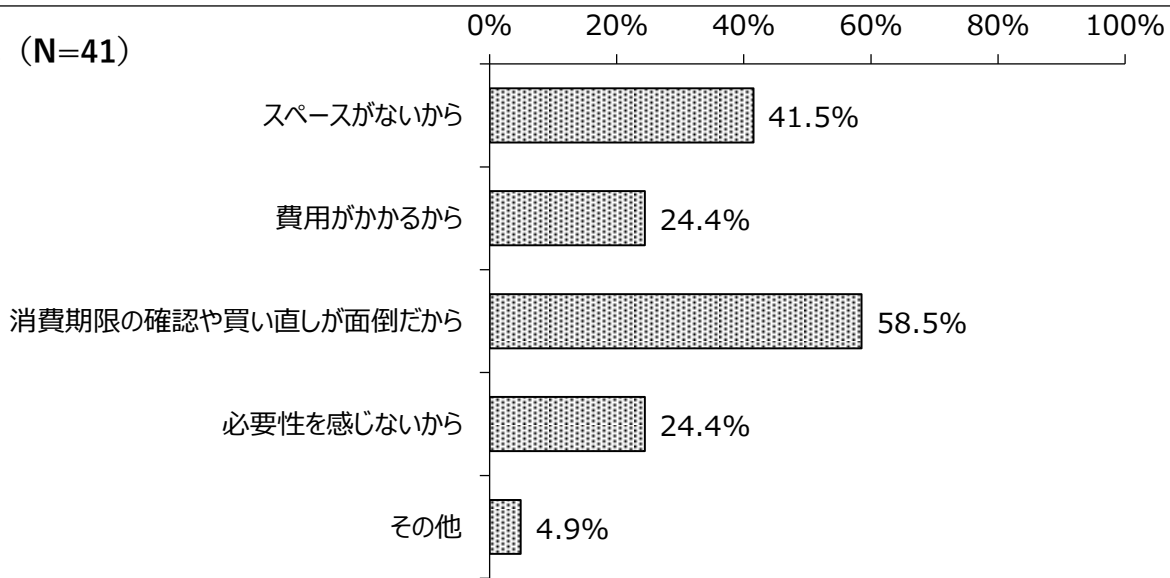
《年齢別》



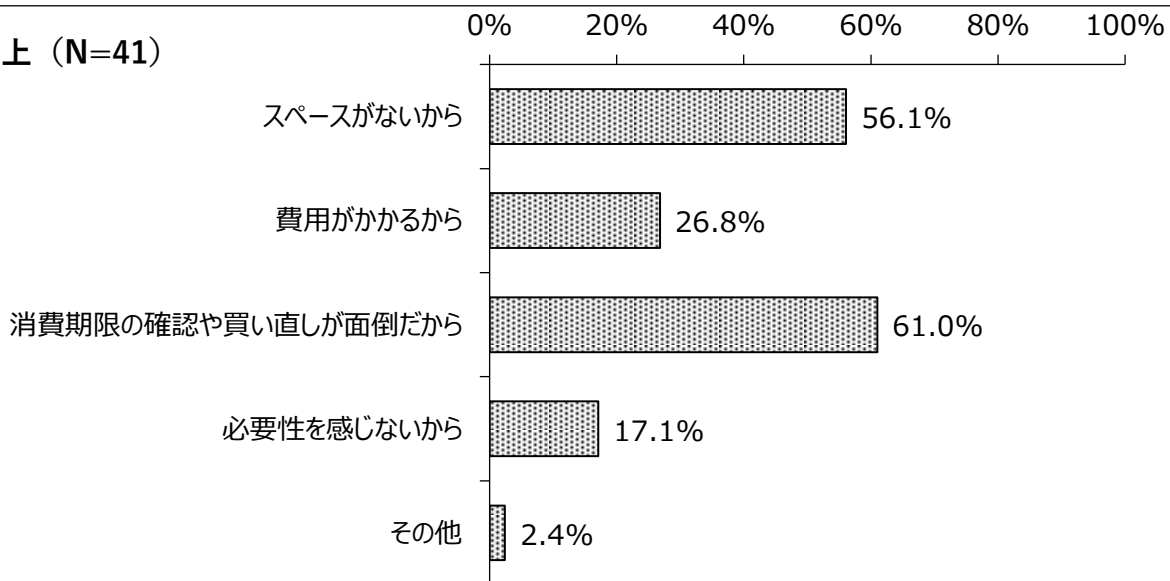
50歳代 (N=92)



60歳代 (N=41)



70歳以上 (N=41)



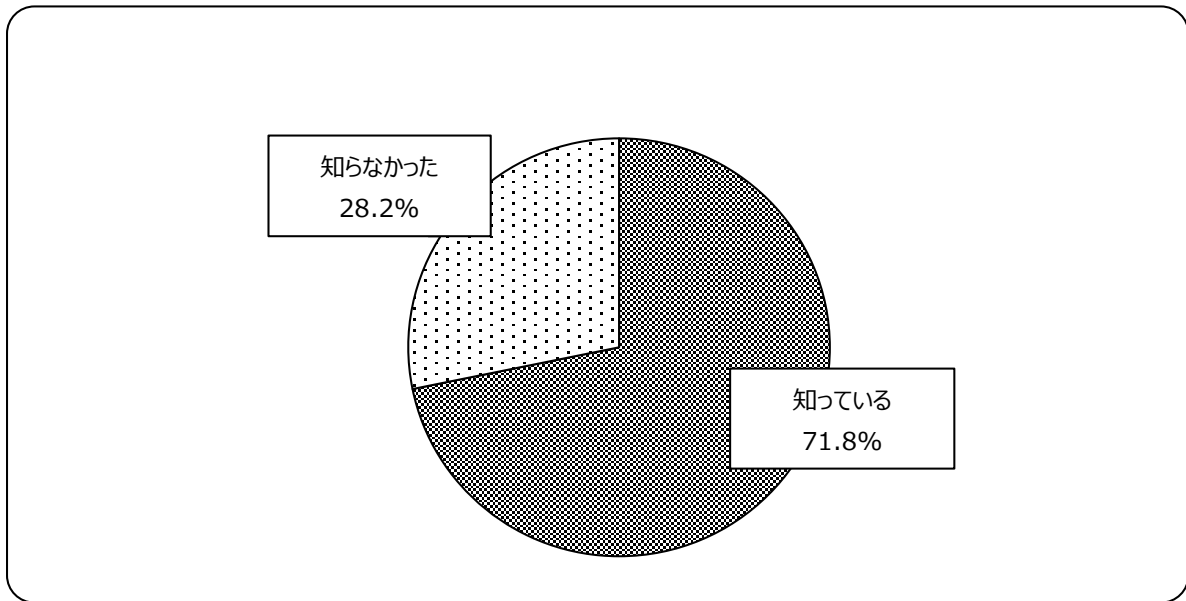
問 4. ローリングストック（※）を知っていますか。

※ローリングストックとは、普段から少し多めに飲料水（お茶、ジュースなどを含む）、食材、加工品を買っておき、使ったら使った分だけ新しく買い足していくことで、常に一定量の食料や飲料水を家に備蓄しておく方法

【1つ選択】

「知っている」と回答した方は 71.8%であり、令和 4 年度の 68.7%から増加した。

	選択項目 (N=471)	回答数	構成比
1	知っている	338	71.8%
2	知らなかった	133	28.2%
	計 (回答総数)	471	100.0%

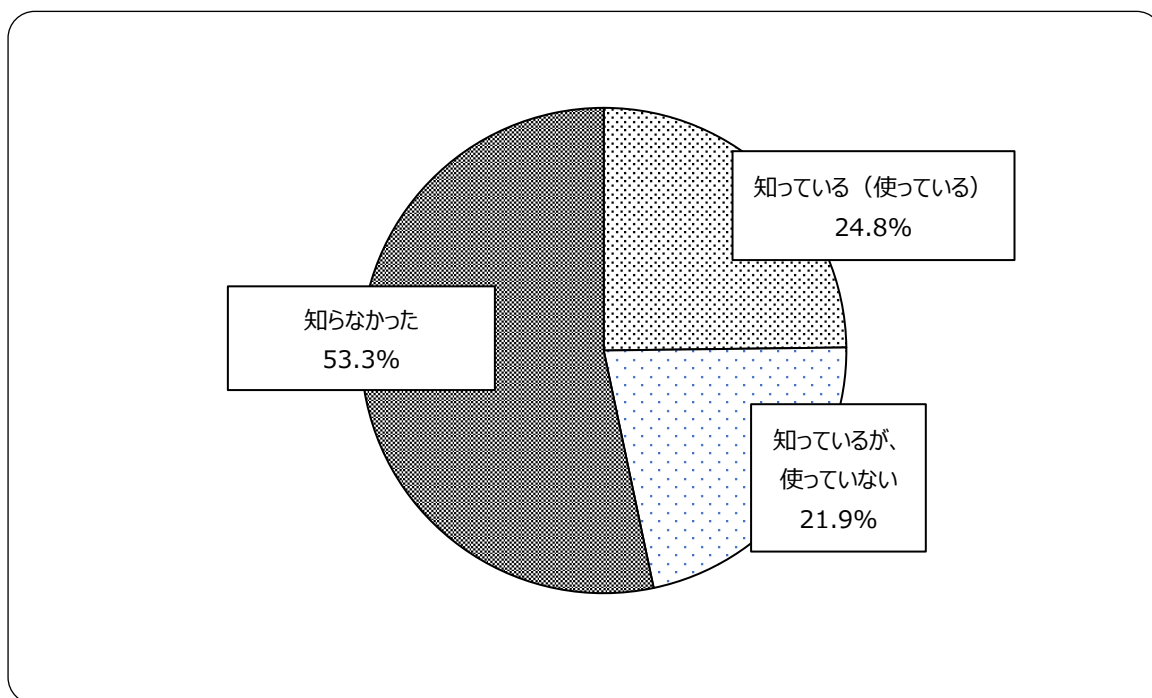


(3) 上下水道局スマホアプリ「すいりん」について

問 5. 令和 3 年 2 月から運用を開始した上下水道局スマホアプリ「すいりん」は、過去 2 年分の水量や水道料金などの確認、ペーパーレス決済、クレジット決済の申込みができる便利なアプリです。
「すいりん」を知っていますか。 【1 つ選択】

「知らなかった」と回答した方は 53.3%であり、令和 4 年度の 61.4%から減少した。また、「知っているが、使っていない」と回答した方は 21.9%であり、令和 4 年度の 18.7%から増加した。

	選択項目 (N=471)	回答数	構成比
1	知っている (使っている)	117	24.8%
2	知っているが、使っていない	103	21.9%
3	知らなかった	251	53.3%
	計 (回答総数)	471	100.0%



問 6. 問 5 で「1 知っている（使っている）」と回答された方に伺います。

上下水道局スマホアプリ「すいりん」を使っている理由は何ですか。

【複数選択可：いくつでも】

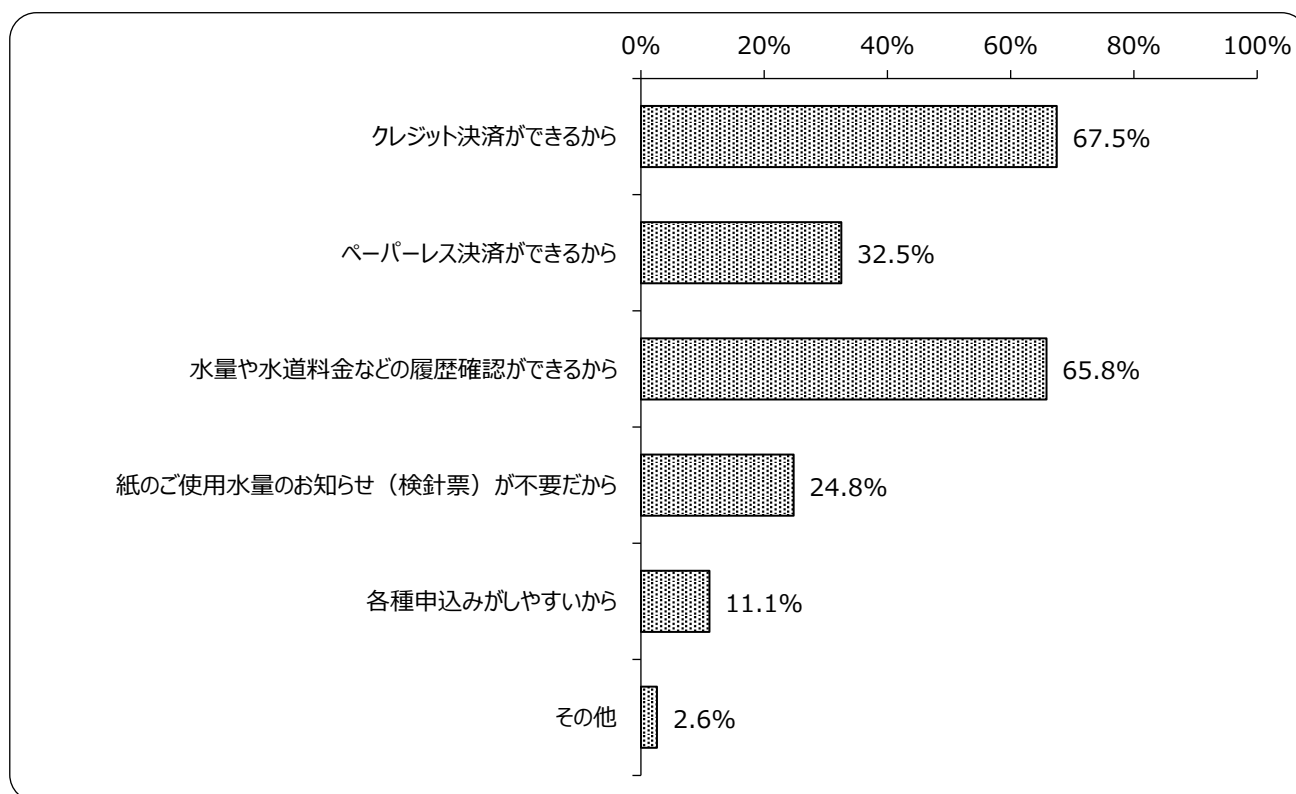
「クレジット決済ができるから」と回答した方は 67.5%であり、令和 4 年度の 73.1%から減少した。「ペーパーレス決済ができるから」と回答した方は 32.5%であり、令和 4 年度の 21.5%から増加した。

	選択項目 (N=117)	回答数	回答数/N
1	クレジット決済ができるから	79	67.5%
2	ペーパーレス決済ができるから	38	32.5%
3	水量や水道料金などの履歴確認ができるから	77	65.8%
4	紙のご使用水量のお知らせ（検針票）が不要だから	29	24.8%
5	各種申込みがしやすいから	13	11.1%
6	その他	3	2.6%

[6 その他]

【主な回答】

- 大規模漏水等の時に上下水道局から連絡が届くのが良い。



問 7. 問 5 で「2 知っているが、使っていない」と回答された方に伺います。

上下水道局スマホアプリ「すいりん」を使っていない理由は何ですか。

【複数選択可：いくつでも】

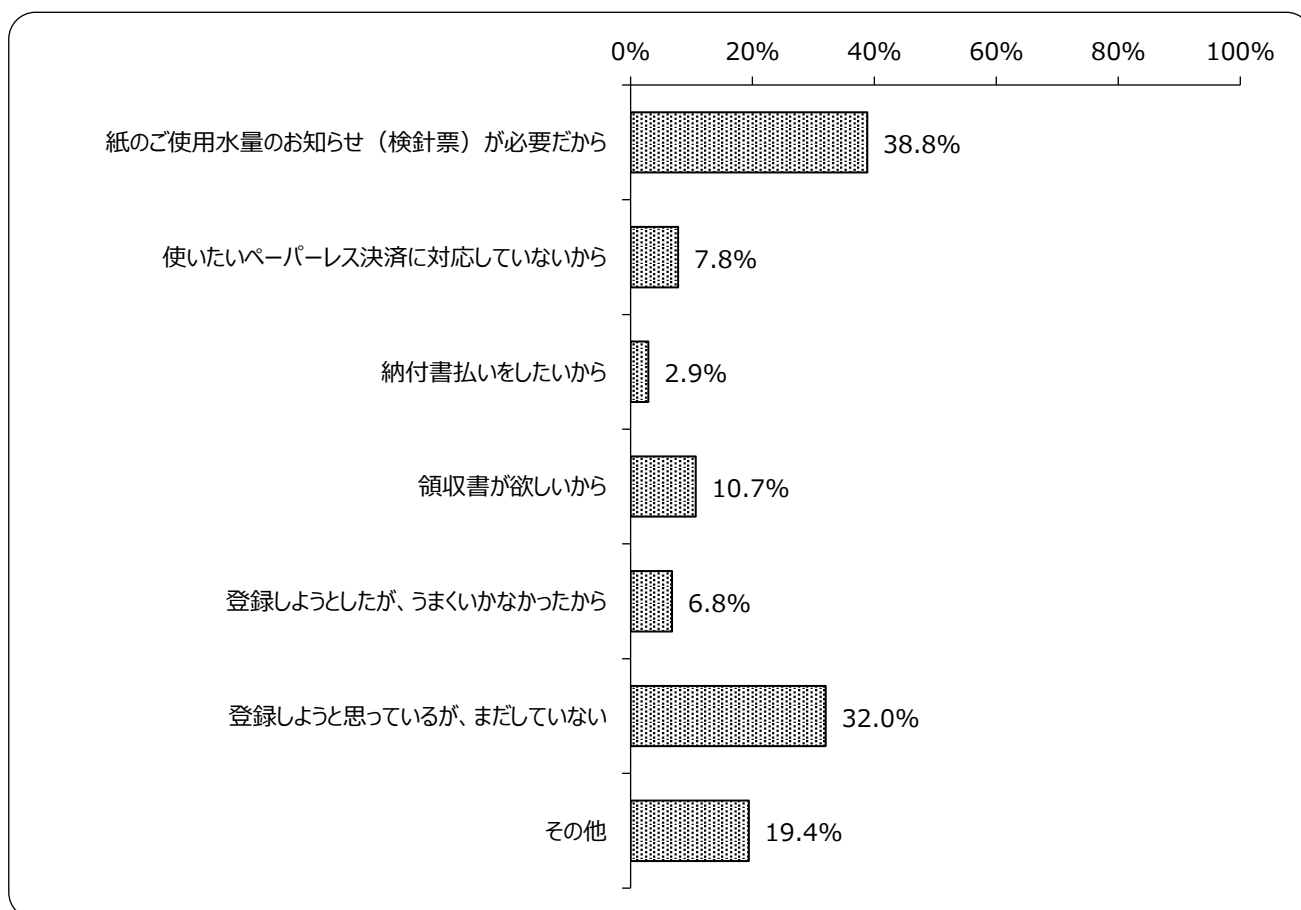
「紙のご使用水量のお知らせ（検針票）が必要だから」と回答した方は 38.8%であり、令和 4 年度の 29.9%から増加した。

	選択項目 (N=103)	回答数	回答数/N
1	紙のご使用水量のお知らせ（検針票）が必要だから	40	38.8%
2	使いたいペーパーレス決済に対応していないから	8	7.8%
3	納付書払いをしたいから	3	2.9%
4	領収書が欲しいから	11	10.7%
5	登録しようとしたが、うまくいかなかったから	7	6.8%
6	登録しようと思っているが、まだしていない	33	32.0%
7	その他	20	19.4%

[7 その他]

【主な回答】

- スマートフォンアプリを増やしたくない。
- スマートフォンアプリが苦手。
- 水道代込みで家賃を払っているため



問 8. 問 5 で「1 知っている（使っている）」、「2 知っているが、使っていない」と回答された方に伺います。
 上下水道局スマホアプリ「すいりん」を何で知りましたか。 【複数選択可：いくつでも】

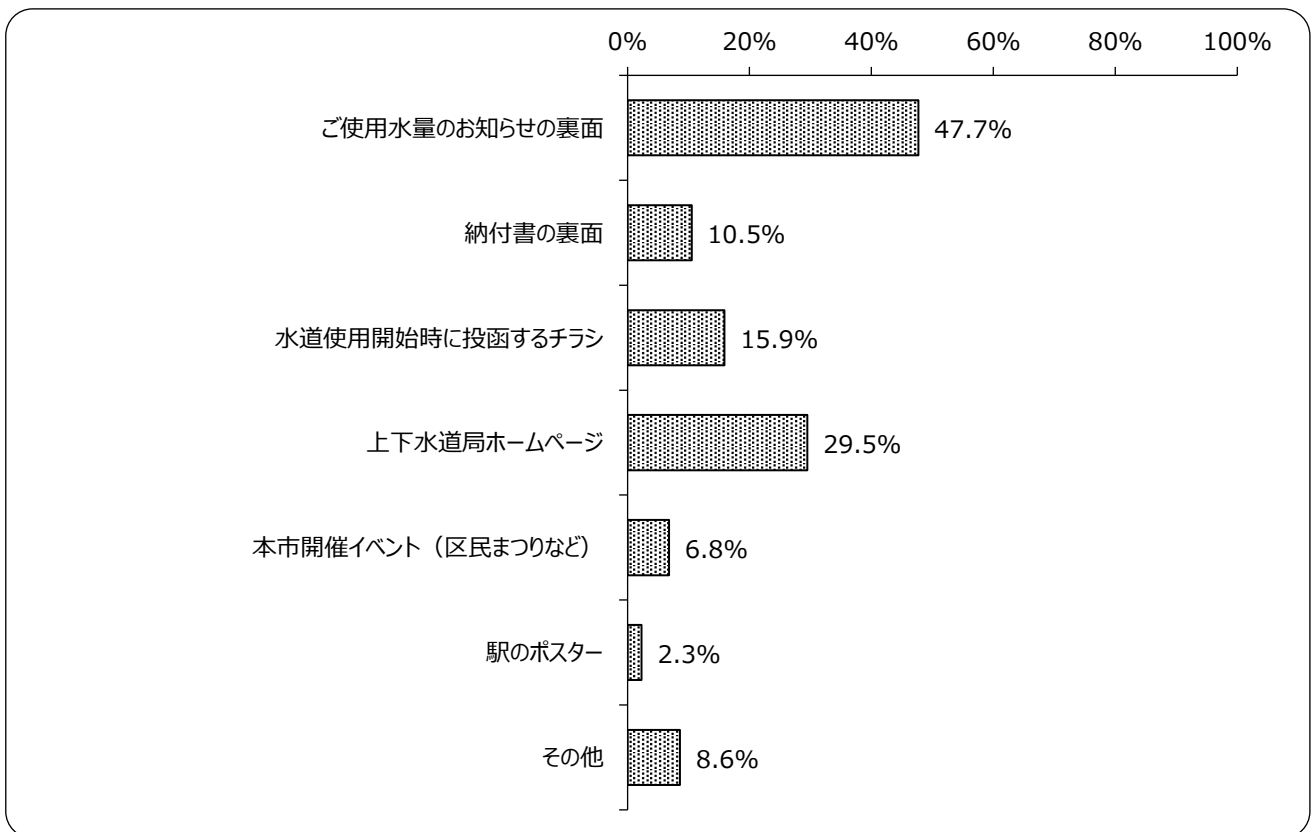
「ご使用水量のお知らせの裏面」と回答した方は約 5 割であった。「水道使用開始時に投函するチラシ」についても、水道開始時のみ投函しているという限定的な条件であることを加味すると、高い効果があったと考える。

	選択項目 (N=220)	回答数	回答数/N
1	ご使用水量のお知らせの裏面	105	47.7%
2	納付書の裏面	23	10.5%
3	水道使用開始時に投函するチラシ	35	15.9%
4	上下水道局ホームページ	65	29.5%
5	本市開催イベント（区民まつりなど）	15	6.8%
6	駅のポスター	5	2.3%
7	その他	19	8.6%

[7 その他]

【主な回答】

- 広報さかい
- スーパーマーケット等のキャンペーン
- 知人からの情報



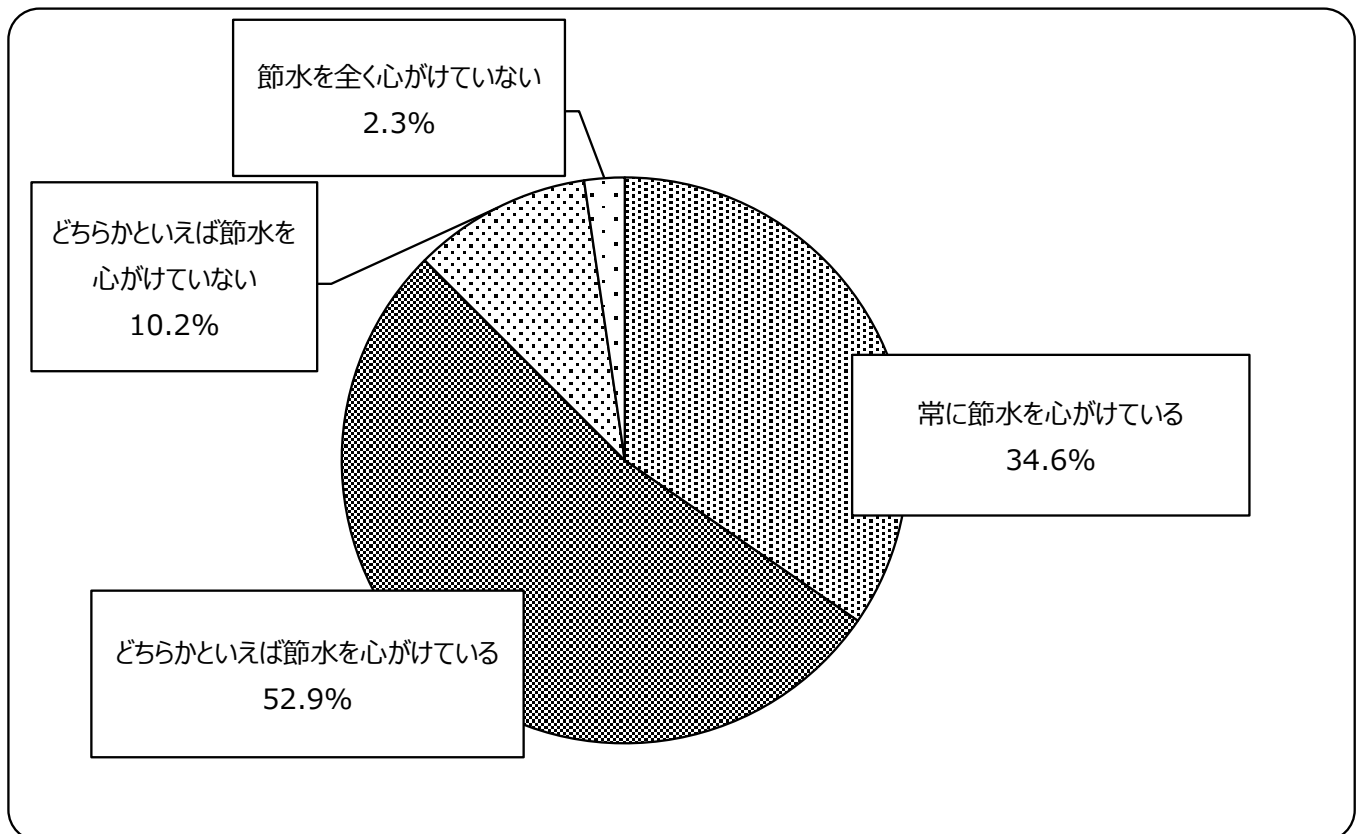
(4) 節水意識について

問 9. 節水についてどの程度心がけていますか。

【1つ選択】

「常に節水を心がけている」、「どちらかといえば節水を心がけている」と回答した方の合計は 87.5%であり、節水を心がけている方が大部分となった。

	選択項目 (N=471)	回答数	構成比
1	常に節水を心がけている	163	34.6%
2	どちらかといえば節水を心がけている	249	52.9%
3	どちらかといえば節水を心がけていない	48	10.2%
4	節水を全く心がけていない	11	2.3%
	計 (回答総数)	471	100.0%



**問 10. 問 9 で「1 常に節水を心がけている」、「2 どちらかといえば節水を心がけている」と回答された方に伺います。
 節水に心がけている理由は何ですか。 【複数選択可：いくつでも】**

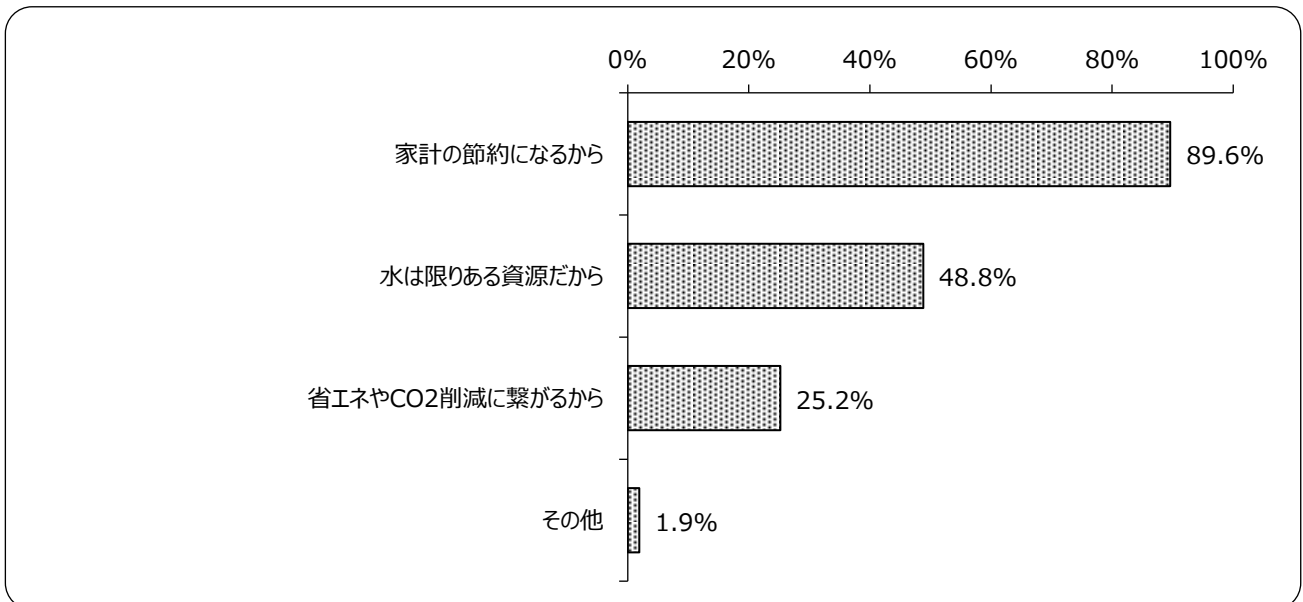
「家計の節約になるから」と回答した方は約 9 割であり、家計の節約を意識し、節水に取り組まれている方が大部分となった。

	選択項目 (N=412)	回答数	回答数/N
1	家計の節約になるから	369	89.6%
2	水は限りある資源だから	201	48.8%
3	省エネやCO2削減に繋がるから	104	25.2%
4	その他	8	1.9%

[4 その他]

【主な回答】

- 最近琵琶湖の水位が気になっているから
- 水道料金が高い。



**問 11. 問 9 で「1 常に節水を心がけている」、「2 どちらかといえば節水を心がけている」と回答された方に伺います。
節水のために、どのようなことに取り組んでいますか。 【複数選択可：いくつでも】**

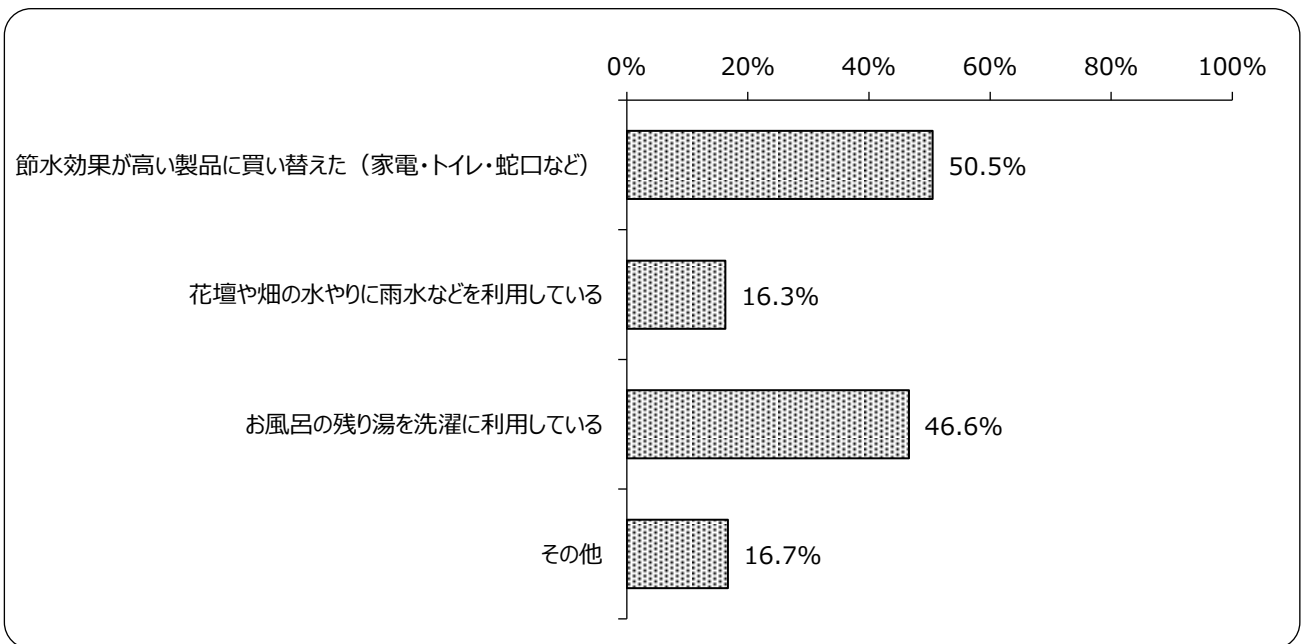
「節水効果が高い製品に買い替えた（家電・トイレ・蛇口など）」、「お風呂の残り湯を洗濯に利用している」と回答した方はそれぞれ約 5 割であり、節水器具の導入や水の再利用に取り組んでいる方が多かった。

	選択項目 (N=412)	回答数	回答数/N
1	節水効果が高い製品に買い替えた（家電・トイレ・蛇口など）	208	50.5%
2	花壇や畑の水やりに雨水などを利用している	67	16.3%
3	お風呂の残り湯を洗濯に利用している	192	46.6%
4	その他	69	16.7%

[4 その他]

【主な回答】

- 水を出しっぱなしにしない。
- こまめに蛇口を閉める。
- 水量を調整して出す。
- シャワーの使用時間を短くする。
- コメのとき汁を水やりに利用している。

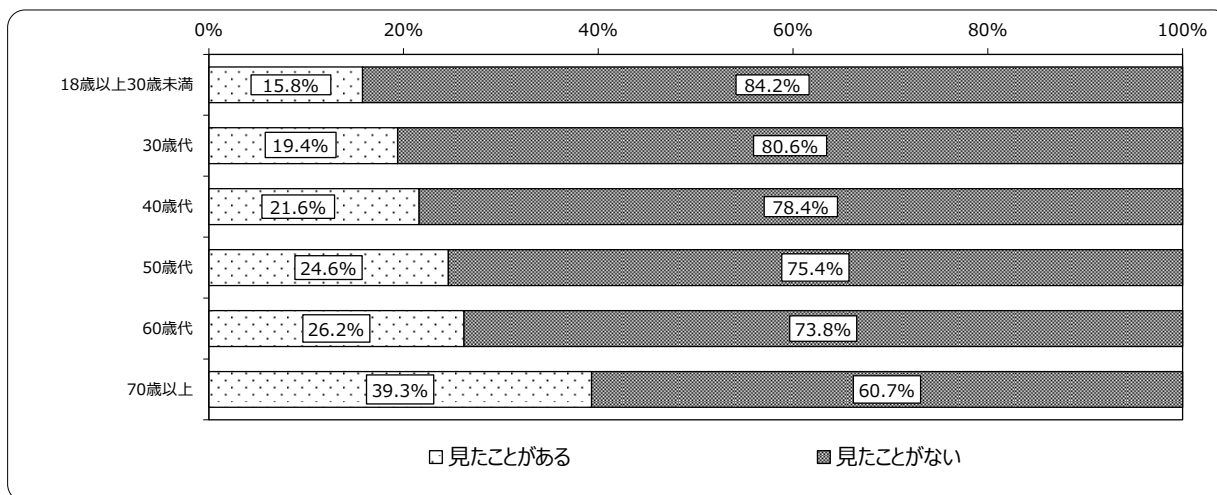
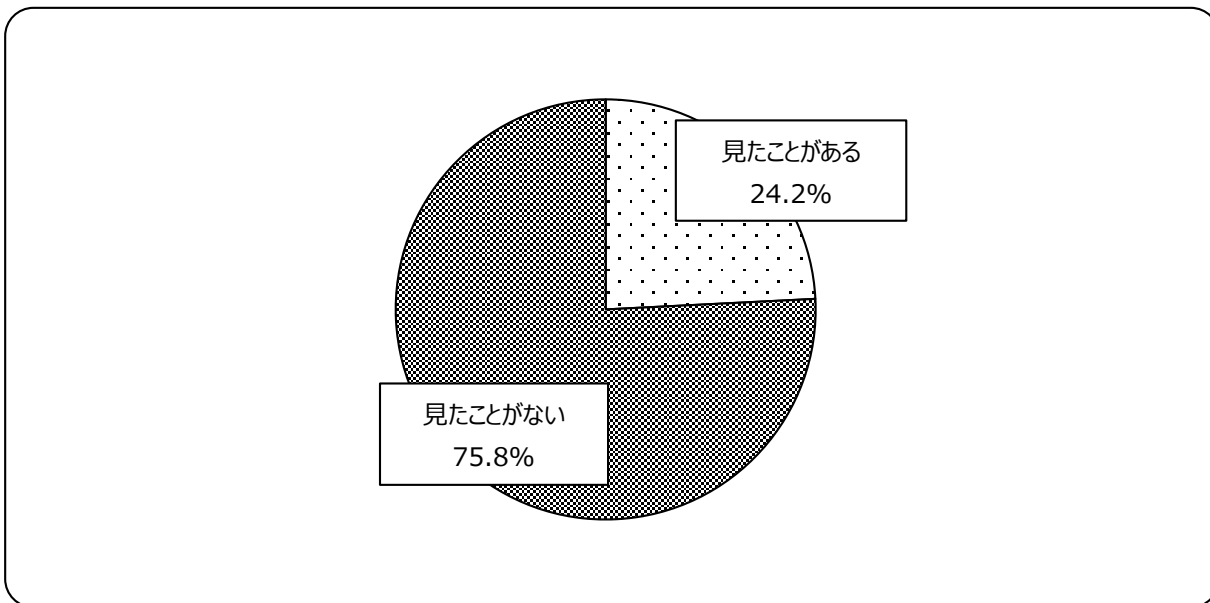


(5) 上下水道局ホームページについて

問 12. 上下水道局のホームページは、市ホームページとは別に独自で運用しており、水道や下水道のご使用に関するお知らせのほか、事故や災害時の緊急情報（断水・濁水の発生、給水拠点の場所）などについて情報発信しています。今までに、上下水道局のホームページをご覧になったことはありますか。 【1つ選択】

「見たことがある」と回答した方は 24.2%であり、令和 4 年度の 20.4%から増加した。「見たことがある」と回答した方の割合は 70 歳以上で一番多く、18 歳以上 30 歳未満で一番少なかった。

選択項目 (N=471)		回答数	構成比
1	見たことがある	114	24.2%
2	見たことがない	357	75.8%
計 (回答総数)		471	100.0%



(6) LINE のメッセージ頻度について

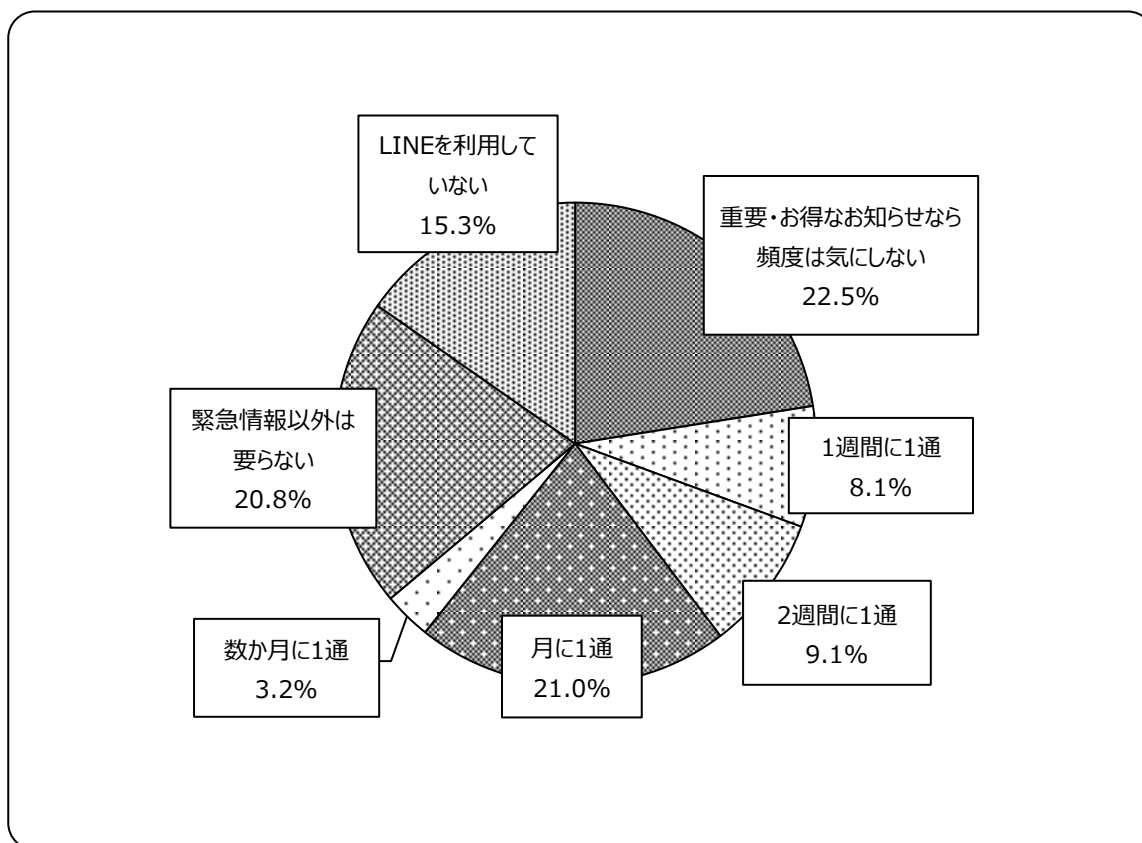
問 13. 上下水道局 LINE では、災害や漏水事故など発生時の緊急情報以外に、取組やイベント、料金に関するお知らせをすることがあります。

友だち登録を継続しようと思う適度なメッセージ頻度はどの程度ですか。

【1つ選択】

「重要・お得なお知らせなら頻度は気にしない」、「月に1通」、「緊急情報以外は要らない」と回答した方が、それぞれ約2割となった。

	選択項目 (N=471)	回答数	構成比
1	重要・お得なお知らせなら	106	22.5%
2	1週間に1通	38	8.1%
3	2週間に1通	43	9.1%
4	月に1通	99	21.0%
5	数か月に1通	15	3.2%
6	緊急情報以外は要らない	98	20.8%
7	LINEを利用していない	72	15.3%
	計 (回答総数)	471	100.0%



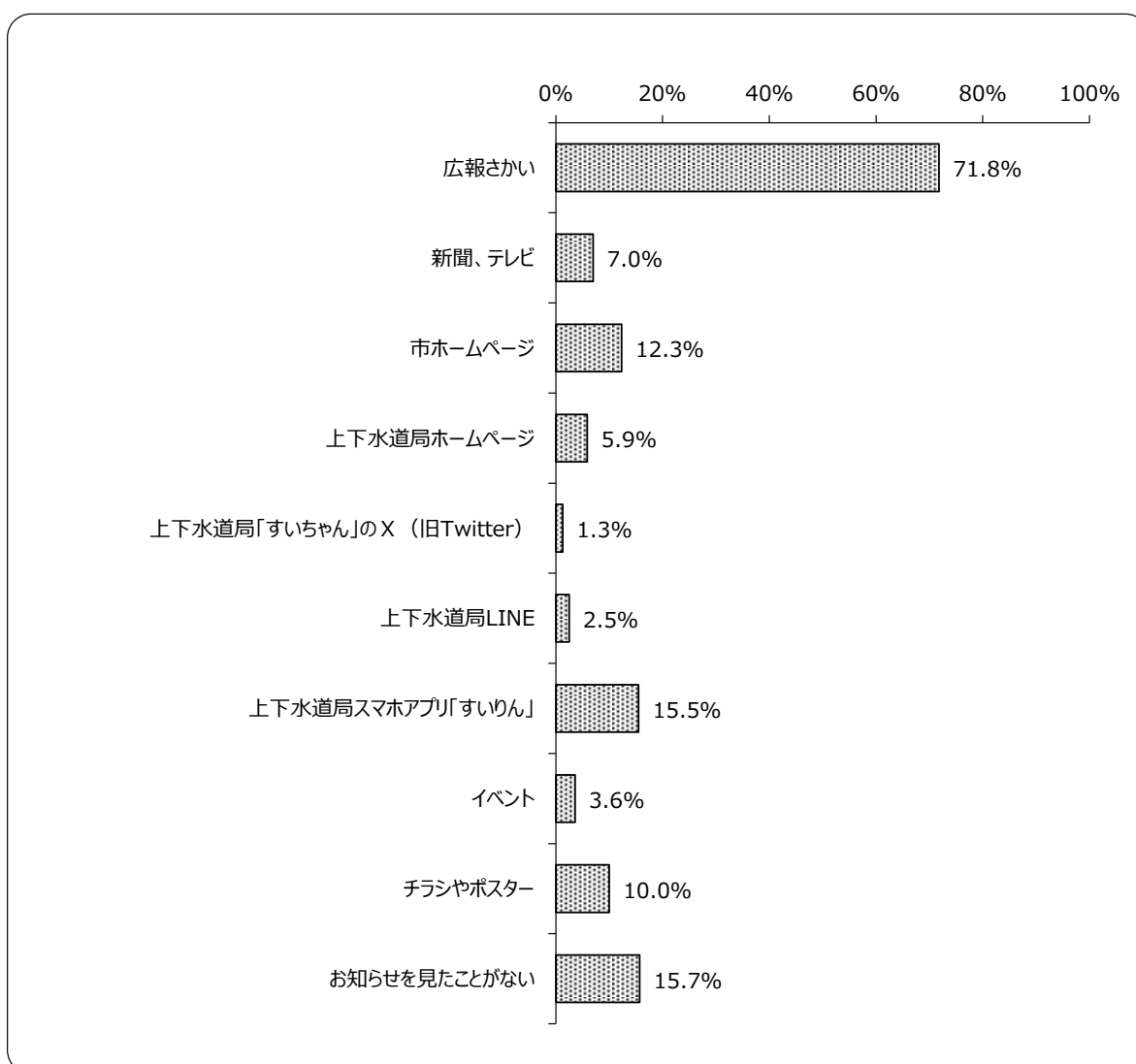
(7) 上下水道局からのお知らせについて

問 14. 上下水道局からのお知らせなどについて、どこから情報を得ていますか。

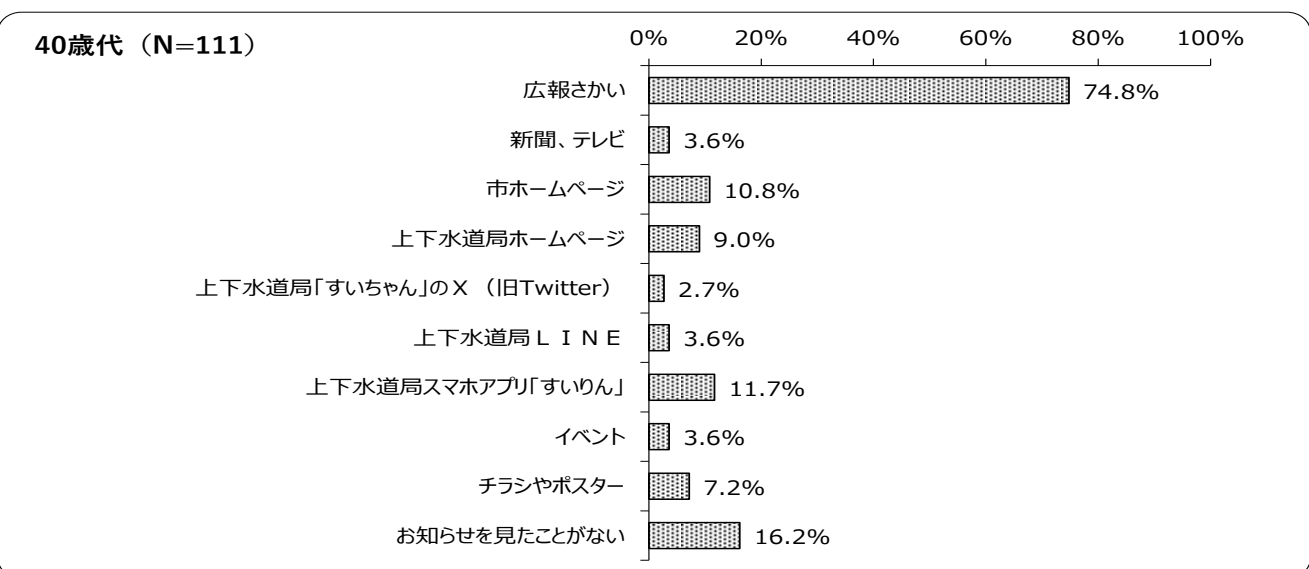
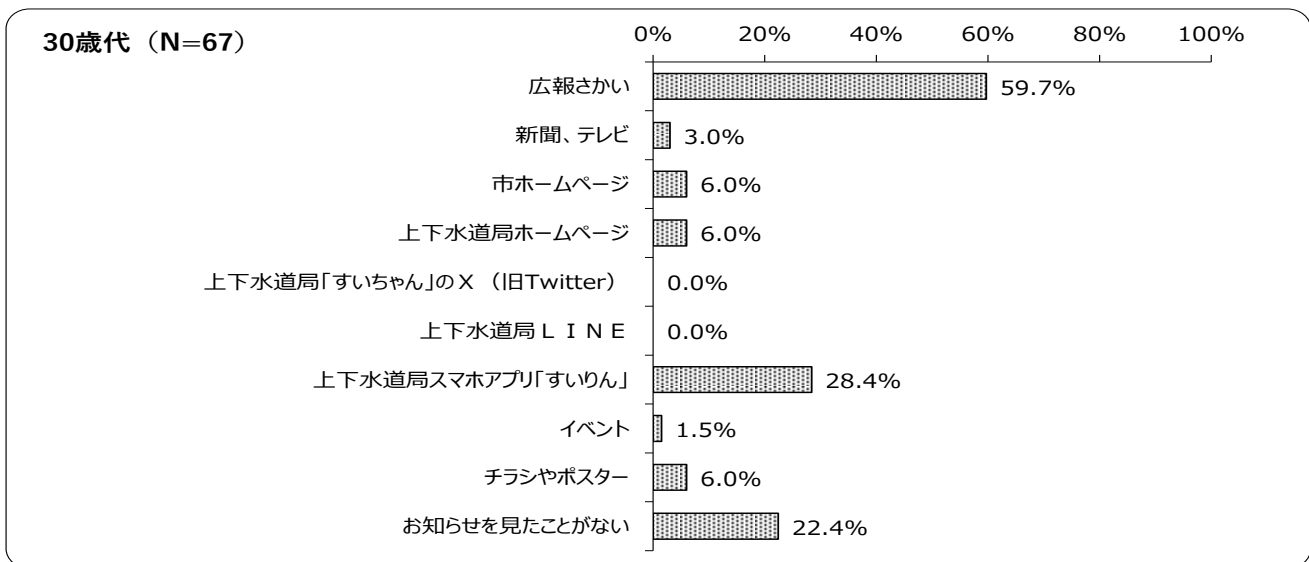
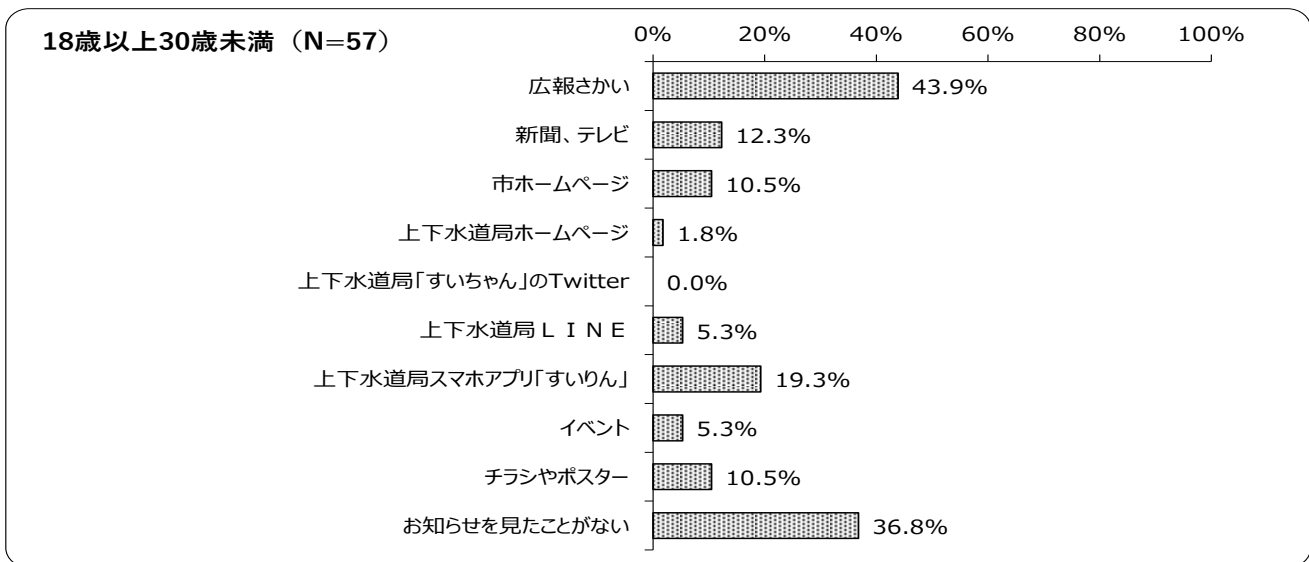
【複数選択可：いくつでも】

「広報さかい」と回答した方の割合は40歳以上で多く、「上下水道局スマホアプリ「すいりん」と回答した方の割合は30歳代が多かった。

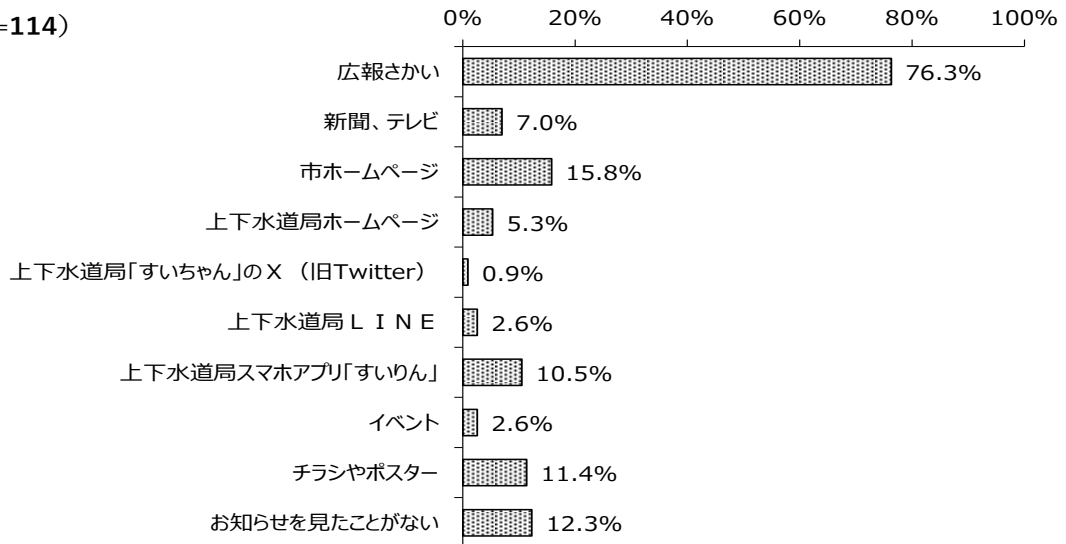
	選択項目 (N=471)	回答数	回答数/N
1	広報さかい	338	71.8%
2	新聞、テレビ	33	7.0%
3	市ホームページ	58	12.3%
4	上下水道局ホームページ	28	5.9%
5	上下水道局「すいちゃん」のX (旧Twitter)	6	1.3%
6	上下水道局LINE	12	2.5%
7	上下水道局スマホアプリ「すいりん」	73	15.5%
8	イベント	17	3.6%
9	チラシやポスター	47	10.0%
10	お知らせを見たことがない	74	15.7%



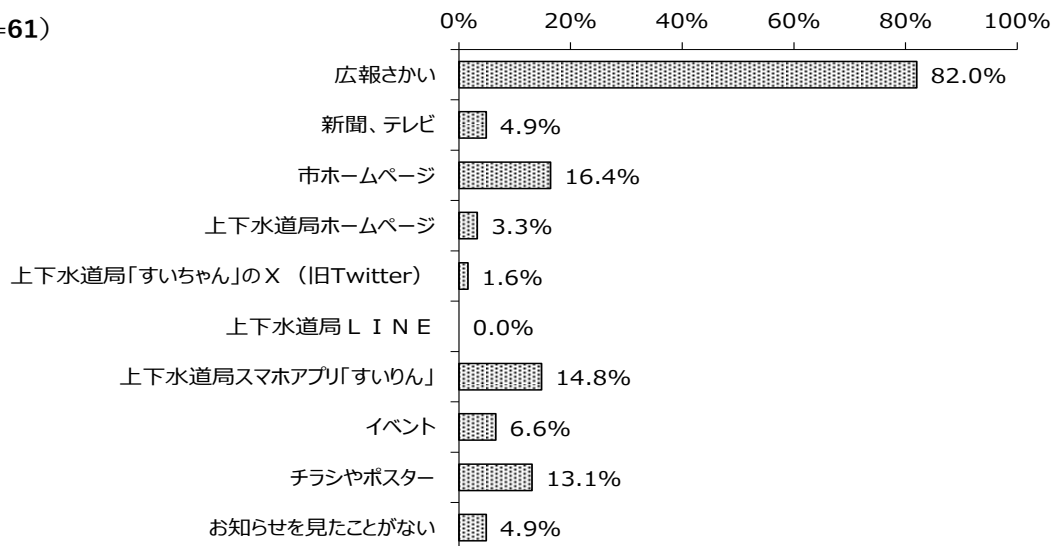
《年齢別》



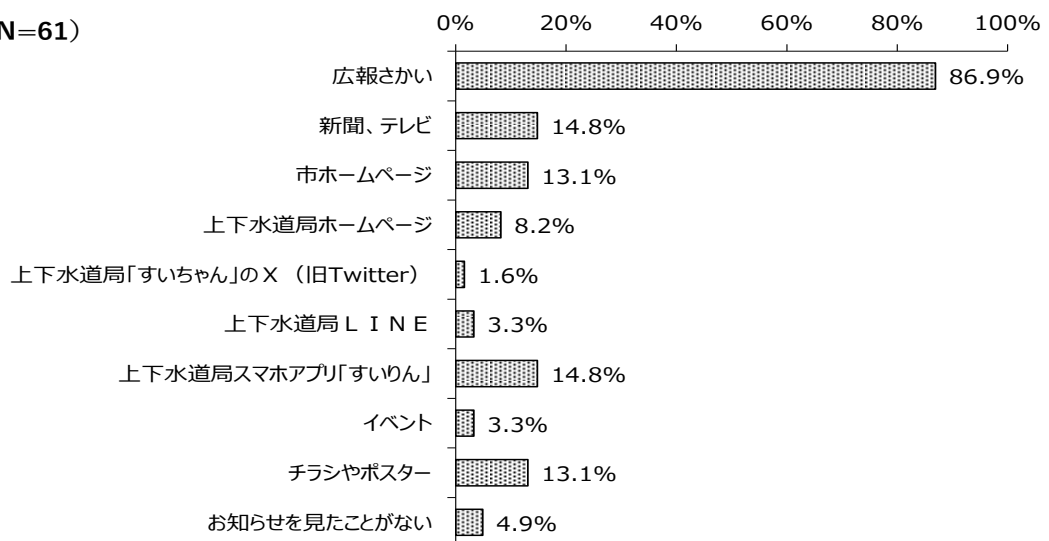
50歳代 (N=114)



60歳代 (N=61)



70歳以上 (N=61)



(8) 上下水道局の取組の満足度について

問 15. 上下水道局では、これまでの設問に記載している取組や啓発を行っていますが、これらの取組などの中で、満足していないものはありますか。
満足していない理由も記入してください。 【複数選択可：いくつでも】

「特にない」と回答した方は 8 割となった。

	選択項目 (N=471)	回答数	回答数/N
1	検針・工事など身近な上下水道	24	5.1%
2	災害・地震対策	21	4.5%
3	経営	42	8.9%
4	広報・広聴	17	3.6%
5	水道水の安全性	24	5.1%
6	特にない	377	80.0%

【主な回答】

〔1 理由〕

- 上下水道管等の老朽化が心配。
- 2 か月分の支払いではなく、毎月がよい。
- 必要な工事を本当に実施しているのか分からない。
- 上下水道配管交換工事の先進技術への研究的取組に挑んでほしい。

〔2 理由〕

- 災害対策として具体的に何をしているのか分からない。
- 上下水道管の耐震化が遅れている。

〔3 理由〕

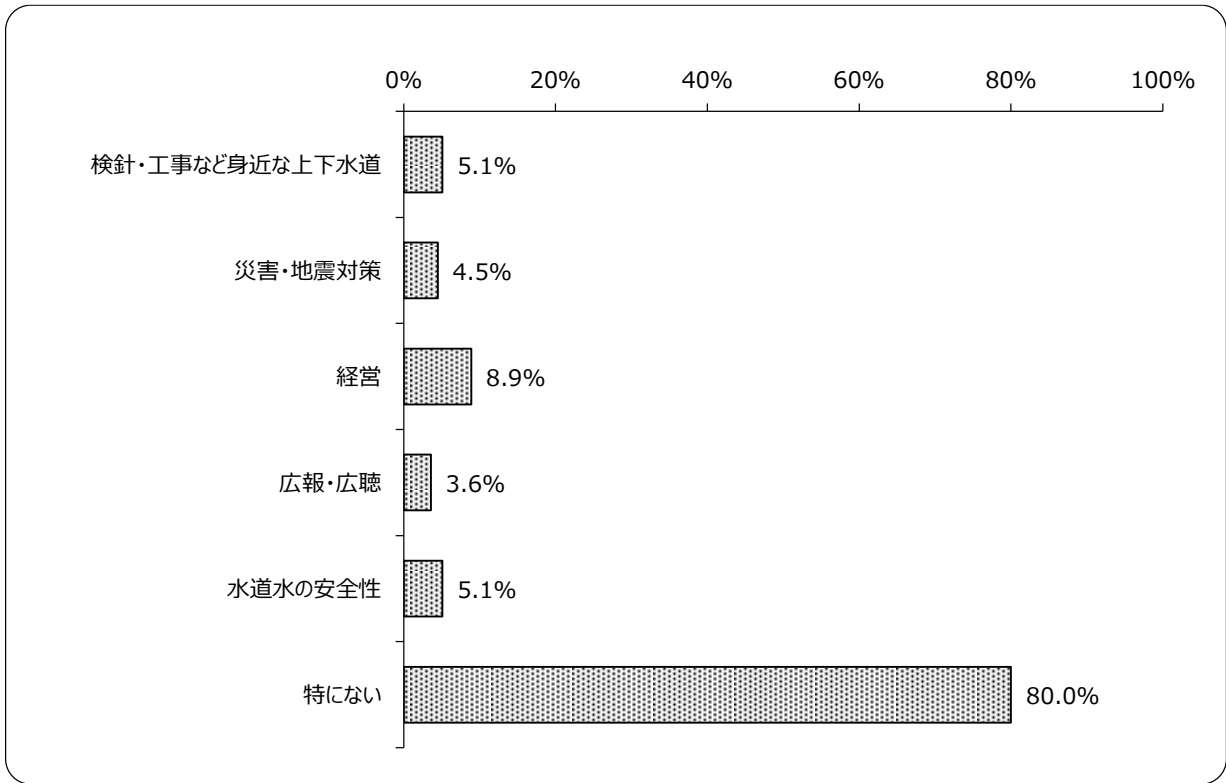
- 大阪府内の水道事業統合を進めてほしい。
- 経営状況が広く周知されていない。
- 花木への水やりをたくさんしているのに、水道の使用量を下水の排出量とみなして、下水道使用料を請求されることに納得がいかない。
- 水道料金が高い。

〔4 理由〕

- インパクトがない。
- PR が少なく、何も伝わってこない。
- どこから情報を得られるのか分からない。

〔5 理由〕

- 水道水が安全であることをもっと PR してほしい。
- 水道水が美味しくない。
- 水道水の安全性が信じられない。
- 配水場から家までの水道管の劣化や内部塗装による影響が不安。



2. 里親制度に関する意識調査・広報啓発について

調査結果の概要

テーマ	里親制度に関する意識調査・広報啓発について
担当課	子ども青少年局 子ども青少年育成部 子ども家庭課
設問数	7 問
趣旨・目的	今回のアンケートでは、市民の皆様により親制度がどれだけ知られているか、また、本市が行う里親制度の広報啓発活動について、市民の皆様の意識や意見を基に、今後の里親制度の啓発、新規里親開拓の充実に活用したいと考えています。
調査結果	各設問のページをご覧ください。
調査結果に係る 担当課の所見	<ul style="list-style-type: none"> ・問 16 では、里親制度を「知っている」と回答した方が、令和 4 年度と比較すると、6.4 ポイント上昇している。「知っている」の回答に占める年代の割合で見ると、「40 歳代」で 1.7 ポイント上昇し、「50 歳代」で 6.2 ポイント上昇している。これらから、令和 4 年度からの取組が、「40 歳代」及び「50 歳代」に訴求したと考えられます。 ・問 18 では、「広報さかい」と回答した方が、令和 4 年度と比較すると、19.8 ポイントも上昇していることから、有用な広報手段であるため、訴求の効果が高いと伺えます。 <p>また、「40 歳代」の方の割合が大きいのには、「市役所・区役所内でのパネル展などの展示やイベント」や「大型ショッピングモール内でのパネル展などの展示やイベント」であることから、ターゲット層とする「40 歳代」への更なる訴求のため、これらのパネル展示やイベント実施回数を増やすなどの取組を強化する必要があります。</p>

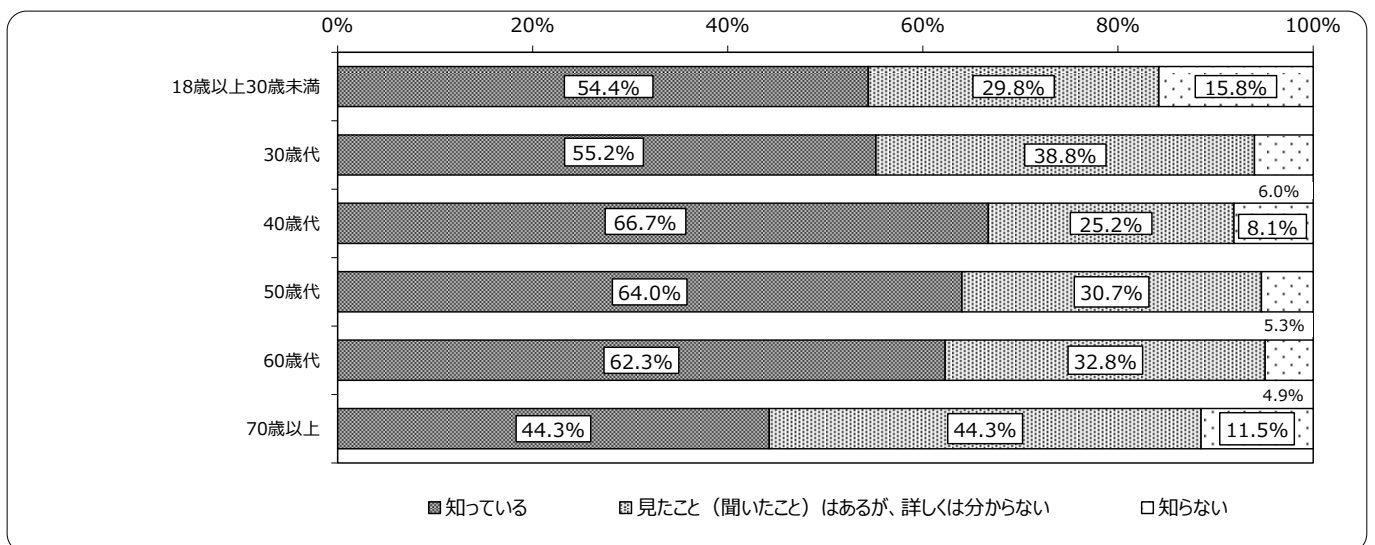
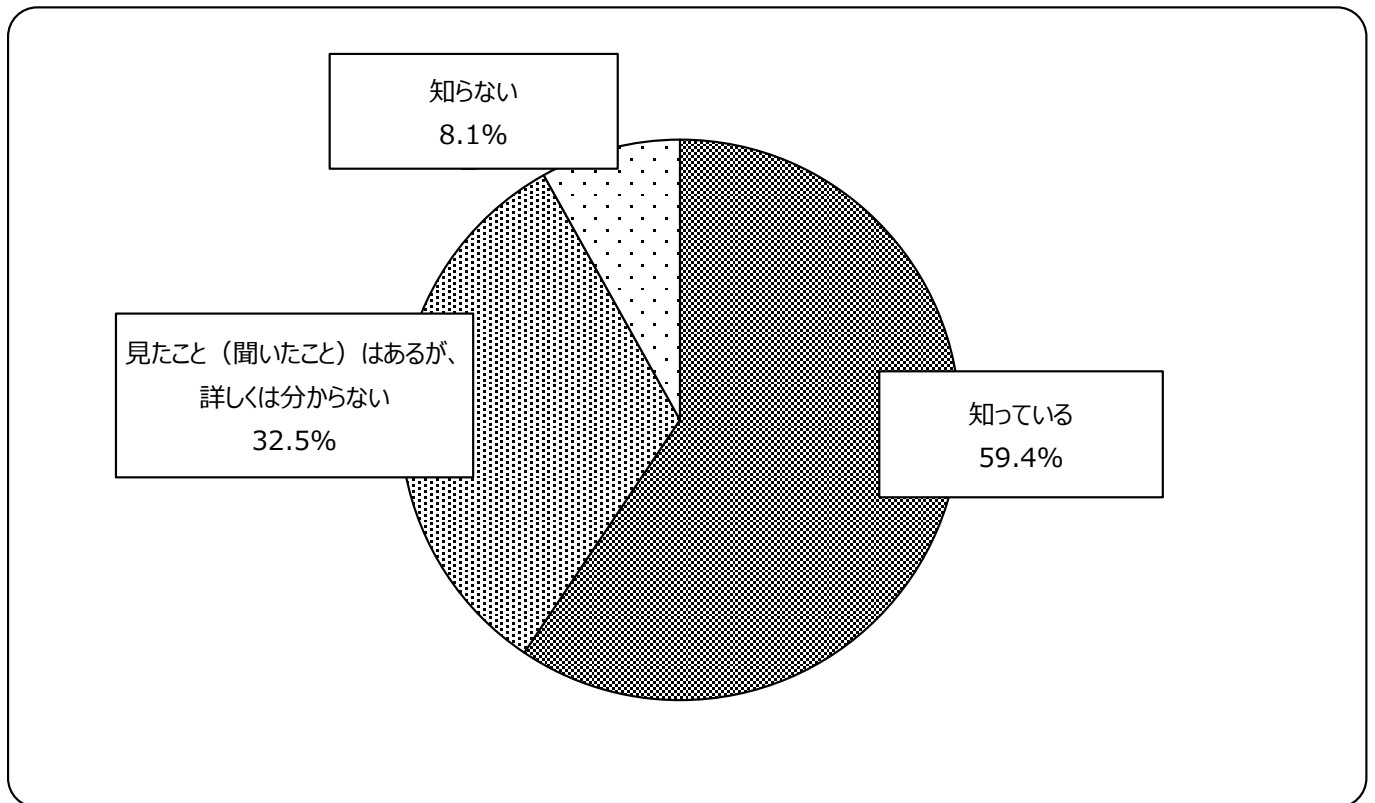
(1) 里親制度に関する意識調査・広報啓発について

問 16. 家庭で暮らせない子どもたちのための「里親制度」を知っていますか。

【1つ選択】

「知っている」と回答した方は 59.4%であり、令和 4 年度の 53.0%から増加した。また、「知らない」と回答した方は 8.1%であり、令和 4 年度の 11.6%から減少している。

	選択項目 (N=471)	回答数	構成比
1	知っている	280	59.4%
2	見たこと（聞いたこと）はあるが、詳しくは分からない	153	32.5%
3	知らない	38	8.1%
	計（回答総数）	471	100.0%



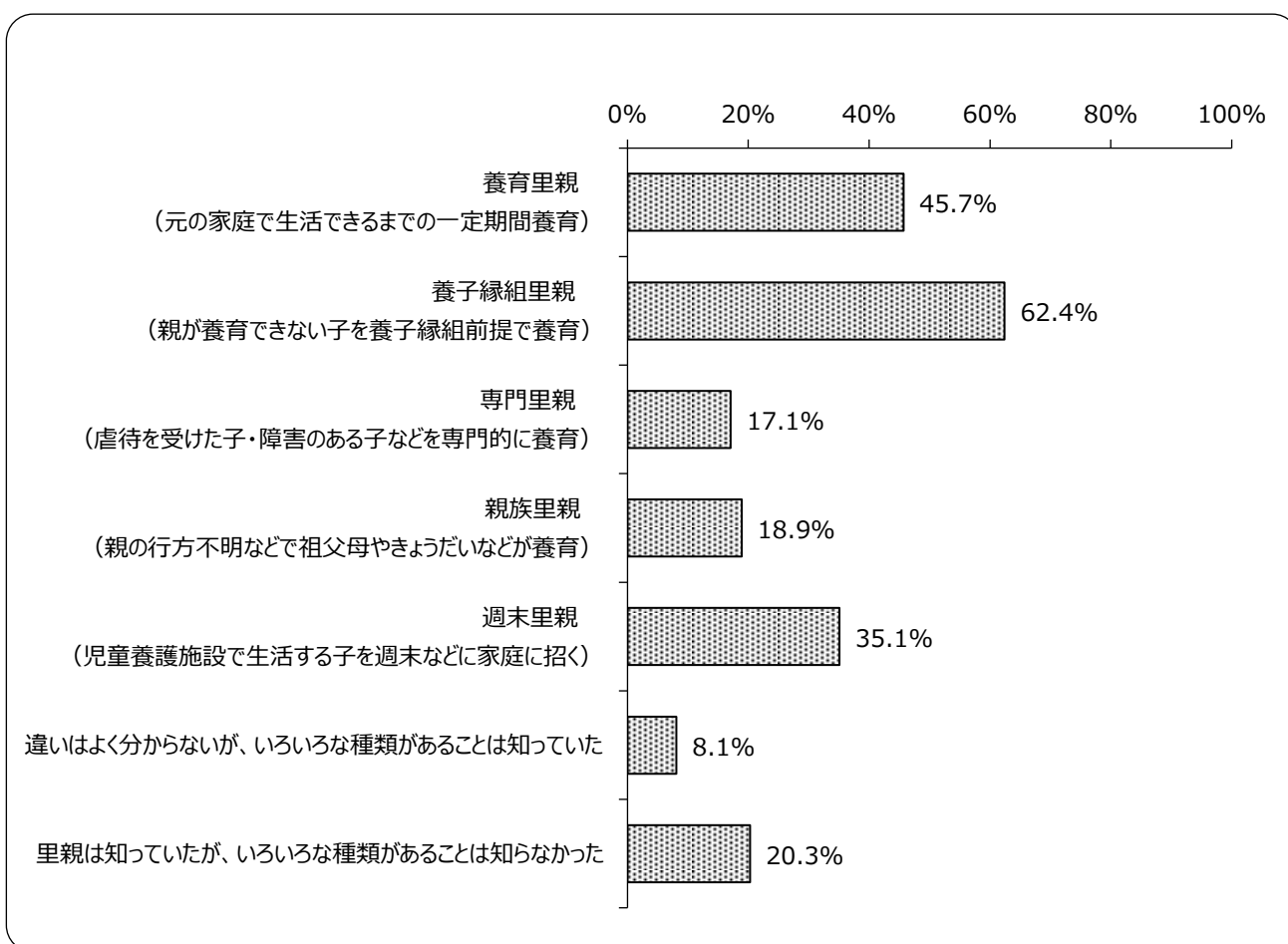
問 17. 問 16 で「1 知っている」「2 見たこと（聞いたこと）はあるが、詳しくは分からない」と回答された方に伺います。

里親にはいろいろな種類があります。知っているものはどれですか。

【複数選択可：いくつでも】

「養子縁組里親」と回答した方は 62.4%であり、令和 4 年度の 55.8%から増加した。また、「週末里親」と回答した方は 35.1%であり、令和 4 年度の 24.0%から増加している。

	選択項目 (N=433)	回答数	回答数/N
1	養育里親（元の家で生活できるまでの一定期間養育）	198	45.7%
2	養子縁組里親（親が養育できない子を養子縁組前提で養育）	270	62.4%
3	専門里親（虐待を受けた子・障害のある子などを専門的に養育）	74	17.1%
4	親族里親（親の行方不明などで祖父母やきょうだいなどが養育）	82	18.9%
5	週末里親（児童養護施設で生活する子を週末などに家庭に招く）	152	35.1%
6	違いはよく分からないが、いろいろな種類があることは知っていた	35	8.1%
7	里親は知っていたが、いろいろな種類があることは知らなかった	88	20.3%



問 18. 問 16 で「1 知っている」「2 見たこと（聞いたこと）はあるが、詳しくは分からない」と回答された方に伺います。
市内で里親制度に関する広報・啓発活動の中で、実際に見たことがあるものはどれですか。

【複数選択可：いくつでも】

「広報さかい」と回答した方は 78.3%であり、令和 4 年度の 58.5%から増加した。「市役所・区役所内でのパネル展などの展示やイベント」と回答した方は 18.9%であり、令和 4 年度の 8.3%から増加した。

	選択項目 (N=433)	回答数	回答数/N
1	広報さかい	339	78.3%
2	インターネット	22	5.1%
3	ポスターやチラシ	51	11.8%
4	市役所・区役所内でのパネル展などの展示やイベント	82	18.9%
5	市役所・区役所前の懸垂幕	23	5.3%
6	大型ショッピングモール内でのパネル展などの展示やイベント	44	10.2%
7	区民まつりなどのイベント内での広報活動	33	7.6%
8	マスメディア	54	12.5%
9	親族・知人が里親している	21	4.8%
10	その他	28	6.5%

【主な回答】

[2 具体的に]

- 堺市ホームページ
- X (旧 Twitter)
- Instagram

[3 具体的に]

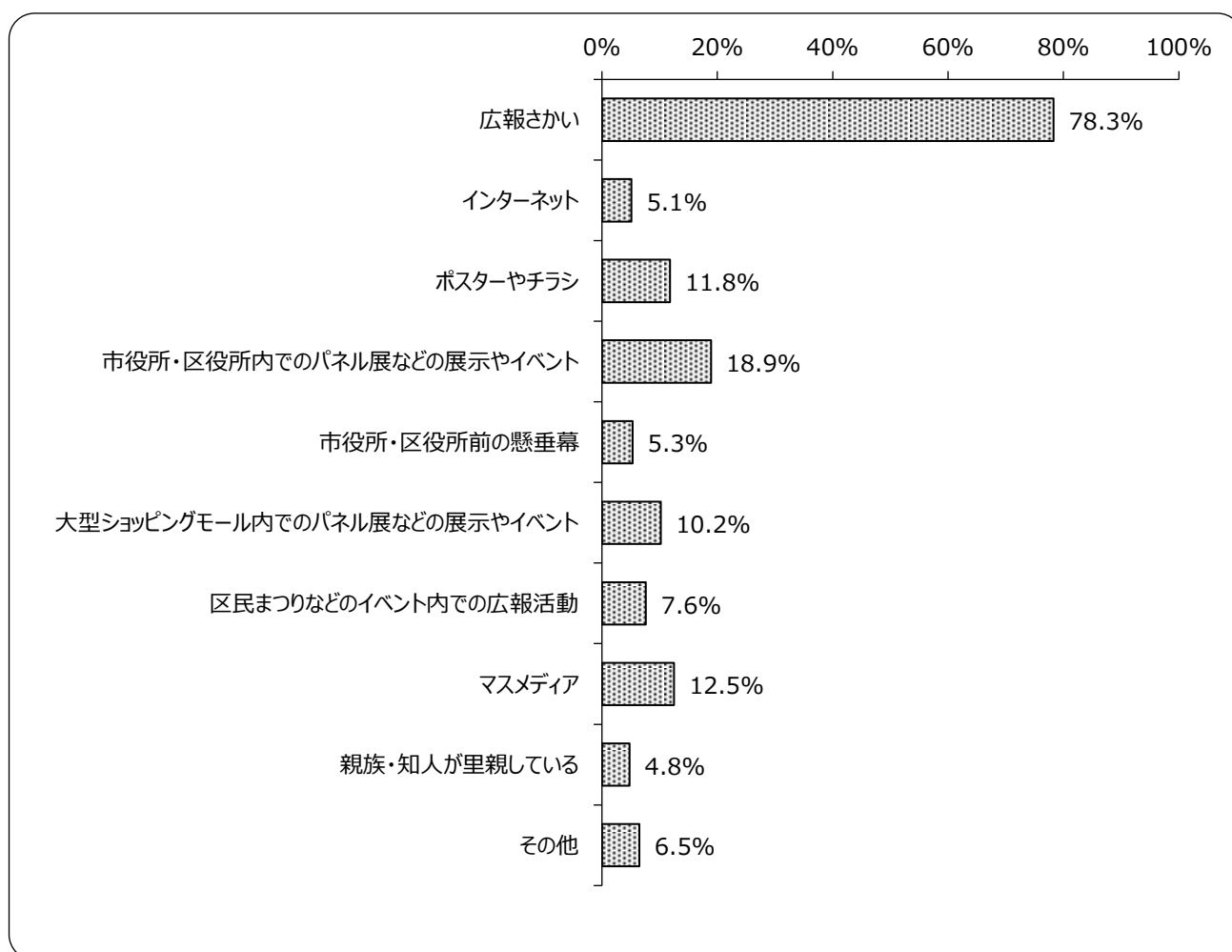
- 市役所
- 区役所
- 図書館
- 薬局
- スーパー
- 郵便局
- 電車・駅構内

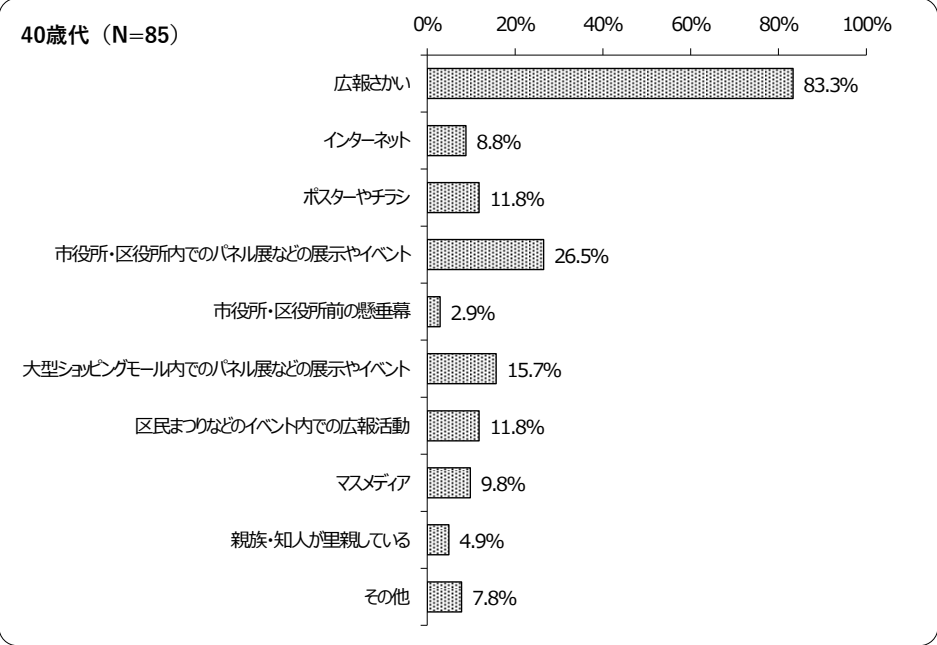
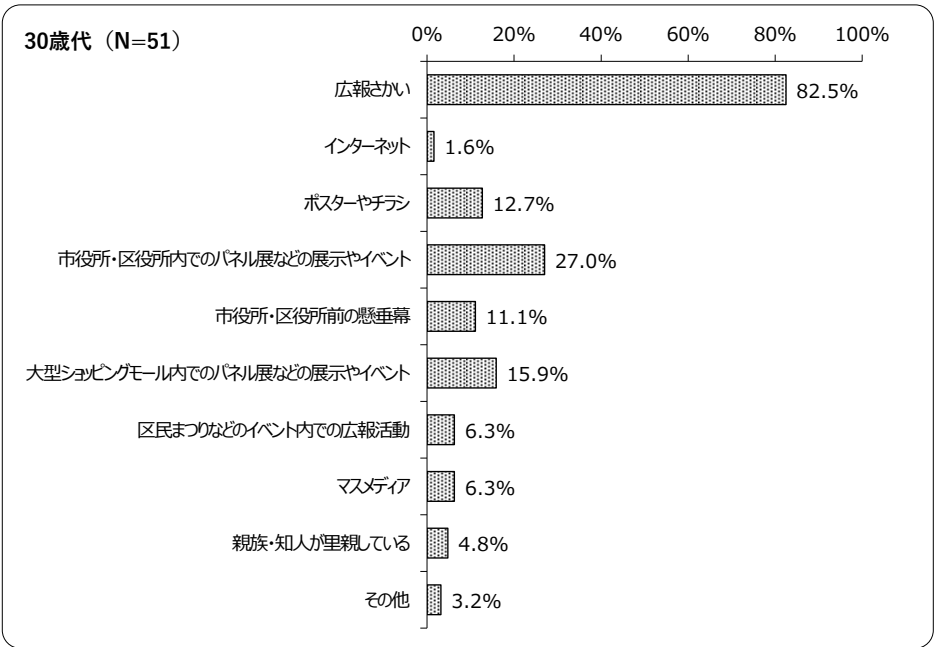
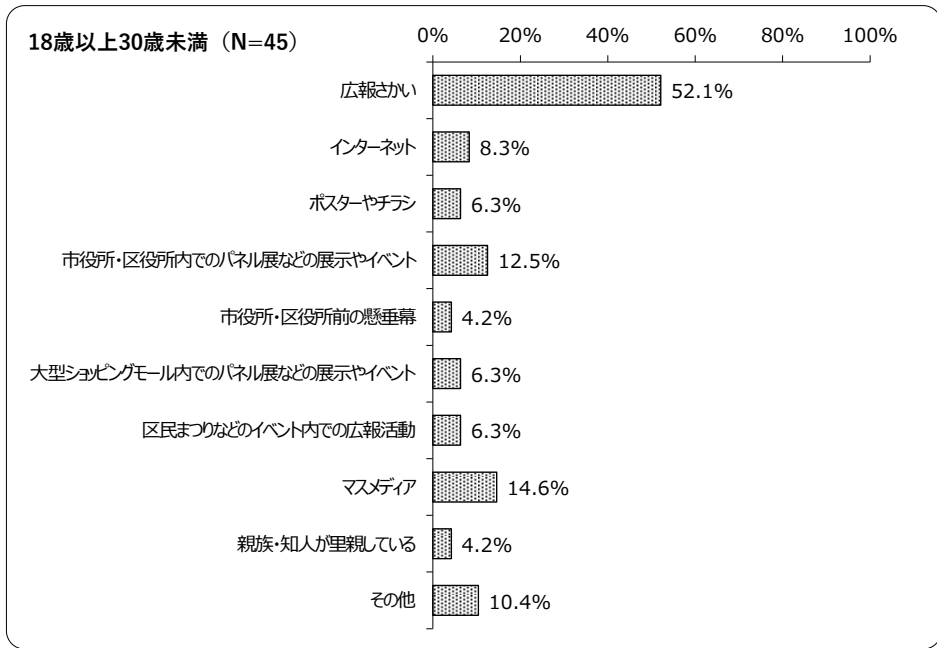
[8 具体的に]

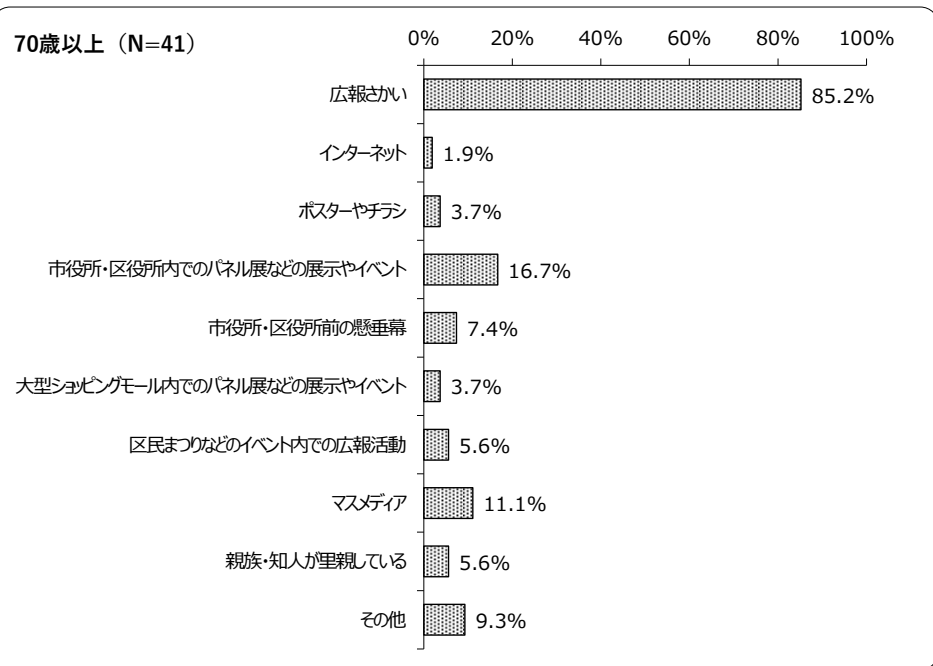
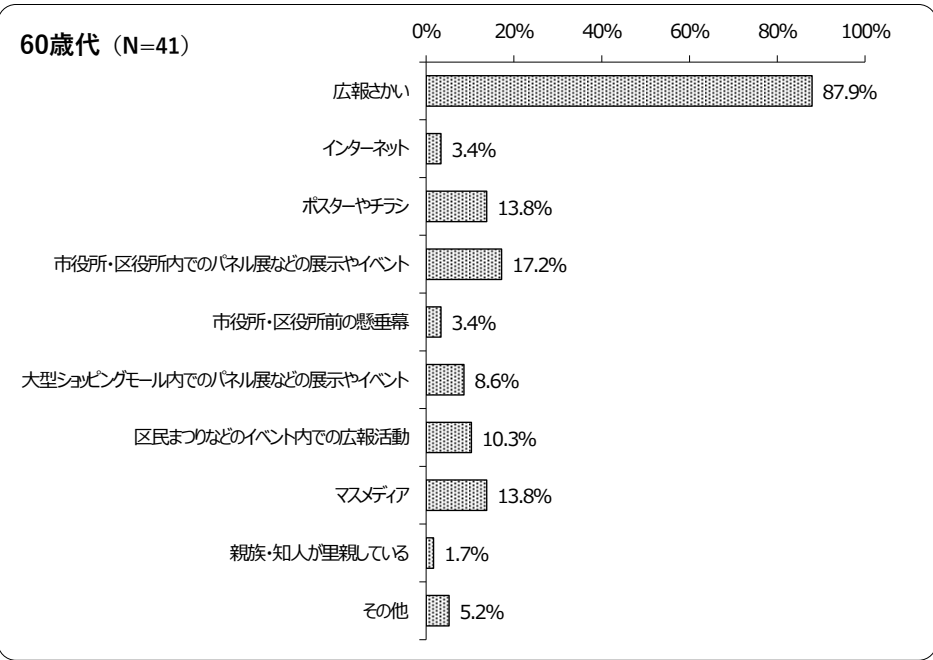
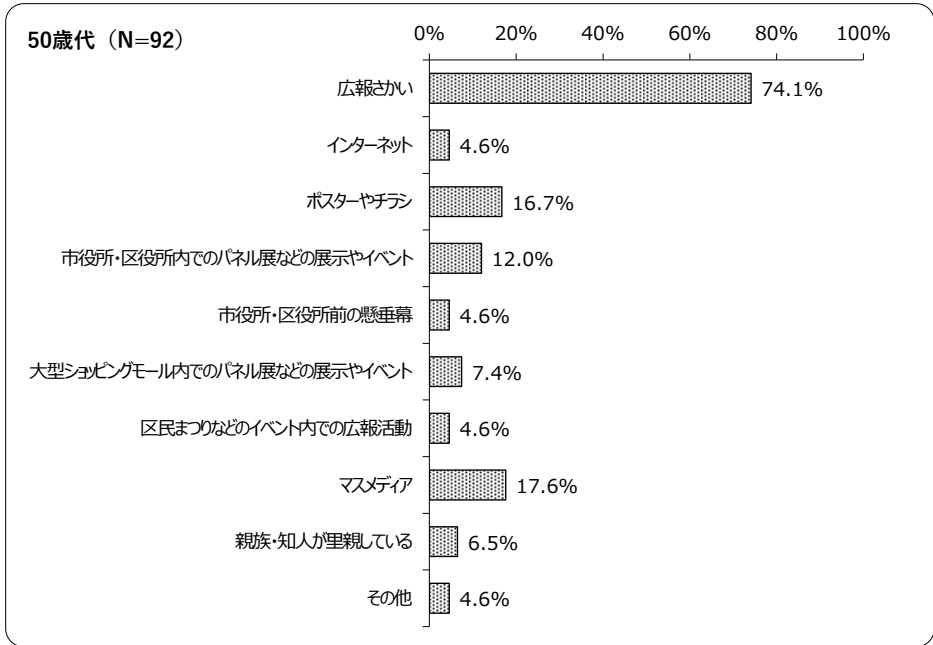
- テレビ
- ドラマ
- 特集番組
- 新聞

[10 その他]

- 授業
- 資格取得
- 業務上
- 市議会議員から







問 19. もし、あなたが里親をしたら、何が必要だと思いますか。

【複数選択可：いくつでも】

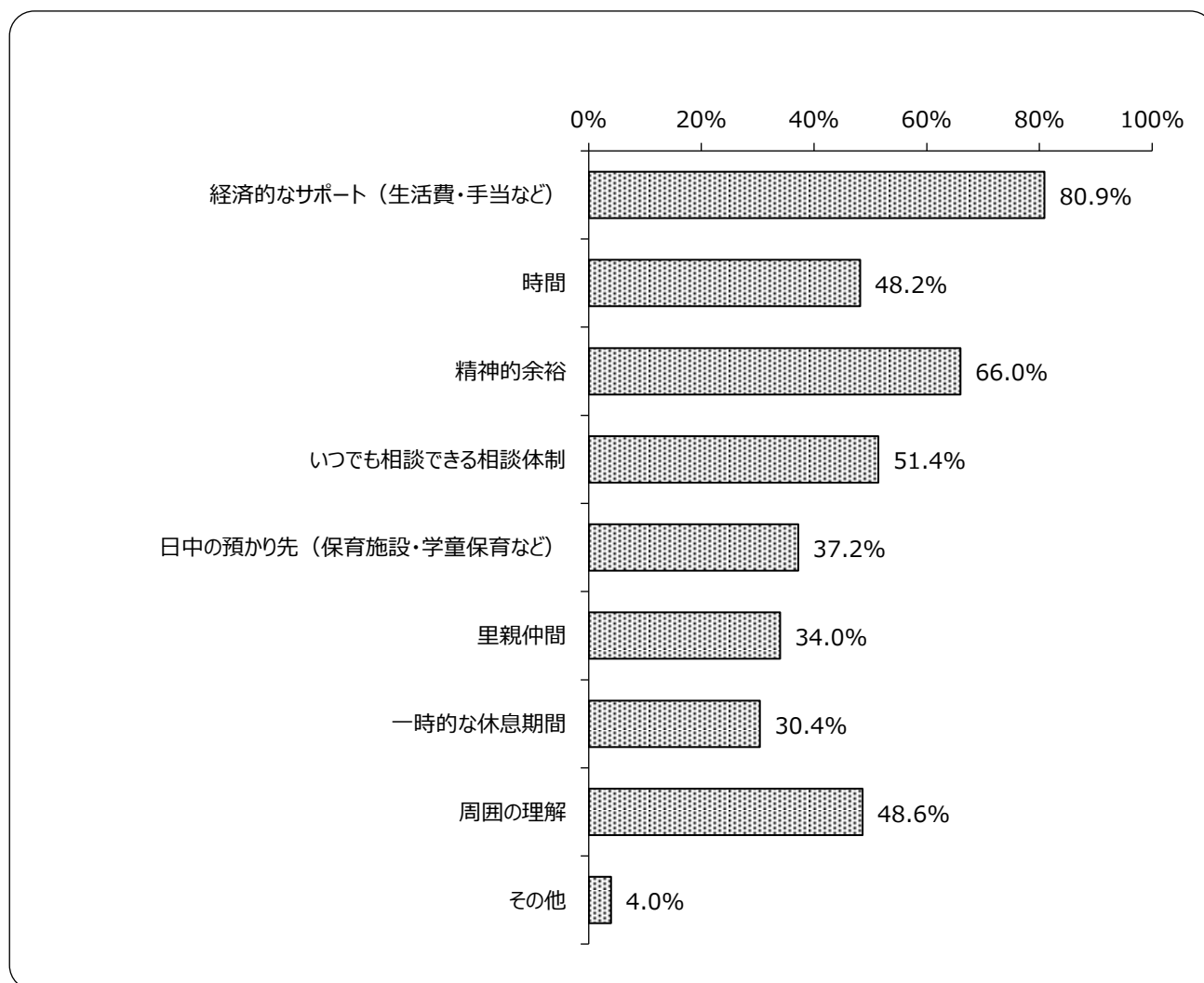
「経済的なサポート（生活費・手当など）」と回答した方は、80.9%であり、令和4年度の82.8%から減少した。
また、「周囲の理解」と回答した方は48.6%であり、令和4年度の38.8%から増加している。

	選択項目 (N=471)	回答数	回答数/N
1	経済的なサポート（生活費・手当など）	381	80.9%
2	時間	227	48.2%
3	精神的余裕	311	66.0%
4	いつでも相談できる相談体制	242	51.4%
5	日中の預かり先（保育施設・学童保育など）	175	37.2%
6	里親仲間	160	34.0%
7	一時的な休息期間	143	30.4%
8	周囲の理解	229	48.6%
9	その他	19	4.0%

[9 その他]

【主な回答】

- 住宅の広さ
- 体力
- 専門的な機関、人からのマンツーマンのサポート



問 20. 本市ではより多くの方に里親制度についてご理解いただき、また、啓発活動にご協力いただきたいと思います。どういった啓発活動であれば、協力できると考えますか。
なお、回答された市政モニターの方に直接、協力を依頼するものではありません。【複数選択可：いくつでも】

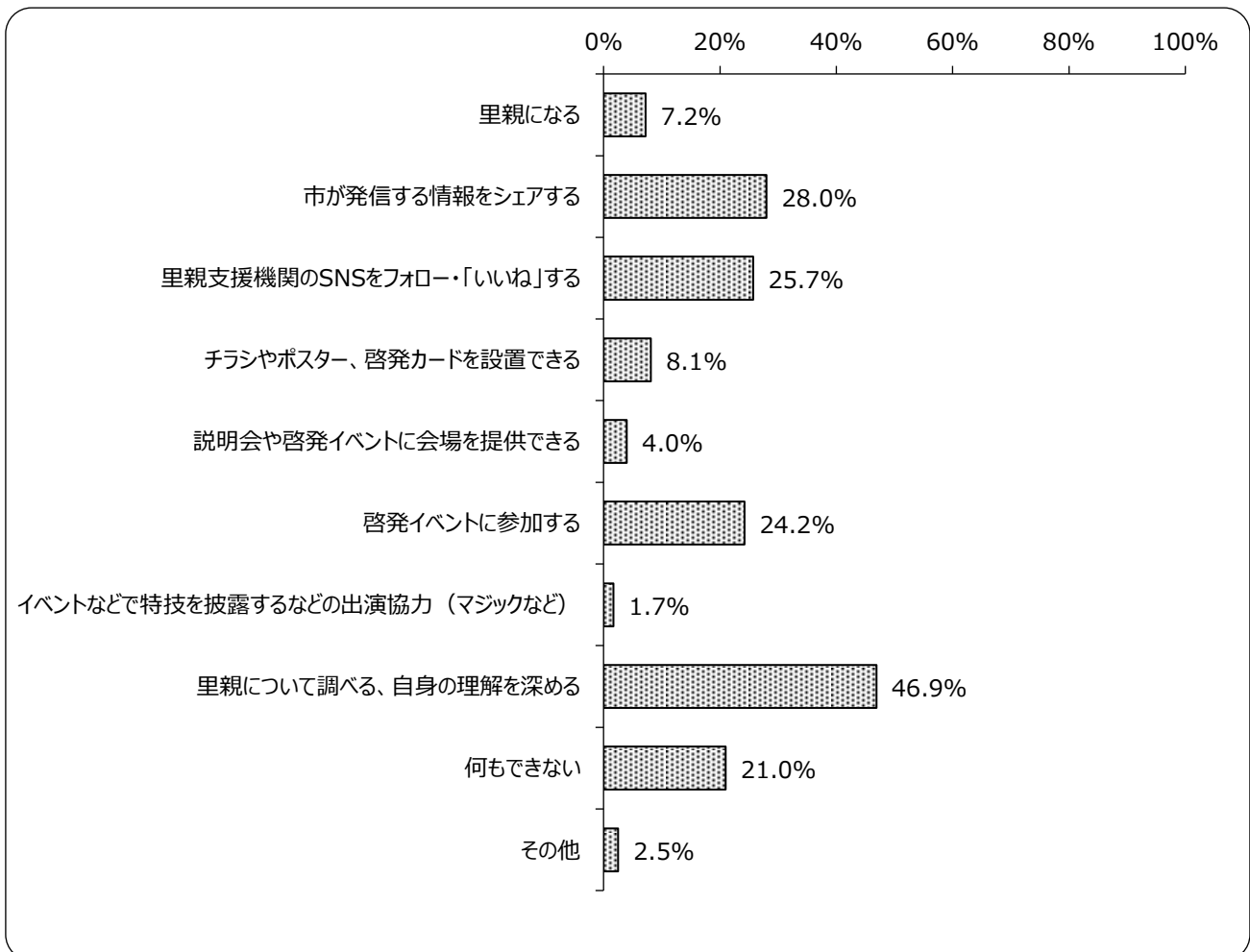
「里親支援機関の SNS をフォロー・「いいね」する」及び「啓発イベントに参加する」と回答した方はいずれも、令和 4 年度から 5 ポイント以上増加している。

	選択項目 (N=471)	回答数	回答数/N
1	里親になる	34	7.2%
2	市が発信する情報をシェアする	132	28.0%
3	里親支援機関のSNSをフォロー・「いいね」する	121	25.7%
4	チラシやポスター、啓発カードを設置できる	38	8.1%
5	説明会や啓発イベントに会場を提供できる	19	4.0%
6	啓発イベントに参加する	114	24.2%
7	イベントなどで特技を披露するなどの出演協力（マジックなど）	8	1.7%
8	里親について調べる、自身の理解を深める	221	46.9%
9	何もできない	99	21.0%
10	その他	12	2.5%

[10 その他]

【主な回答】

- 里親の話を聞く。
- 一時的な子どもの預かり
- 里親の補助
- 説明会やイベントのボランティア



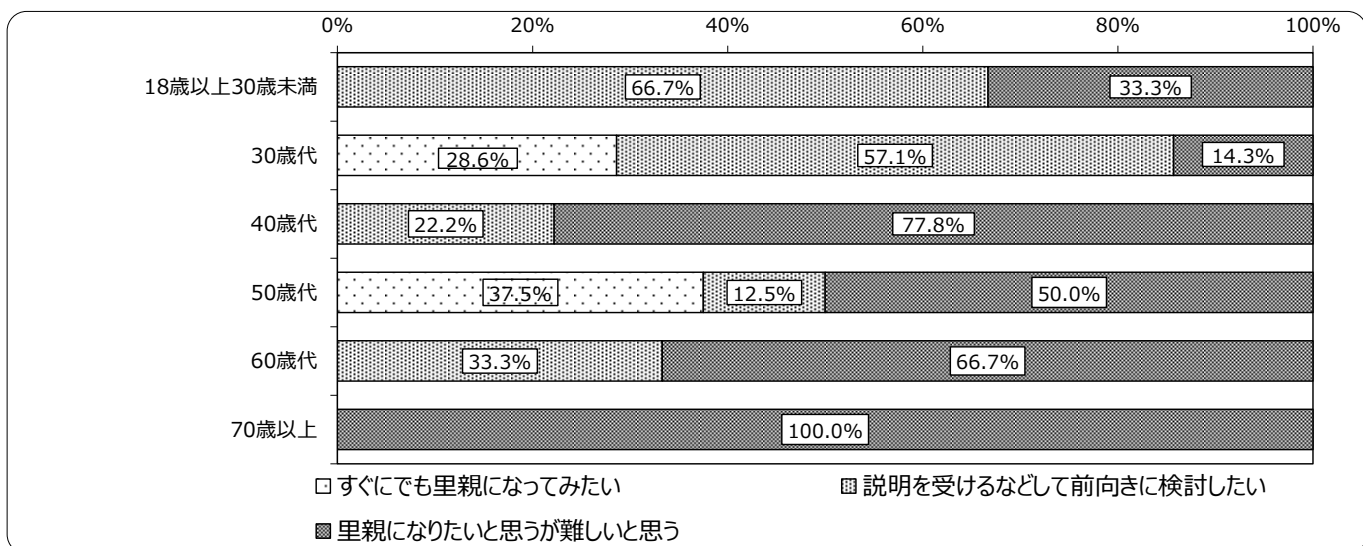
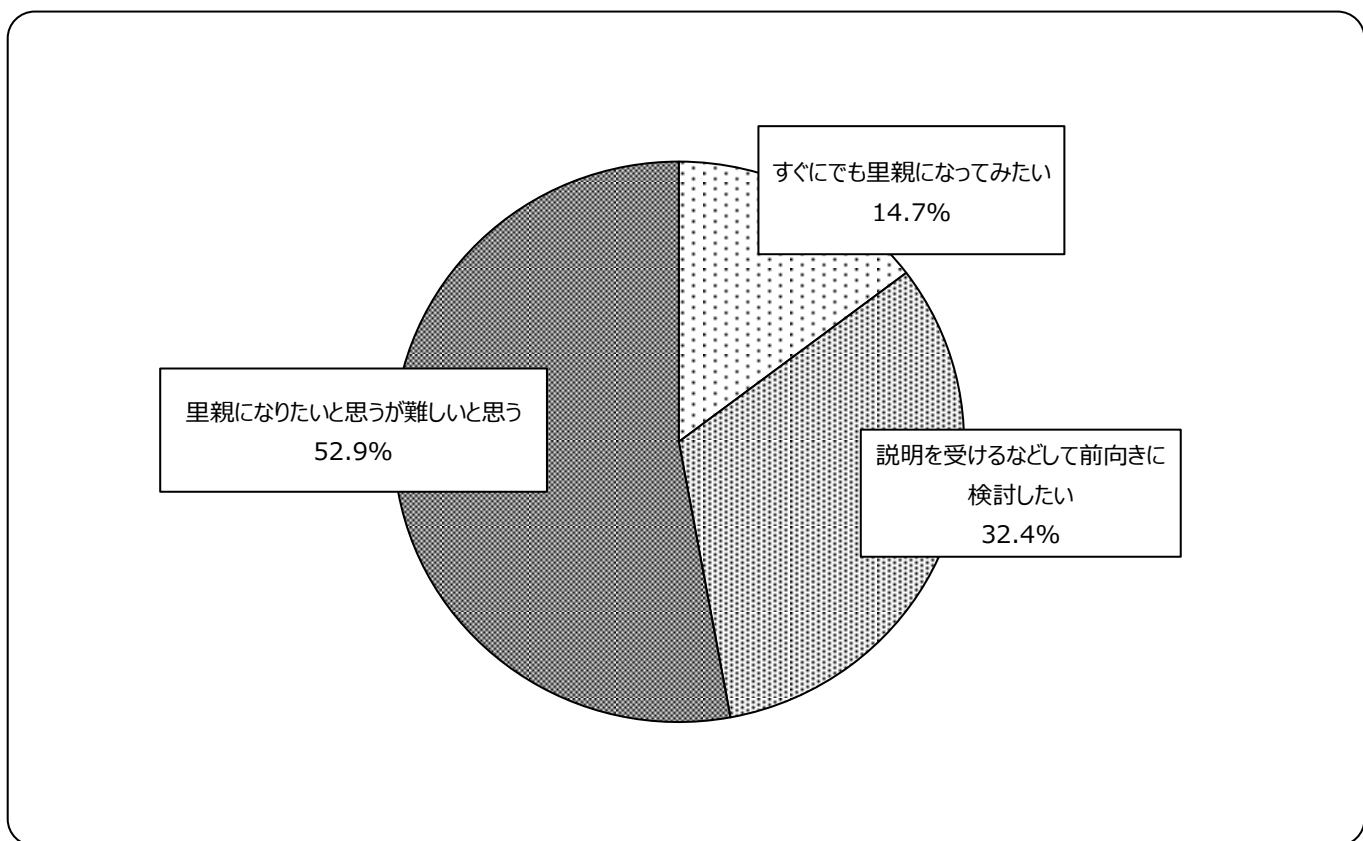
問 21. 問 20 で「1 里親になる」と回答された方に伺います。

里親になることに対する意向はどれに当てはまりますか。

なお、回答された市政モニターの方に直接、里親になることを依頼するものではありません。 【1つ選択】

「すぐにでも里親になってみたい」または「説明を受けるなどして前向きに検討したい」と回答した方は合計で 47.1%であった。また、その割合は「30 歳代」が最も多かった。

	選択項目 (N=34)	回答数	構成比
1	すでに里親をやっている	0	0.0%
2	すぐにでも里親になってみたい	5	14.7%
3	説明を受けるなどして前向きに検討したい	11	32.4%
4	その他	0	0.0%
5	里親になりたいと思うが難しいと思う	18	52.9%
	計 (回答総数)	34	100.0%



問 22. 問 21 で「5 里親になりたいと思うが難しいと思う」と回答された方に伺います。

難しいと感じる理由は何ですか。

【複数選択可：いくつでも】

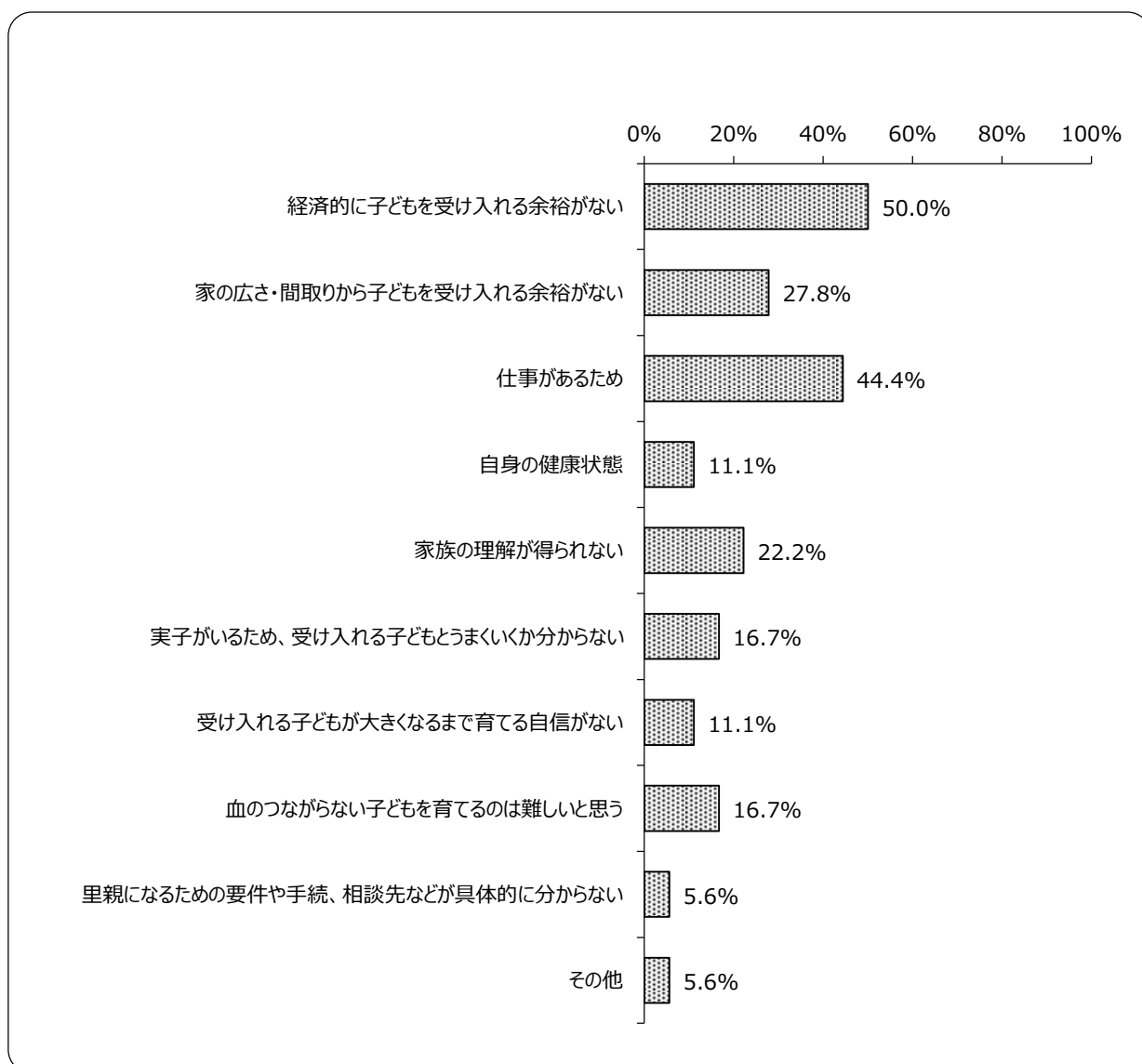
「経済的に子どもを受け入れる余裕がない」と回答した方が最も多く 50.0%であった。次いで、「仕事があるため」と回答した方が 44.4%であった。

	選択項目 (N=18)	回答数	回答数/N
1	経済的に子どもを受け入れる余裕がない	9	50.0%
2	家の広さ・間取りから子どもを受け入れる余裕がない	5	27.8%
3	仕事があるため	8	44.4%
4	自身の健康状態	2	11.1%
5	家族の理解が得られない	4	22.2%
6	実子がいるため、受け入れる子どもとうまくいか分らない	3	16.7%
7	受け入れる子どもが大きくなるまで育てる自信がない	2	11.1%
8	血のつながらない子どもを育てるのは難しいと思う	3	16.7%
9	里親になるための要件や手続、相談先などが具体的に分からない	1	5.6%
10	その他	1	5.6%

[10 その他]

【全回答】

- 研修期間が長い。



3. 自転車の利用環境について

調査結果の概要

テーマ	自転車の利用環境について
担当課	建設局 サイクルシティ推進部 自転車企画推進課、自転車環境整備課、自転車対策事務所
設問数	15 問
趣旨・目的	<p>本市では、市の類まれな歴史文化を発信することにより、市民が自転車に愛着を持ち、本市を訪れる人にも自転車を活用した都市魅力を感じられる「サイクルシティ堺」の実現をめざして取組を進めています。</p> <p>調査結果については、自転車利用の促進や自転車を活用した都市魅力の創出に向けて活用します。</p>
調査結果	各設問のページをご覧ください。
調査結果に係る担当課の所見	<ul style="list-style-type: none"> ・問 23 では、本市の自転車産業のルーツが百舌鳥古墳群にあることについて、あまり知られていないため、「サイクルシティ堺」として引き続き市ホームページや SNS などを活用して情報発信を強化します。 ・問 29 では、自転車乗車中の交通ルールについてあまり守られていないと感じている人が多い結果となりました。 <p>また、問 30 では、守られていない交通ルールとして、ながら運転が最も多いと感じているため、引き続き街頭指導等の取組を実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問 31 では、自転車は原則車道通行というルールを知っているが、車道を通行していない方が多い結果となりました。 <p>また、問 33 では、歩道を通行していたが、自転車レーンを通行するようになった方が多いことから、自転車の通行環境整備を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問 35 では、これまで本市が実施してきた放置自転車啓発活動により、約半数の方が放置禁止区域の認識を持っている状況でした。今後は更に認識を広げるために、これまで活用してきた市ホームページや広報さかいに加えて、学校施設などへの啓発活動を実施します。

(1) 都市魅力について

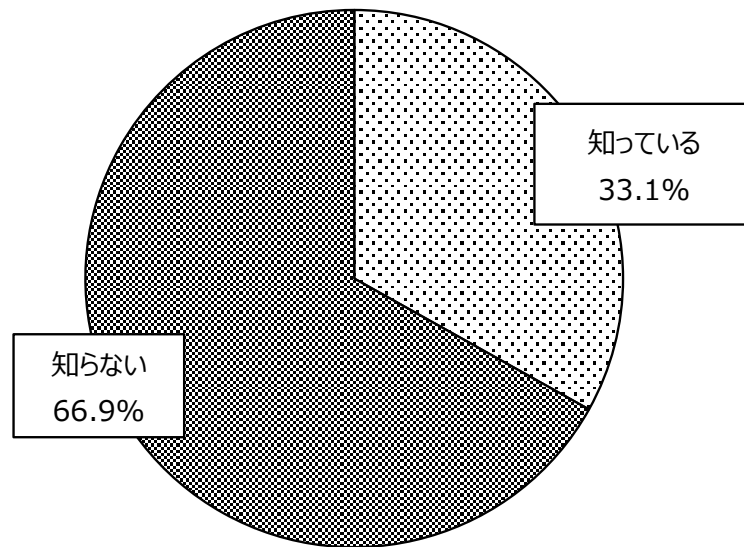
問 23. 本市の自転車産業のルーツは百舌鳥古墳群にあることを知っていますか。

※百舌鳥古墳群の築造で培われた鉄の加工技術が鉄砲、刃物へと伝わり、自転車産業に受け継がれました。

【1つ選択】

「知っている」と回答した方は約 3 割しかいなかった。

	選択項目 (N=471)	回答数	構成比
1	知っている	156	33.1%
2	知らない	315	66.9%
	計 (回答総数)	471	100.0%



(2) 利用促進・安全利用について

問 24. 自転車をどのような目的で利用していますか。

【複数選択可：いくつでも】

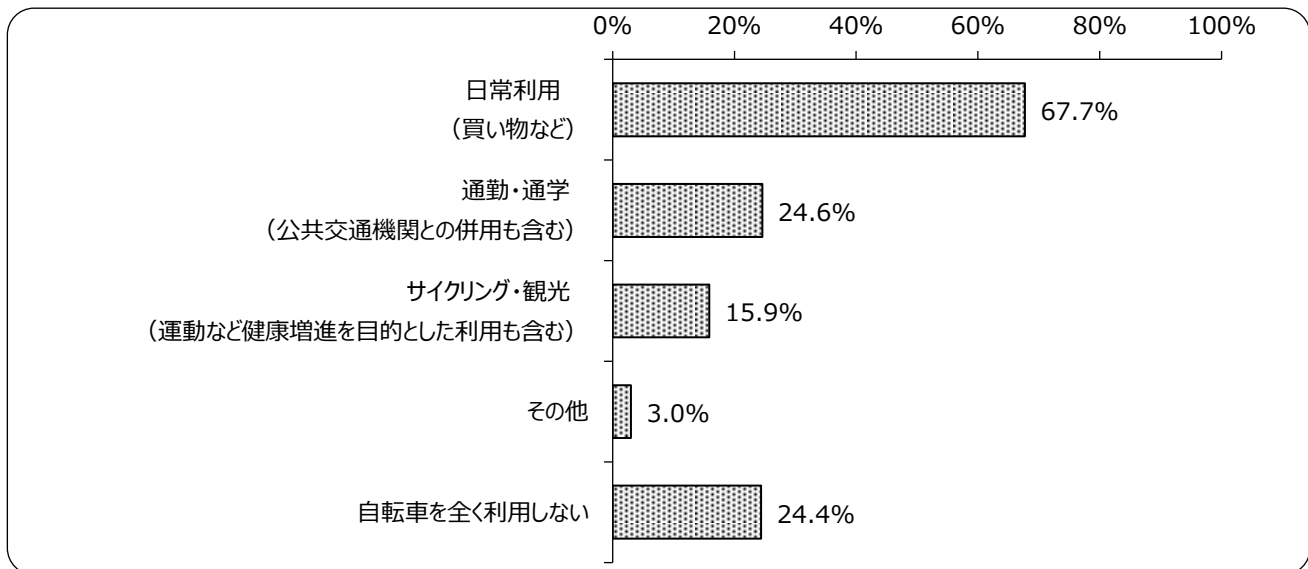
「サイクリング・観光」と回答した方は 15.9%であった。

	選択項目 (N=471)	回答数	回答数/N
1	日常利用 (買い物など)	319	67.7%
2	通勤・通学 (公共交通機関との併用も含む)	116	24.6%
3	サイクリング・観光 (運動など健康増進を目的とした利用も含む)	75	15.9%
4	その他	14	3.0%
5	自転車を全く利用しない	115	24.4%

[4 その他]

【主な回答】

- 子どもの送迎
- 勤務中の移動

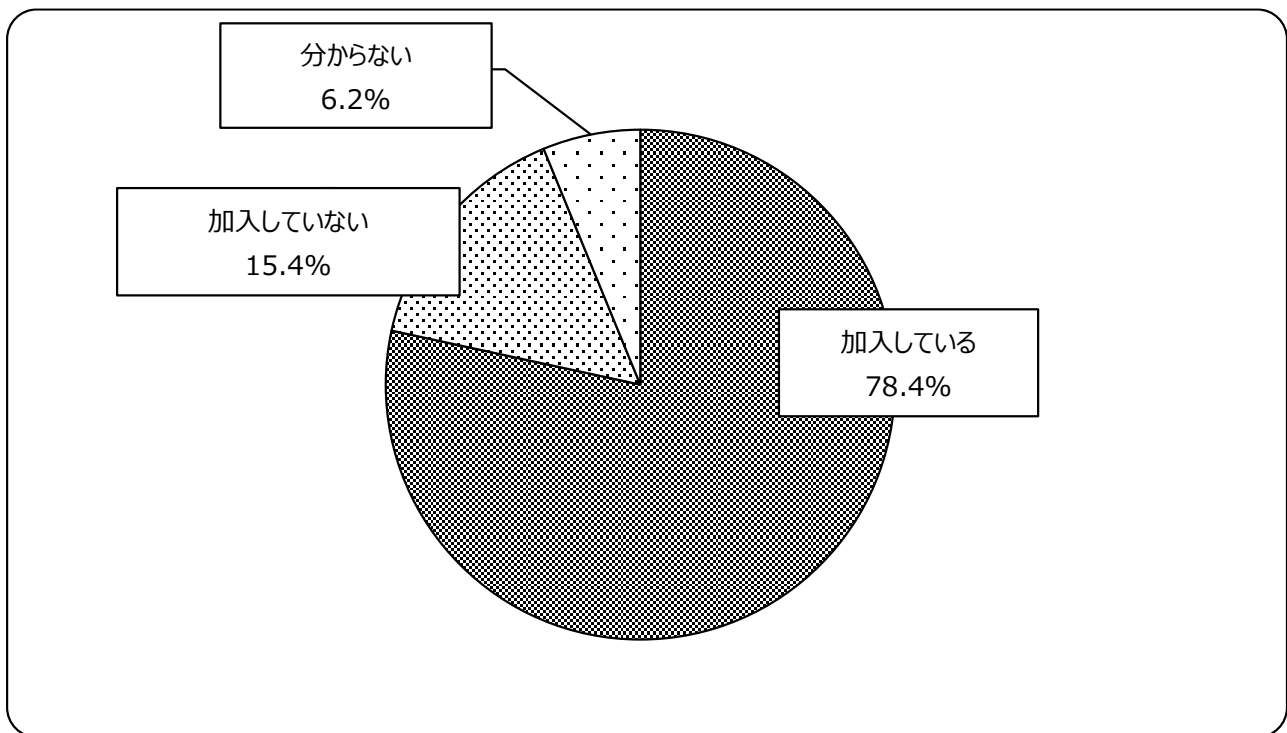


問 25. 問 24 で 1～4 と回答された方に伺います。自転車を利用中に加害事故を起こした場合の被害者への賠償に備えた保険（いわゆる自転車保険または個人賠償責任保険など）に加入していますか。

※平成 28 年 7 月から大阪府内で自転車を利用する場合、保険への加入が義務化されました。【1 つ選択】

「加入している」と回答した方は 78.4%であった。（令和 4 年度 79.7%）

	選択項目 (N=356)	回答数	構成比
1	加入している	279	78.4%
2	加入していない	55	15.4%
3	分からない	22	6.2%
	計 (回答総数)	356	100.0%



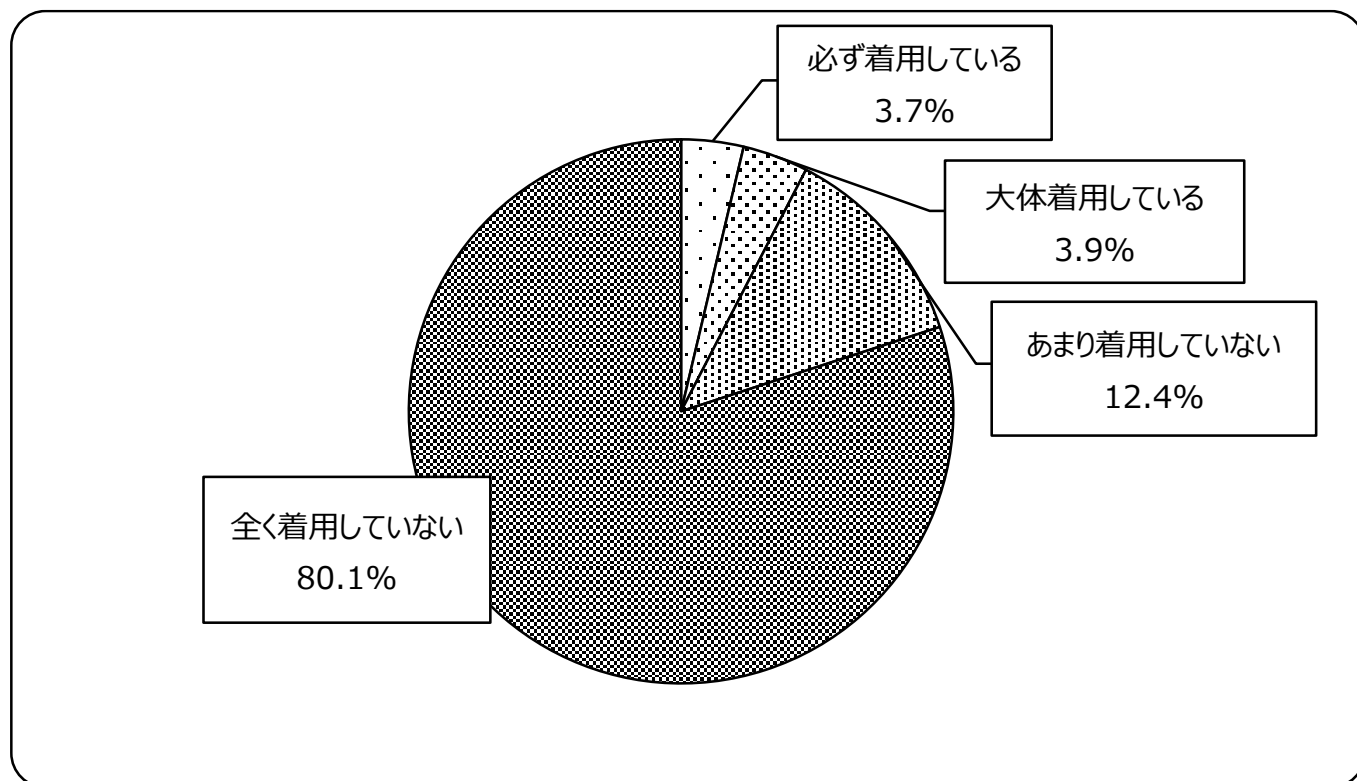
問 26. 問 24 で 1～4 と回答された方に伺います。

自転車を利用する際にヘルメットを着用していますか。

【1 つ選択】

「あまり着用していない」、「全く着用していない」と回答した方は 92.5%であった。(令和 4 年度 94.3%)

	選択項目 (N=356)	回答数	構成比
1	必ず着用している	13	3.7%
2	大体着用している	14	3.9%
3	あまり着用していない	44	12.4%
4	全く着用していない	285	80.1%
	計 (回答総数)	356	100.0%

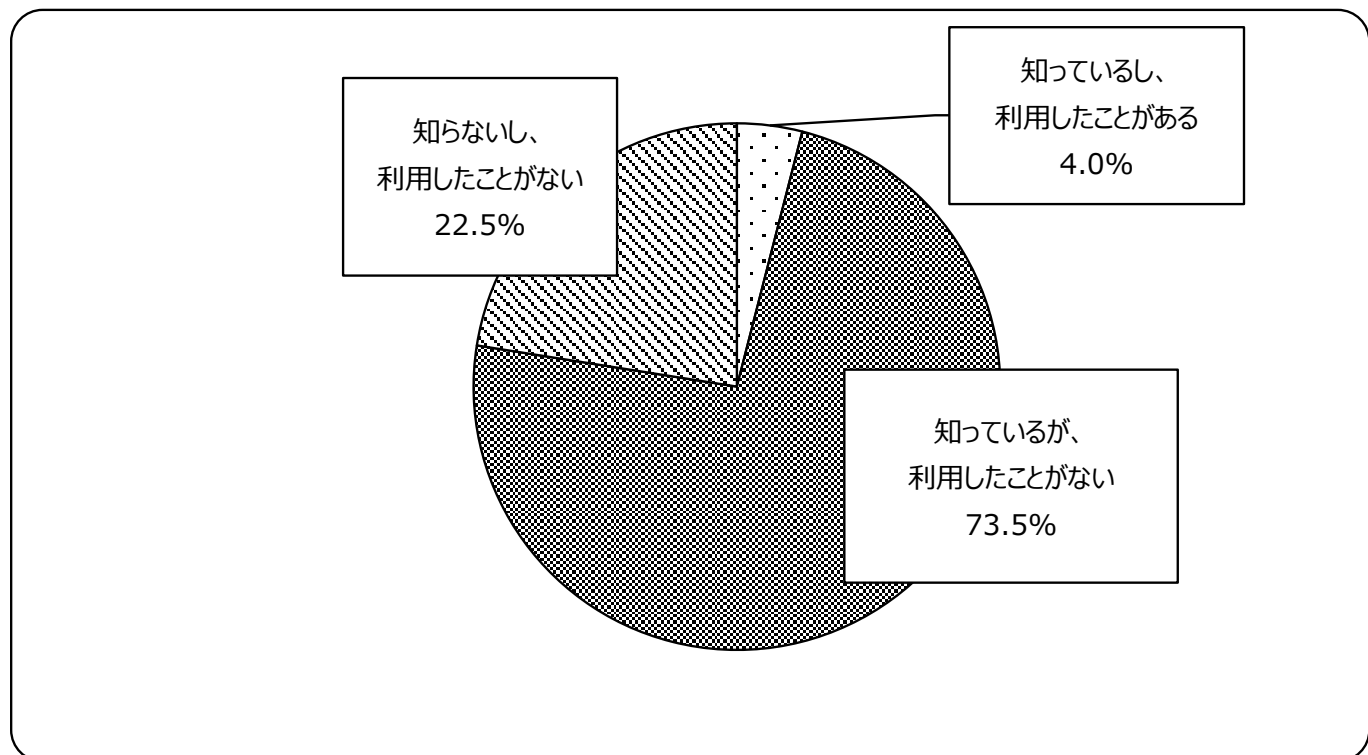


問 27. 「堺市シェアサイクル※事業」を知っていますか。

※スマートフォンを活用し、利用者がどのポート（自転車の貸出・返却拠点）でも貸出・返却できる便利な自転車シェアサイクルシステム。 【1つ選択】

「知っている」と回答した方は 77.5%であった。

	選択項目 (N=471)	回答数	構成比
1	知っているし、利用したことがある	19	4.0%
2	知っているが、利用したことがない	346	73.5%
3	知らないし、利用したことがない	106	22.5%
	計 (回答総数)	471	100.0%



問 28. 問 27 で「2 知っているが、利用したことがない」「3 知らないし、利用したことがない」と回答された方に伺います。どのようにすればシェアサイクルを利用しようと思いますか。 【複数選択可：いくつでも】

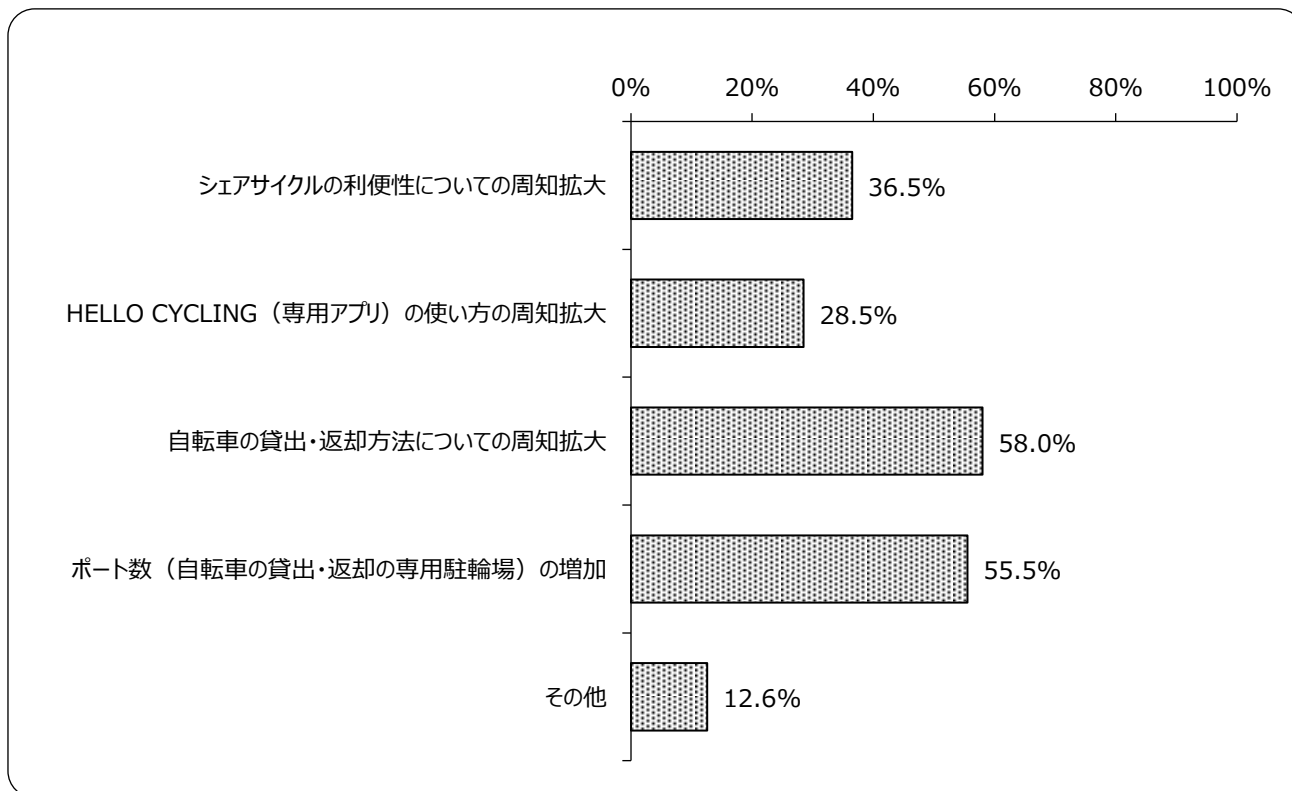
「自転車の貸出・返却方法についての周知拡大」、「ポート数の増加」と回答した方が半数を占めた。

	選択項目 (N=452)	回答数	回答数/N
1	シェアサイクルの利便性についての周知拡大	165	36.5%
2	HELLO CYCLING (専用アプリ) の使い方の周知拡大	129	28.5%
3	自転車の貸出・返却方法についての周知拡大	262	58.0%
4	ポート数 (自転車の貸出・返却の専用駐輪場) の増加	251	55.5%
5	その他	57	12.6%

[5 その他]

【主な回答】

- 子ども乗せ対応自転車があればよい。
- スマートフォン以外で利用できればよい。
- 費用を安価にしてほしい。



(3) 安全利用について

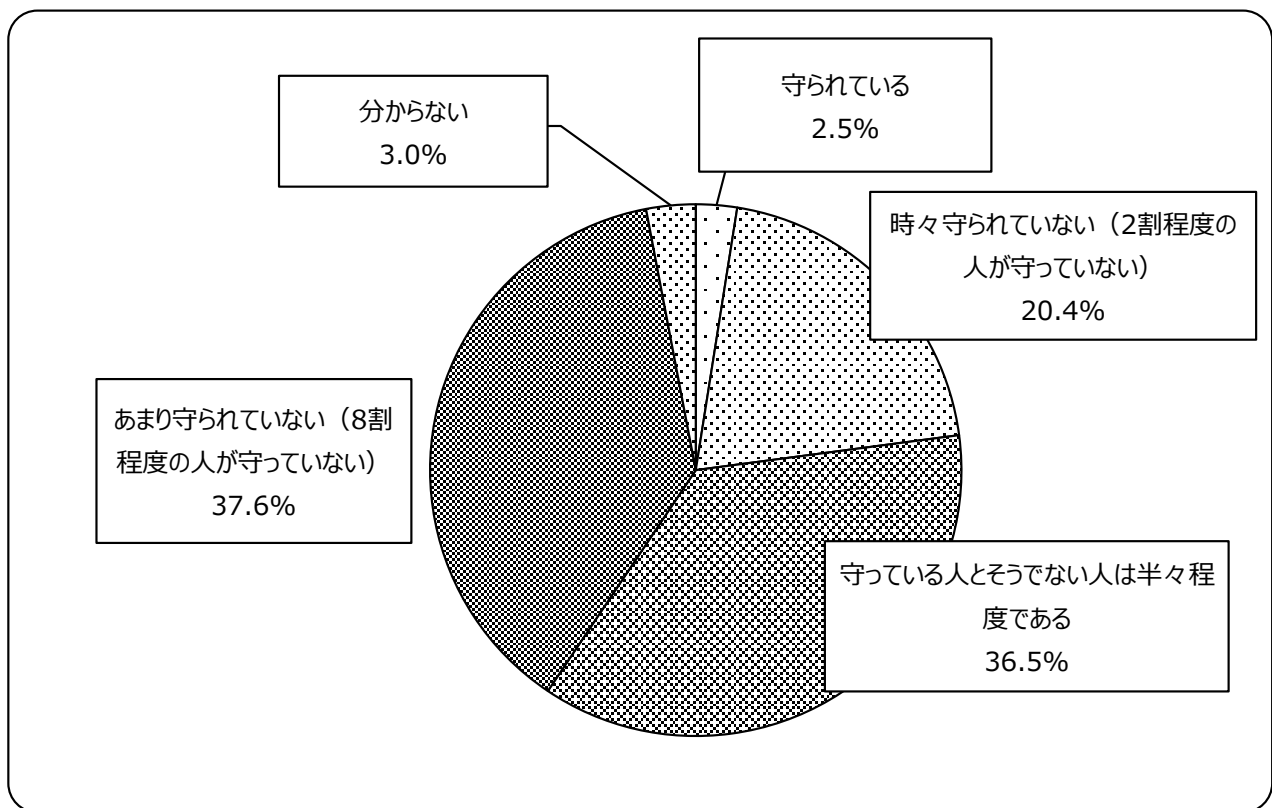
問 29. 日常生活において、見て感じる自転車の交通ルールについて伺います。

自転車乗車中の交通ルールが守られていると思いますか。

【1つ選択】

「守られている」、「時々守られていない」の合計は 22.9%であり、「守っている人とそうでない人は半々程度である」、「あまり守られていない」の合計を大きく下回った。

	選択項目 (N=471)	回答数	構成比
1	守られている	12	2.5%
2	時々守られていない (2割程度の人が守っていない)	96	20.4%
3	守っている人とそうでない人は半々程度である	172	36.5%
4	あまり守られていない (8割程度の人が守っていない)	177	37.6%
5	分からない	14	3.0%
	計 (回答総数)	471	100.0%



問 30. 問 29 で「2 時々守られていない（2 割程度の人が守っていない）」「3 守っている人とそうでない人は半々程度である」「4 あまり守られていない（8 割程度の人が守っていない）」と回答された方に伺います。

それは具体的にどの交通ルールですか。

【複数選択可：いくつでも】

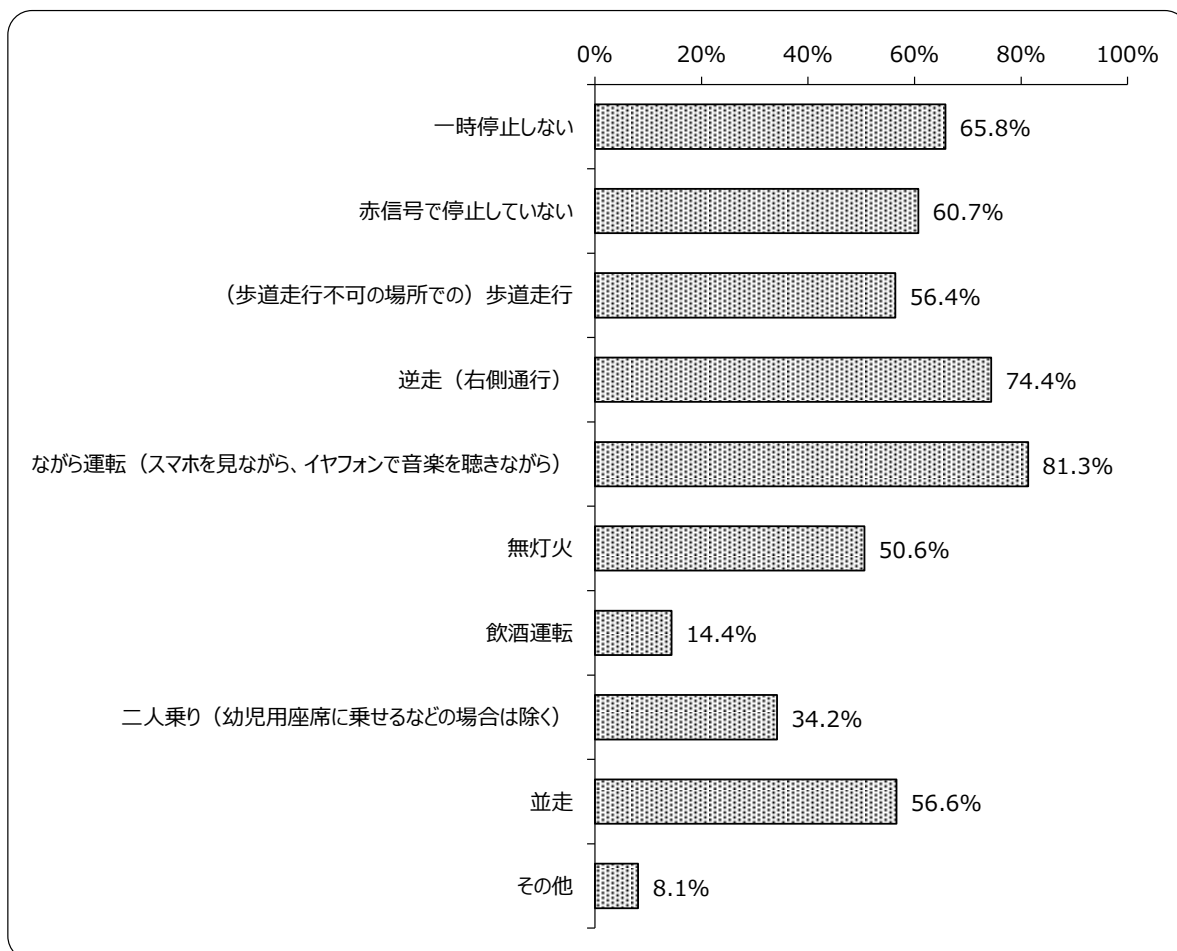
「一時停止しない」、「赤信号で停止していない」、「歩道走行」、「逆走」、「ながら運転」、「無灯火」、「並走」と回答した方は半数以上だった。

	選択項目 (N=445)	回答数	回答数/N
1	一時停止しない	293	65.8%
2	赤信号で停止していない	270	60.7%
3	(歩道走行不可の場所での) 歩道走行	251	56.4%
4	逆走 (右側通行)	331	74.4%
5	ながら運転 (スマホを見ながら、イヤフォンで音楽を聴きながら)	362	81.3%
6	無灯火	225	50.6%
7	飲酒運転	64	14.4%
8	二人乗り (幼児用座席に乗せるなどの場合は除く)	152	34.2%
9	並走	252	56.6%
10	その他	36	8.1%

[10 その他]

【主な回答】

- 駐輪禁止場所への駐輪
- 傘差し運転
- 喫煙をしながらの運転
- ヘルメットの非着用



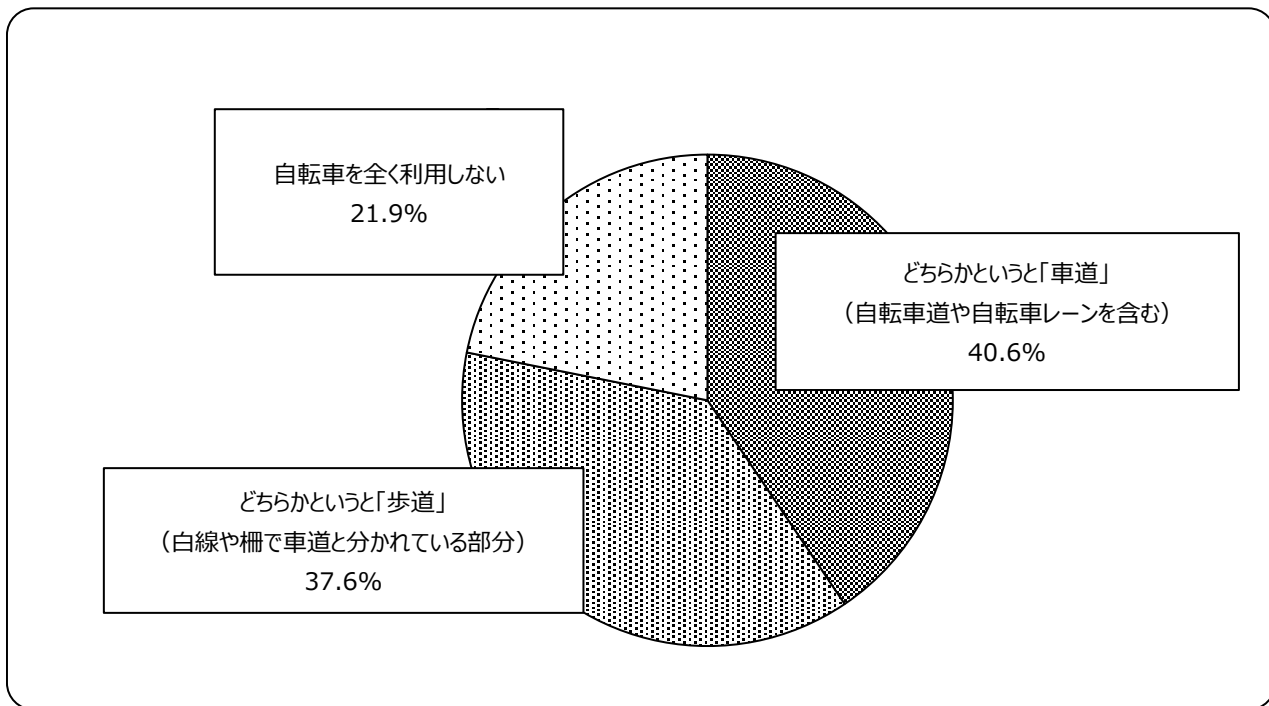
(4) 自転車通行環境について

問 31. あなたは、自転車で主にどこを通行していますか。

【1つ選択】

「どちらかというと「車道」と回答した方は約 40.6%（令和 4 年度 37.8%）であり、「どちらかというと「歩道」」の割合（令和 4 年度 38.6%）を上回った。

	選択項目 (N=471)	回答数	構成比
1	どちらかというと「車道」(自転車道や自転車レーンを含む)	191	40.6%
2	どちらかというと「歩道」(白線や柵で車道と分かれている部分)	177	37.6%
3	自転車を全く利用しない	103	21.9%
	計 (回答総数)	471	100.0%



問 32. 問 31 で「1 どちらかというと「車道」」「2 どちらかというと「歩道」と回答された方に伺います。

次の 2 つのルールを知っていますか。

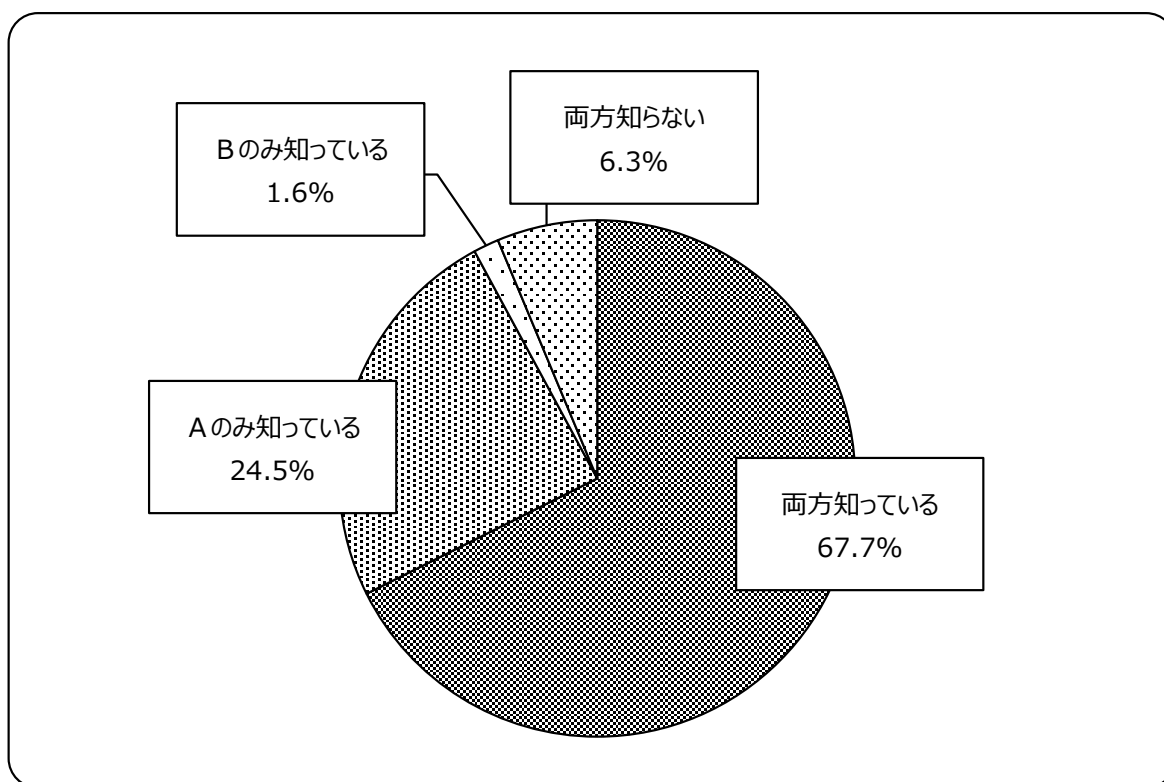
A. 自転車は、原則、車道を通行しなければならない。

B. 自転車は、例外的に歩道を通行する際は、車道寄りを徐行し、歩行者の通行を妨げることとなる場合は、一時停止しなければならない。

【1 つ選択】

原則、車道通行であることを知っている（「両方知っている」、「Aのみ知っている」、「Bのみ知っている」と回答した方は約 9 割を占めた。

	選択項目 (N=368)	回答数	構成比
1	両方知っている	249	67.7%
2	Aのみ知っている	90	24.5%
3	Bのみ知っている	6	1.6%
4	両方知らない	23	6.3%
	計 (回答総数)	368	100.0%

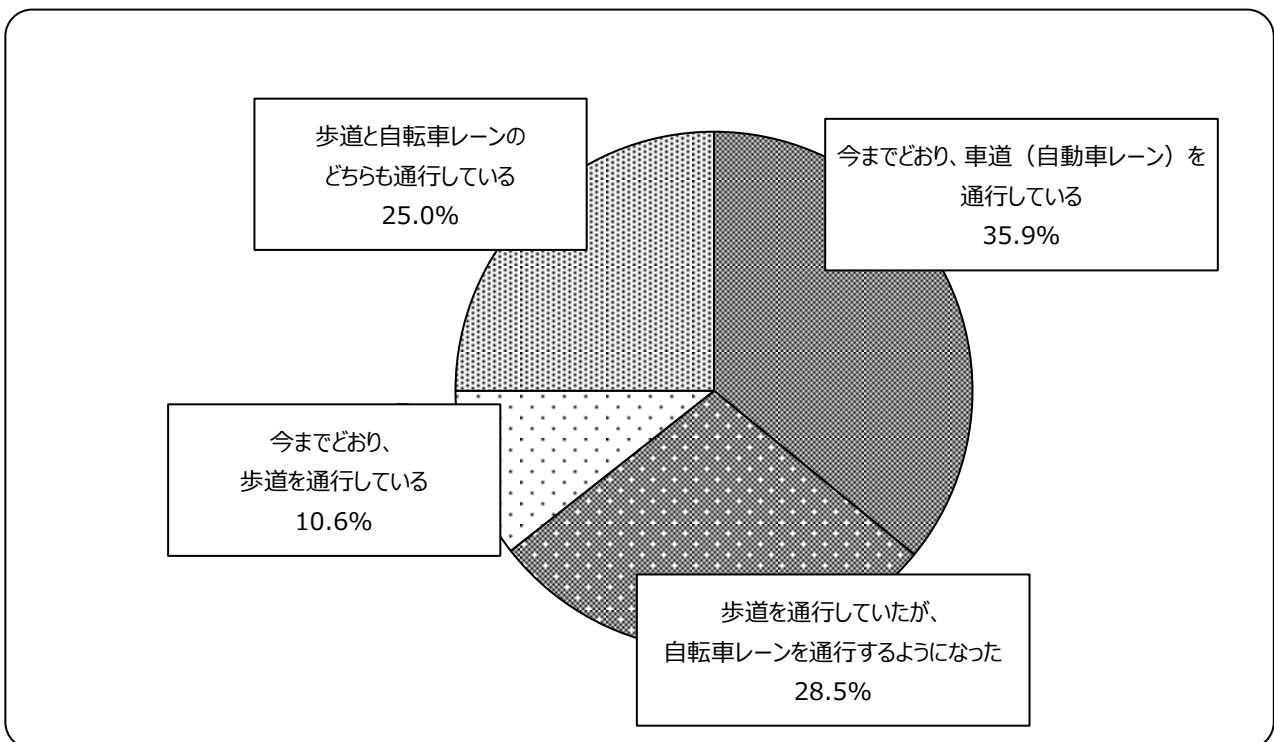


問 33. 問 31 で「1 どちらかというと「車道」」「2 どちらかというと「歩道」と回答された方に伺います。

本市では車道に青色の矢羽根型路面標示や帯状路面標示などを施した自転車レーンの整備を推進しています。あなたは、整備された自転車レーンを通行するようになりましたか。 【1つ選択】

「今までどおり、車道（自転車レーン）を通行している」、「歩道を通行していたが、自転車レーンを通行するようになった」と回答した方は約 6 割を占めた。

	選択項目 (N=368)	回答数	構成比
1	今までどおり、車道（自転車レーン）を通行している	132	35.9%
2	歩道を通行していたが、自転車レーンを通行するようになった	105	28.5%
3	今までどおり、歩道を通行している	39	10.6%
4	歩道と自転車レーンのどちらも通行している	92	25.0%
	計 (回答総数)	368	100.0%

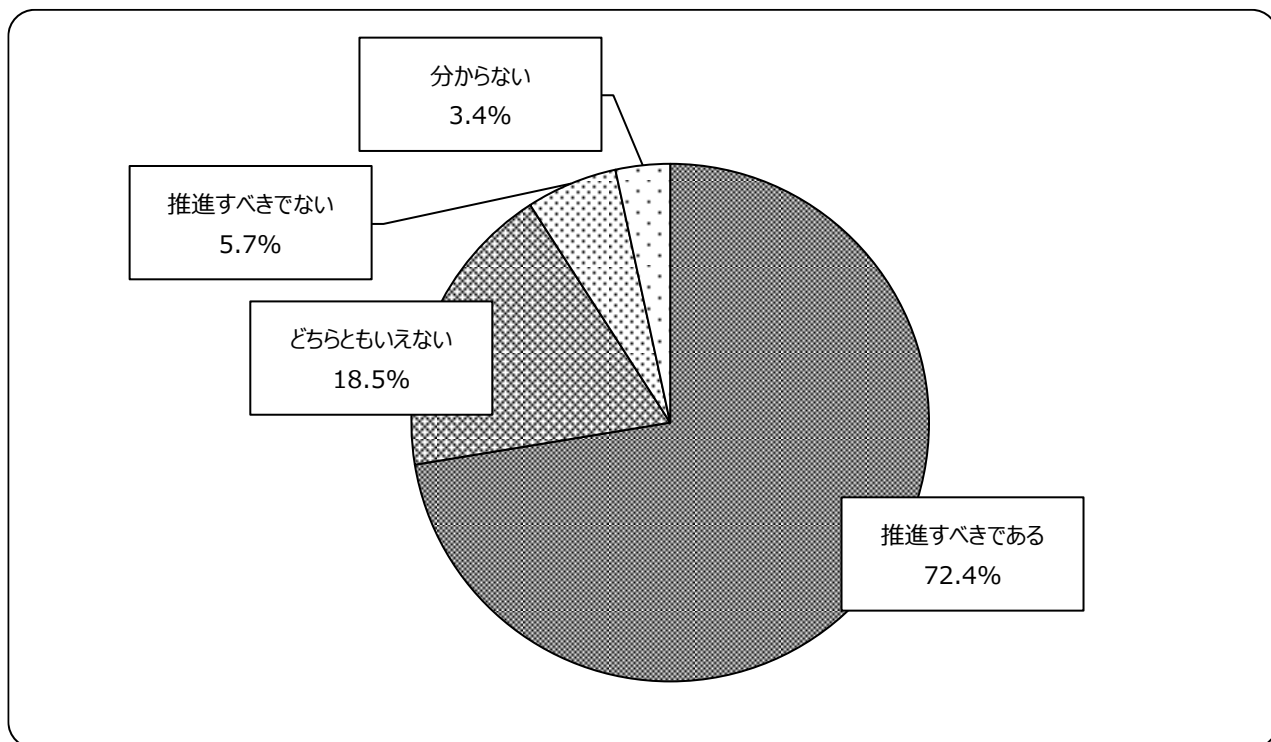


問 34. あなたは、自転車道や自転車レーンなどの自転車通行空間の整備をすることについて、どうお考えですか。

【1つ選択】

「推進すべきである」と回答した方は 72.4%であった。（令和 4 年度 81.1%）

	選択項目 (N=471)	回答数	構成比
1	推進すべきである	341	72.4%
2	どちらともいえない	87	18.5%
3	推進すべきでない	27	5.7%
4	分からない	16	3.4%
	計 (回答総数)	471	100.0%

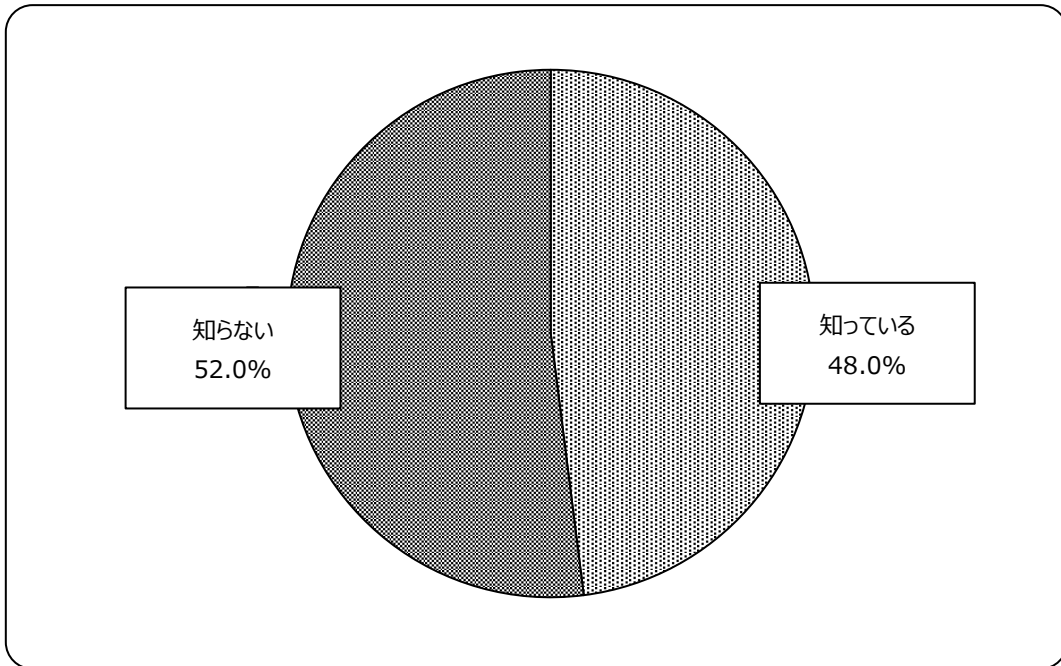


(5) 駐輪環境について

問 35. 市内の鉄道駅周辺（概ね半径 300m 以内の道路その他公共の場所）が自転車等放置禁止区域に指定されていることを知っていますか。 【1 つ選択】

「知っている」と「知らない」はほぼ同じ割合であった。

	選択項目 (N=471)	回答数	構成比
1	知っている	226	48.0%
2	知らない	245	52.0%
	計 (回答総数)	471	100.0%

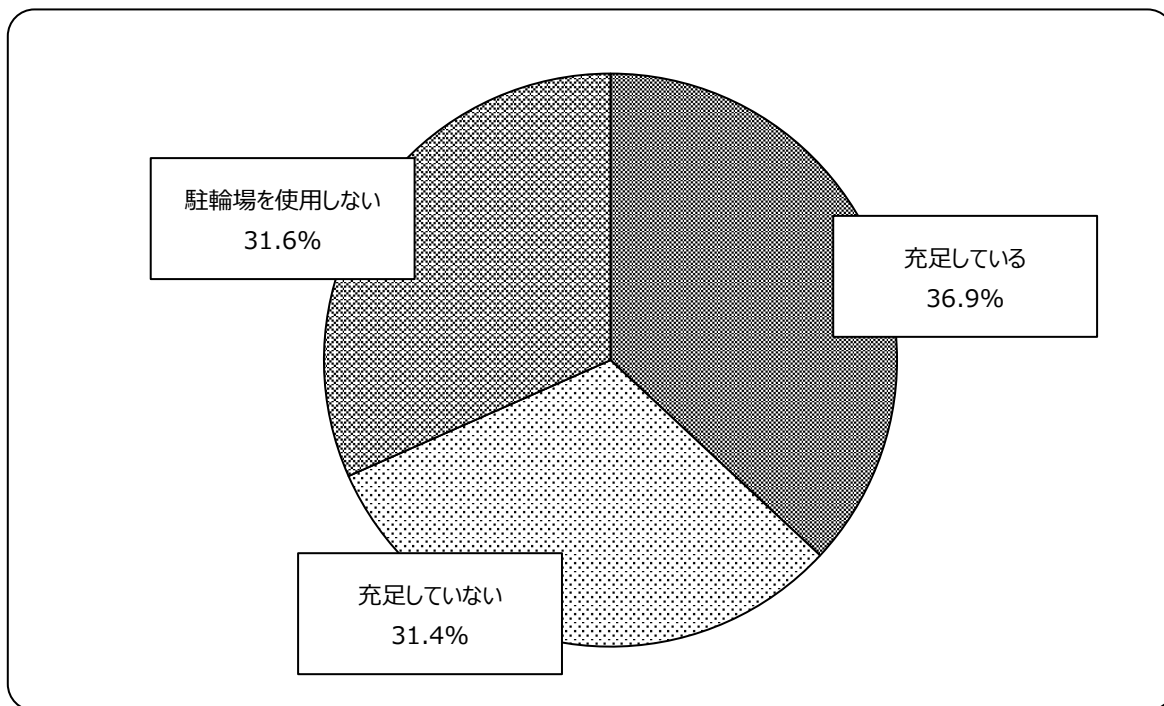


問 36. 普段ご利用されている市内の最寄り駅周辺の駐輪場は充足していると感じますか。

【1つ選択】

駐輪場を利用している方内「充足している」と回答した方は 36.9%であった。

	選択項目 (N=471)	回答数	構成比
1	充足している	174	36.9%
2	充足していない	148	31.4%
3	駐輪場を使用しない	149	31.6%
	計 (回答総数)	471	100.0%



問 37. 市内の駐輪場で希望するサービスはありますか。

【複数選択可：いくつでも】

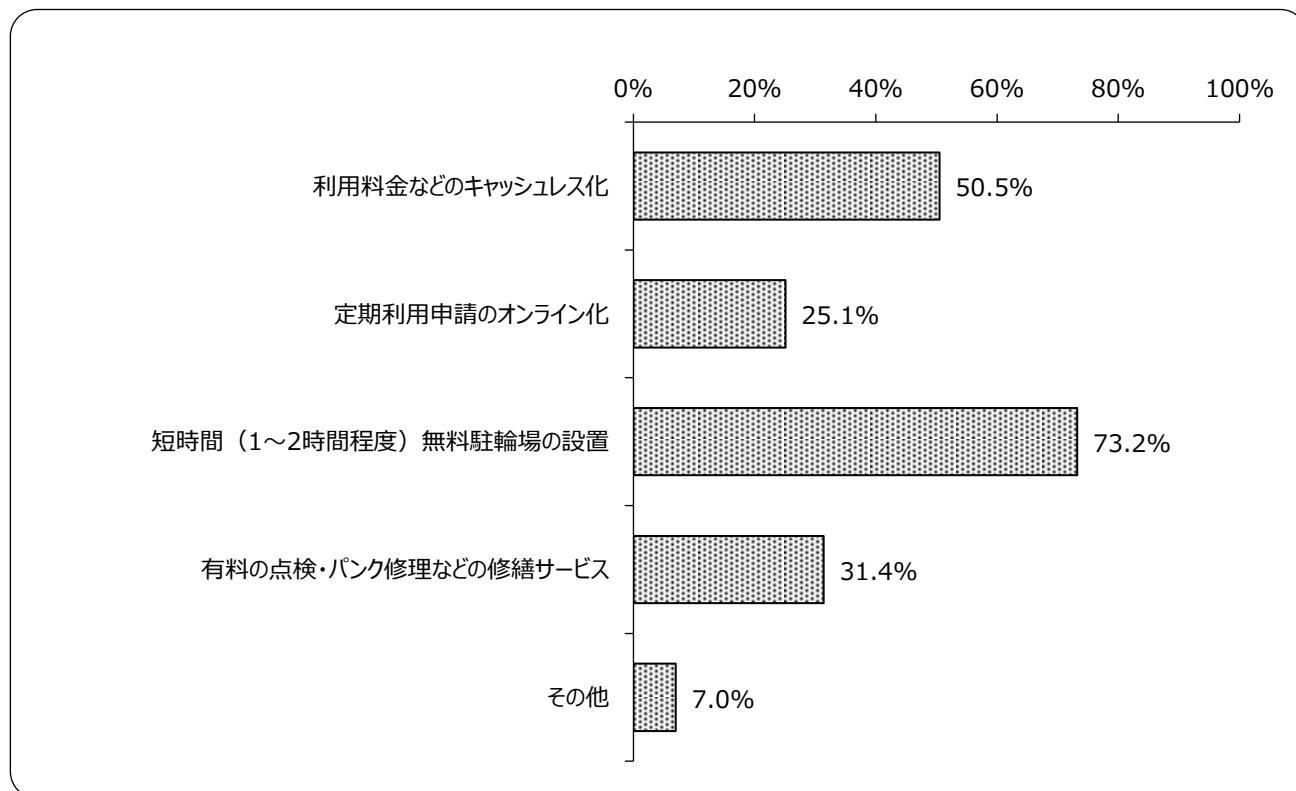
「短時間（1～2 時間程度）無料駐輪場の設置」が 73.2%と最も多く、令和 4 年度の 73.4%とほぼ同様であった。

	選択項目 (N=471)	回答数	回答数/N
1	利用料金などのキャッシュレス化	238	50.5%
2	定期利用申請のオンライン化	118	25.1%
3	短時間（1～2時間程度）無料駐輪場の設置	345	73.2%
4	有料の点検・パンク修理などの修繕サービス	148	31.4%
5	その他	33	7.0%

[5 その他]

【主な回答】

- 駐輪場の無料化や値下げ
- 子どもを乗せた電動自転車や三輪自転車がとめやすい駐輪場
- 空気入れの設置
- 駅に近い駐輪場



4. ごみ減量化・リサイクル、適正排出について

調査結果の概要

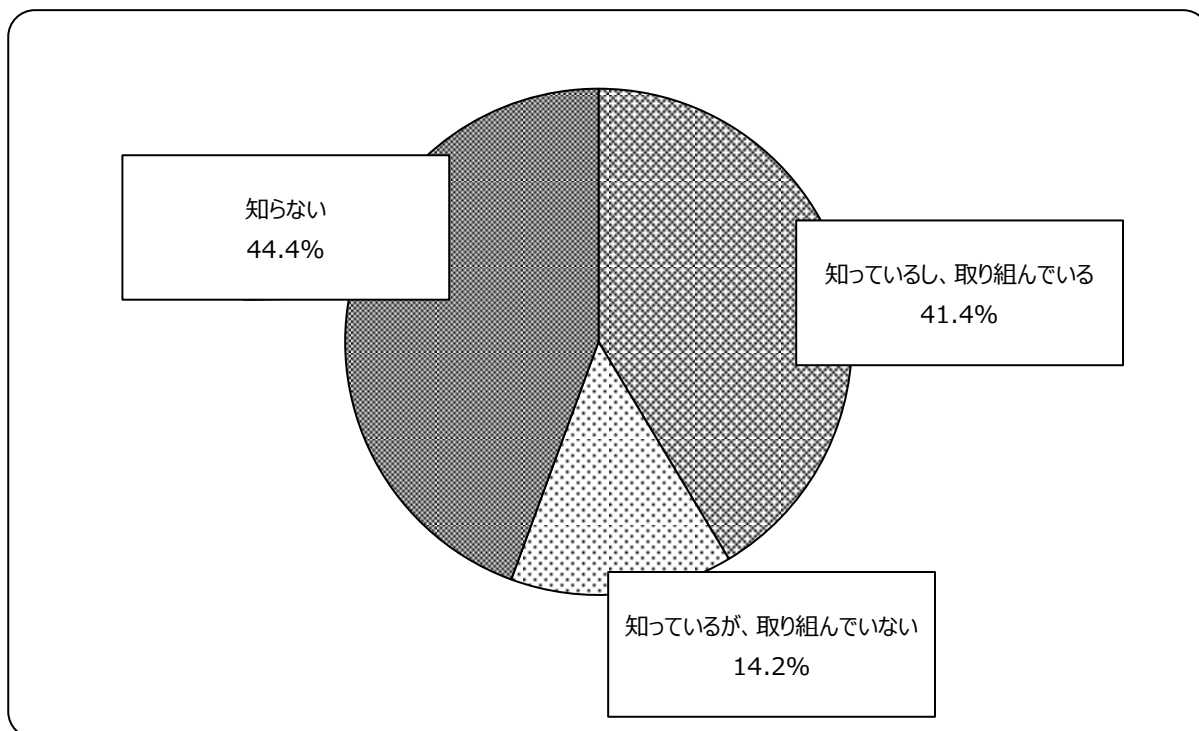
テーマ	ごみの減量化・リサイクル、適正排出について
担当課	環境局 環境事業部 環境事業管理課
設問数	15 問
趣旨・目的	<p>本市では、ごみに関わる環境問題の解決及び安定的なごみ処理体制の構築を目的として、令和 4 年 7 月から「堺・ごみ減量 4R 大作戦」を実施しています。</p> <p>今回のアンケートは、市民の皆様の当該事業の認知度やごみ減量・リサイクルに対する取組状況を把握するため、実施するものです。調査結果は今後の事業運営に活用したいと考えています。</p>
調査結果	各設問のページをご覧ください。
調査結果に係る 担当課の所見	<ul style="list-style-type: none">・問 38 では、「堺・ごみ減量 4R 大作戦」の認知度が令和 4 年度と比較し 13.1 ポイント増加し半数を超えたことから、様々な媒体を活用した周知の効果があつたと考えています。・問 39、問 41 では、広報さかいやごみ収集車のアナウンス、市ホームページでごみ減量に関する情報を得ている市民が多いため、これらの媒体を活用した情報発信を継続実施します。・問 45 では、ごみの 4R 運動のうちリフューズを知っている人、取り組んでいる人の割合が最も低いため、ごみの原因となるものを家庭に持ち込まないようマイバッグ、マイボトル、マイカトラリー（はし、フォーク、スプーン）を使い、使い捨て用品をもらわない、また過剰包装は断るなどのリフューズの行動を促す取組を実施します。

(1) 堺・ごみ減量 4R 大作戦について

問 38. 本市では、ごみに関わる環境問題の解決と安定的なごみ処理体制の構築のため、令和 4 年 7 月から令和 6 年 3 月までをごみ減量に集中的に取り組む期間と位置づけ、堺・ごみ減量 4R 大作戦を実施しています。この取組を知っていますか。 【1 つ選択】

「知っているし、取り組んでいる」及び「知っているが、取り組んでいない」の合計は 55.6%であり、令和 4 年度の 42.5%から 10 ポイント以上増加した。

	選択項目 (N=471)	回答数	構成比
1	知っているし、取り組んでいる	195	41.4%
2	知っているが、取り組んでいない	67	14.2%
3	知らない	209	44.4%
	計 (回答総数)	471	100.0%



問 39. 問 38 で「1 知っているし、取り組んでいる」「2 知っているが、取り組んでいない」と回答された方に伺います。

堺・ごみ減量 4R 大作戦についてどこで知りましたか。

【複数選択可：いくつでも】

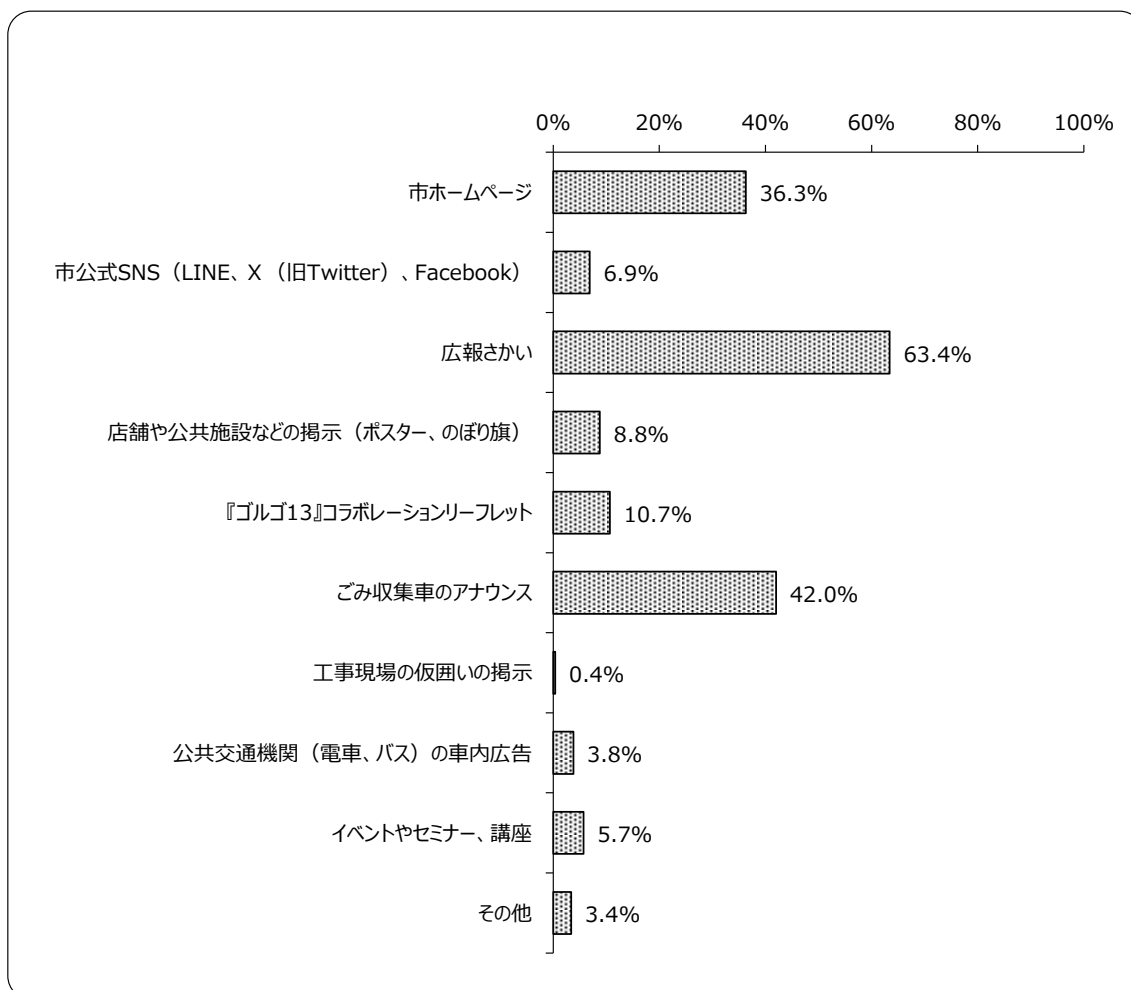
「広報さかい」が 63.4%（令和 4 年度は 62.6%）と最も多く、次いで「ごみ収集車のアナウンス」が 42.0%（令和 4 年度は 32.8%）、「市ホームページ」が 36.3%（令和 4 年度は 36.4%）であった。

	選択項目 (N=262)	回答数	回答数/N
1	市ホームページ	95	36.3%
2	市公式SNS (LINE、X (旧Twitter)、Facebook)	18	6.9%
3	広報さかい	166	63.4%
4	店舗や公共施設などの掲示 (ポスター、のぼり旗)	23	8.8%
5	『ゴルゴ13』コラボレーションリーフレット	28	10.7%
6	ごみ収集車のアナウンス	110	42.0%
7	工事現場の仮囲いの掲示	1	0.4%
8	公共交通機関 (電車、バス) の車内広告	10	3.8%
9	イベントやセミナー、講座	15	5.7%
10	その他	9	3.4%

[10 その他]

【主な回答】

- 学校
- 家族
- ジモティー 堺市クリーンセンターのアカウント
- 自治会の会議



**問 40. 問 38 で「2 知っているが、取り組んでいない」と回答された方に伺います。
取り組んでいない理由は何ですか。**

【複数選択可：いくつでも】

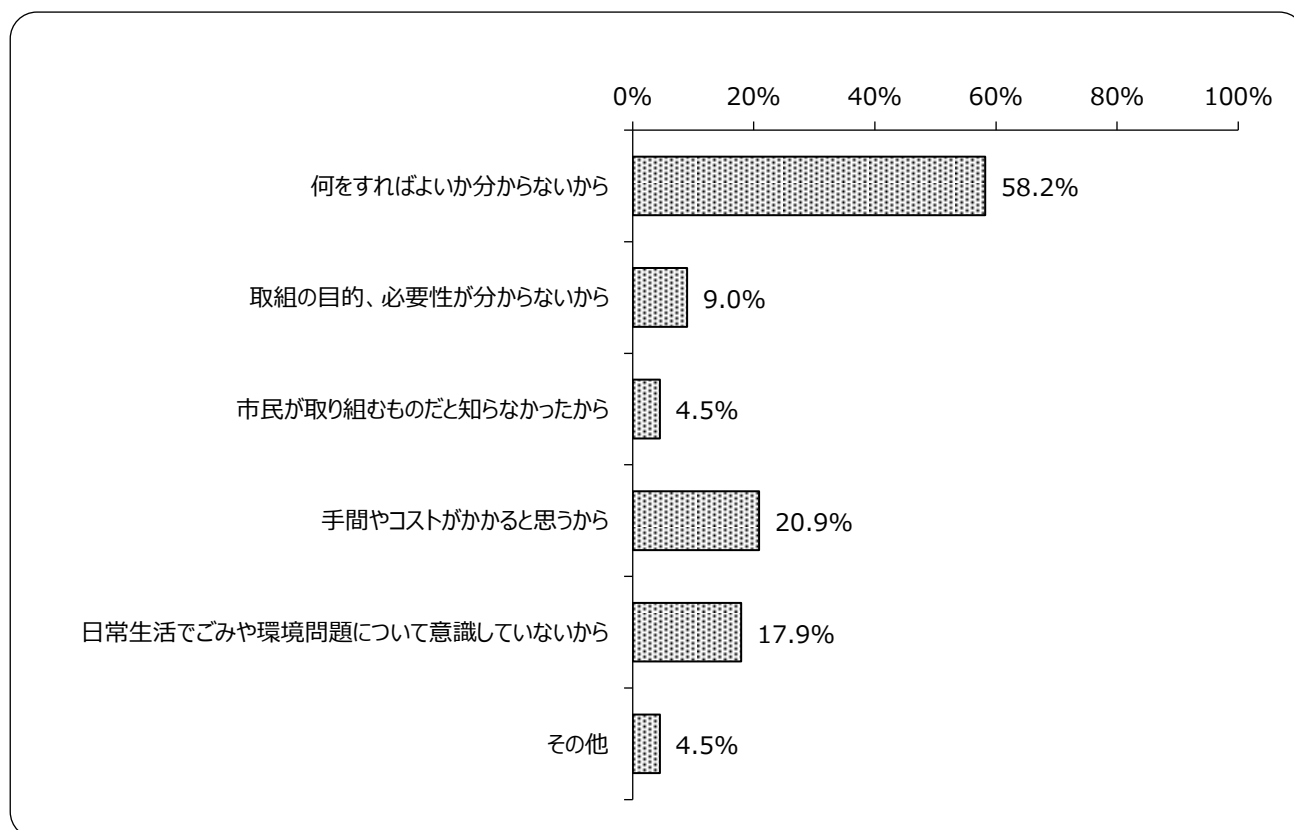
「何をすればよいか分からないから」と回答した方が 58.2%と最も多く、令和 4 年度の 67.9%から 9.7 ポイント減少した。「手間やコストがかかると思うから」が 20.9%（令和 4 年度は 11.3%）であった。

	選択項目 (N=67)	回答数	回答数/N
1	何をすればよいか分からないから	39	58.2%
2	取組の目的、必要性が分からないから	6	9.0%
3	市民が取り組むものだと知らなかったから	3	4.5%
4	手間やコストがかかると思うから	14	20.9%
5	日常生活でごみや環境問題について意識していないから	12	17.9%
6	その他	3	4.5%

[6 その他]

【全回答】

- ゴミは常に最小限しか出していない。
- 分別でいっぱい
- そのものの包装が過剰



(2) ごみ減量化・リサイクル、適正排出の情報発信媒体について

問 41. 本市のごみ減量化・リサイクルに関する情報発信媒体のうち、よく利用するものはどれですか。

【複数選択可：いくつでも】

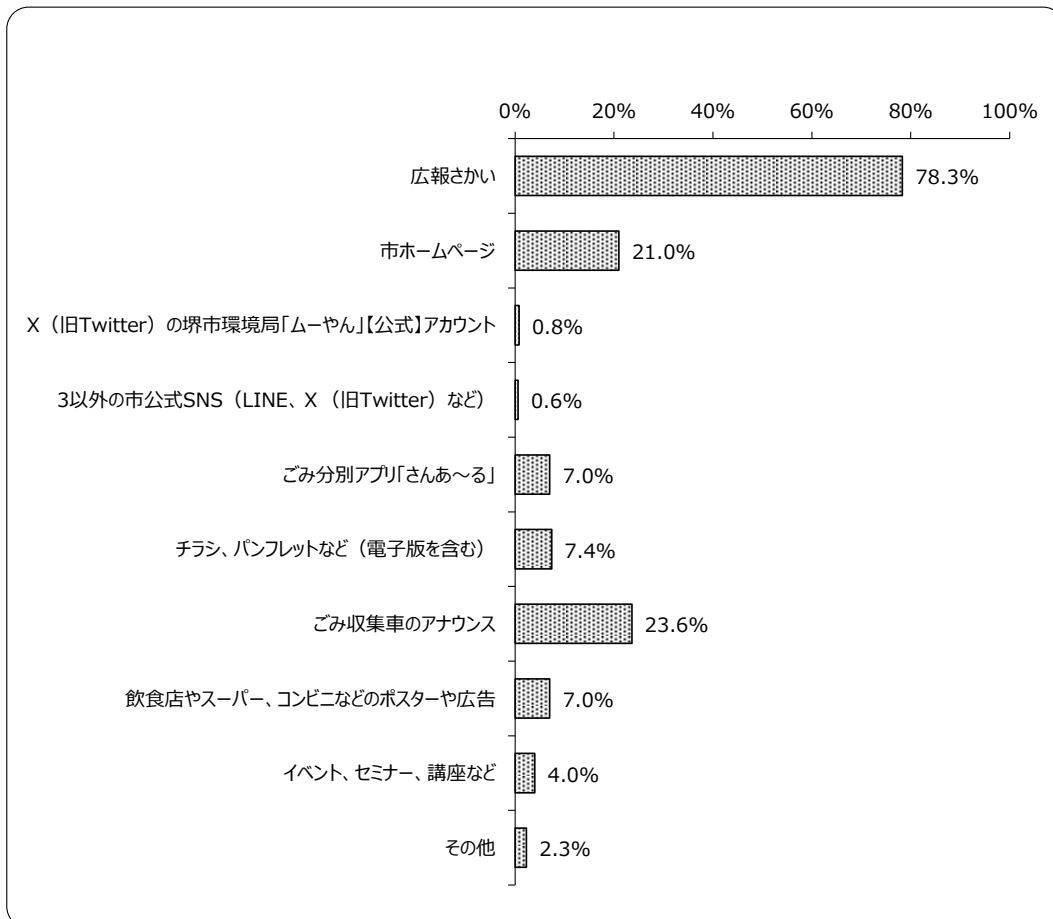
「広報さかい」と回答した方が 78.3%と最も多く、次いで「ごみ収集車のアナウンス」が 23.6%、「市ホームページ」が 21.0%であった。

	選択項目 (N=471)	回答数	回答数/N
1	広報さかい	369	78.3%
2	市ホームページ	99	21.0%
3	X (旧Twitter) の堺市環境局「ムーヤん」【公式】アカウント	4	0.8%
4	3以外の市公式SNS (LINE、X (旧Twitter) など)	3	0.6%
5	ごみ分別アプリ「さんあ〜る」	33	7.0%
6	チラシ、パンフレットなど (電子版を含む)	35	7.4%
7	ごみ収集車のアナウンス	111	23.6%
8	飲食店やスーパー、コンビニなどのポスターや広告	33	7.0%
9	イベント、セミナー、講座など	19	4.0%
10	その他	11	2.3%

[10 その他]

【主な回答】

- 利用していない。
- 自治会の会議
- 家族
- 学校
- 意識したことがない。



問 42. ごみの排出方法が分からないとき、主にどのような方法で調べていますか。 【複数選択可：いくつでも】

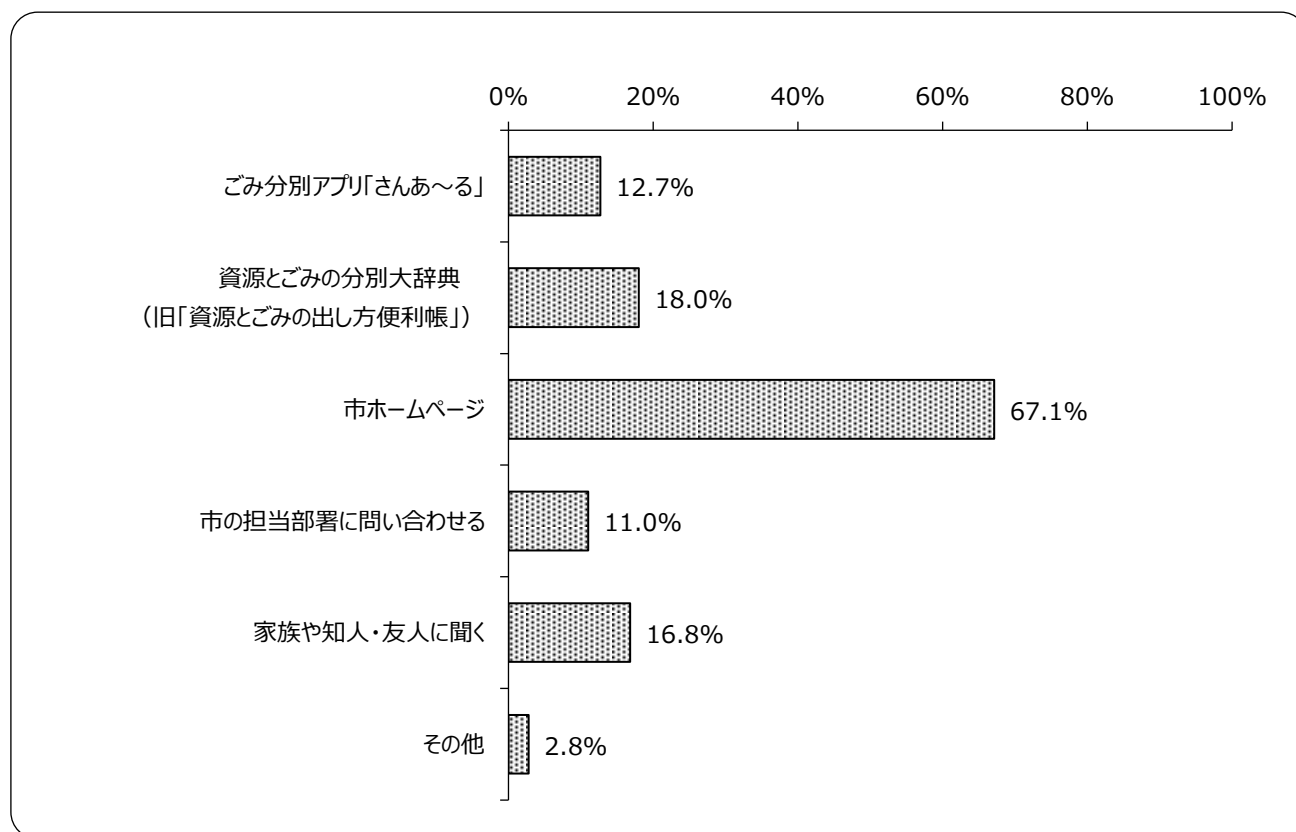
「市ホームページ」と回答した方は 67.1%と最も多く、電子媒体を活用したツールである「市ホームページ」と「ごみ分別アプリ「さんあ〜る」」の合計は 79.8%であった。

	選択項目 (N=471)	回答数	回答数/N
1	ごみ分別アプリ「さんあ〜る」	60	12.7%
2	資源とごみの分別大辞典 (旧「資源とごみの出し方便利帳」)	85	18.0%
3	市ホームページ	316	67.1%
4	市の担当部署に問い合わせる	52	11.0%
5	家族や知人・友人に聞く	79	16.8%
6	その他	13	2.8%

[6 その他]

【主な回答】

- インターネット
- 粗大ごみ受付センターに確認

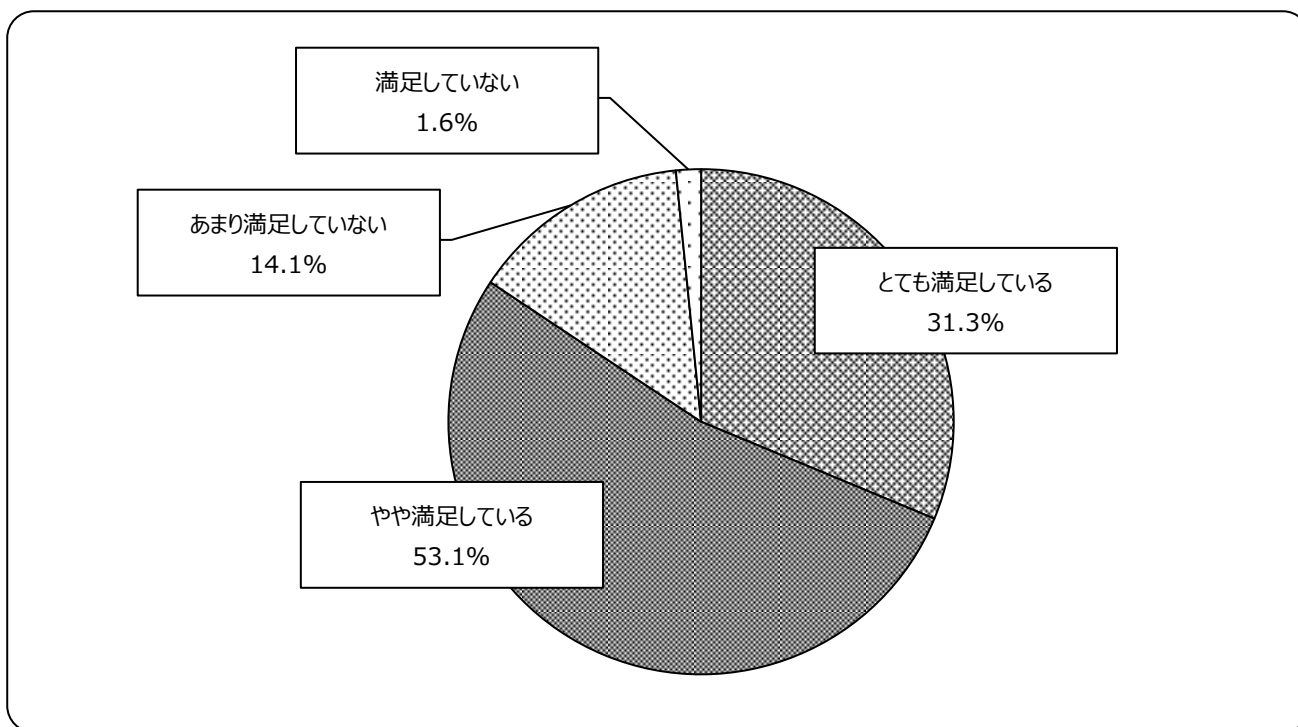


問 43. 問 41 または問 42 で「ごみ分別アプリ「さんあ〜る」と回答した方に伺います。
 アプリの内容に満足していますか。

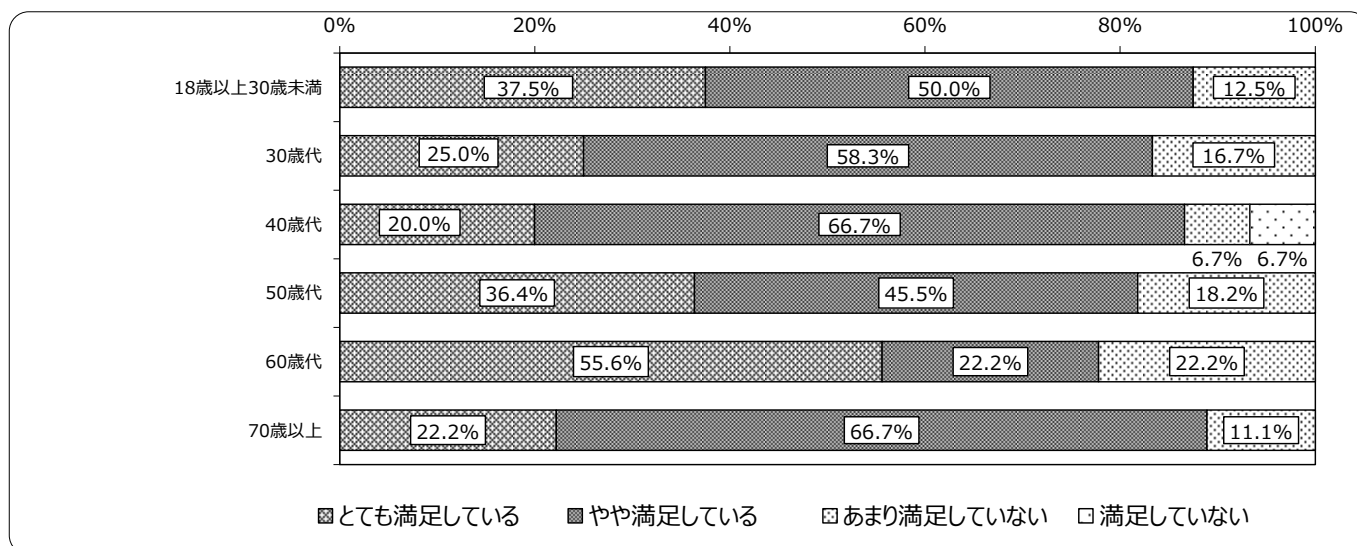
【1 つ選択】

「とても満足している」、「やや満足している」の合計は 84.4%であり、60 歳代を除くすべての年代で 80%を上回った。

	選択項目 (N=64)	回答数	構成比
1	とても満足している	20	31.3%
2	やや満足している	34	53.1%
3	あまり満足していない	9	14.1%
4	満足していない	1	1.6%
	計 (回答総数)	64	100.0%



《年齢別》



問 44. 問 43 で「3 あまり満足していない」「4 満足していない」と回答した方に伺います。

満足していない理由は何ですか。

【複数選択可：いくつでも】

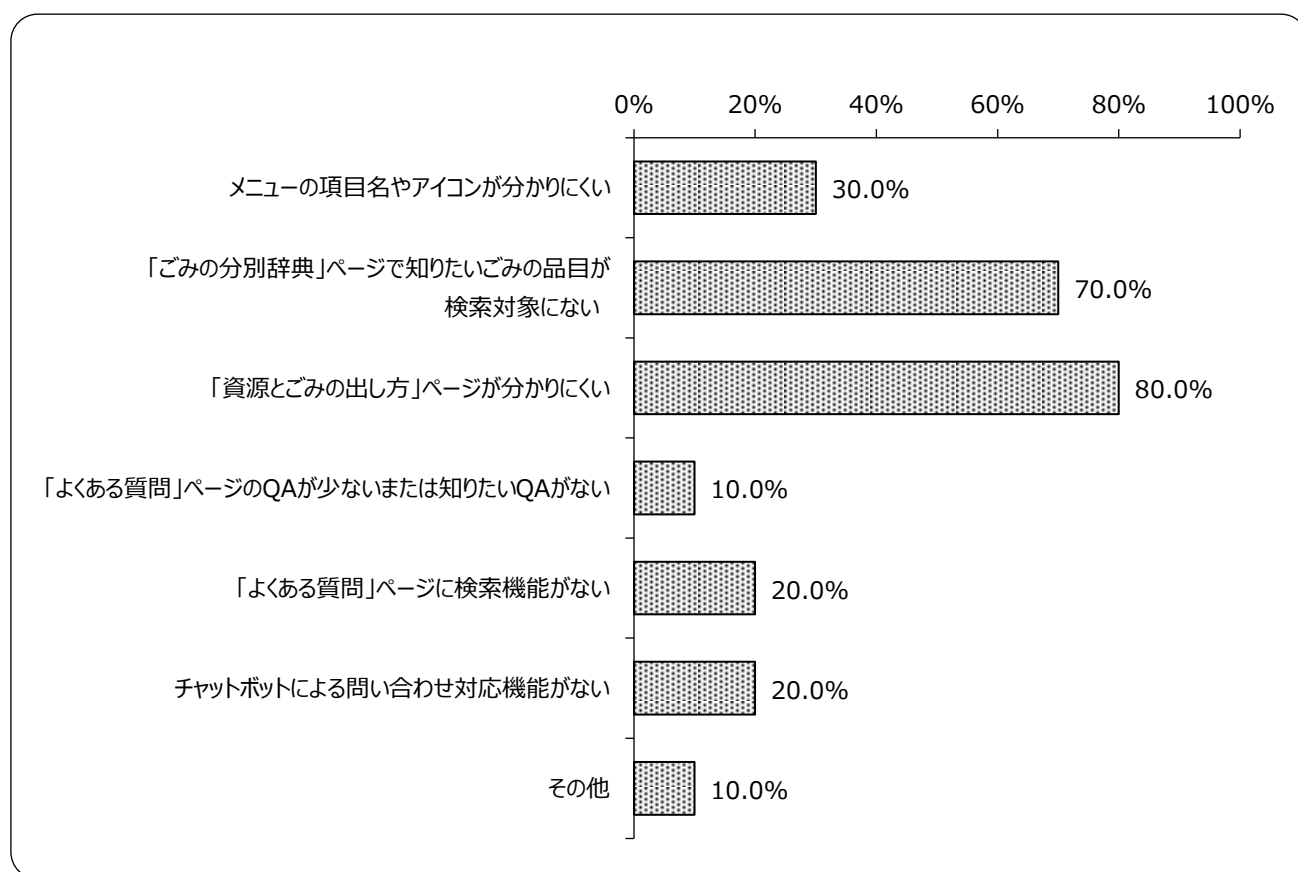
「資源とごみの出し方」ページが分かりにくい」と回答した方が 80.0%と最も多く、次いで「ごみの分別辞典」ページで知りたいごみの品目が検索対象にない」と回答した方が 70.0%であった。

	選択項目 (N=10)	回答数	回答数/N
1	メニューの項目名やアイコンが分かりにくい	3	30.0%
2	「ごみの分別辞典」ページで知りたいごみの品目が検索対象にない	7	70.0%
3	「資源とごみの出し方」ページが分かりにくい	8	80.0%
4	「よくある質問」ページのQAが少ないまたは知りたいQAがない	1	10.0%
5	「よくある質問」ページに検索機能がない	2	20.0%
6	チャットボットによる問い合わせ対応機能がない	2	20.0%
7	その他	1	10.0%

[7 その他]

【全回答】

- 品目の検索がしにくい。



(3) ごみの 4R 運動について

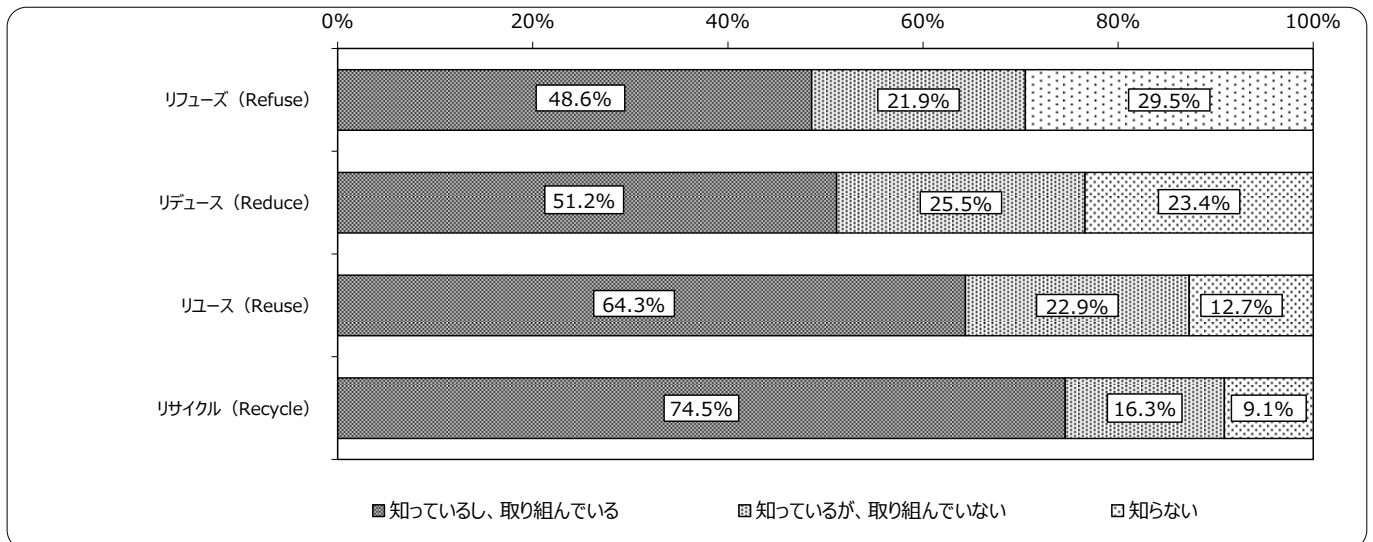
問 45. ごみの 4R 運動を知っていますか。

ごみの 4R 運動とは、ごみの減量につながる行動を示すリフューズ（Refuse：不要なものを断る）、リデュース（Reduce：ごみを減量する）、リユース（Reuse：繰り返し使う）、リサイクル（Recycle：再資源化する）の総称です。堺・ごみ減量 4R 大作戦では市民の皆様実践してもらいたい取組として推進しています。

【各項目：1 つ選択】

ごみの 4R 運動について「知っているし、取り組んでいる」と回答した方は、「リフューズ」が 48.6%（令和 4 年度 49.4%）と最も少なく、次いで「リデュース」が 51.2%（令和 4 年度 52.1%）であり、それぞれほぼ半数にとどまった。

選択項目(N=471)	知っているし、取り組んでいる	知っているが、取り組んでいない	知らない	計 (回答総数)
リフューズ (Refuse)	229 48.6%	103 21.9%	139 29.5%	471 100.0%
リデュース (Reduce)	241 51.2%	120 25.5%	110 23.4%	471 100.0%
リユース (Reuse)	303 64.3%	108 22.9%	60 12.7%	471 100.0%
リサイクル (Recycle)	351 74.5%	77 16.3%	43 9.1%	471 100.0%



**問 46. 問 45 でいずれかの項目について「2 知っているが、取り組んでいない」と回答された方に伺います。
取り組んでいない理由は何ですか。 【複数選択可：いくつでも】**

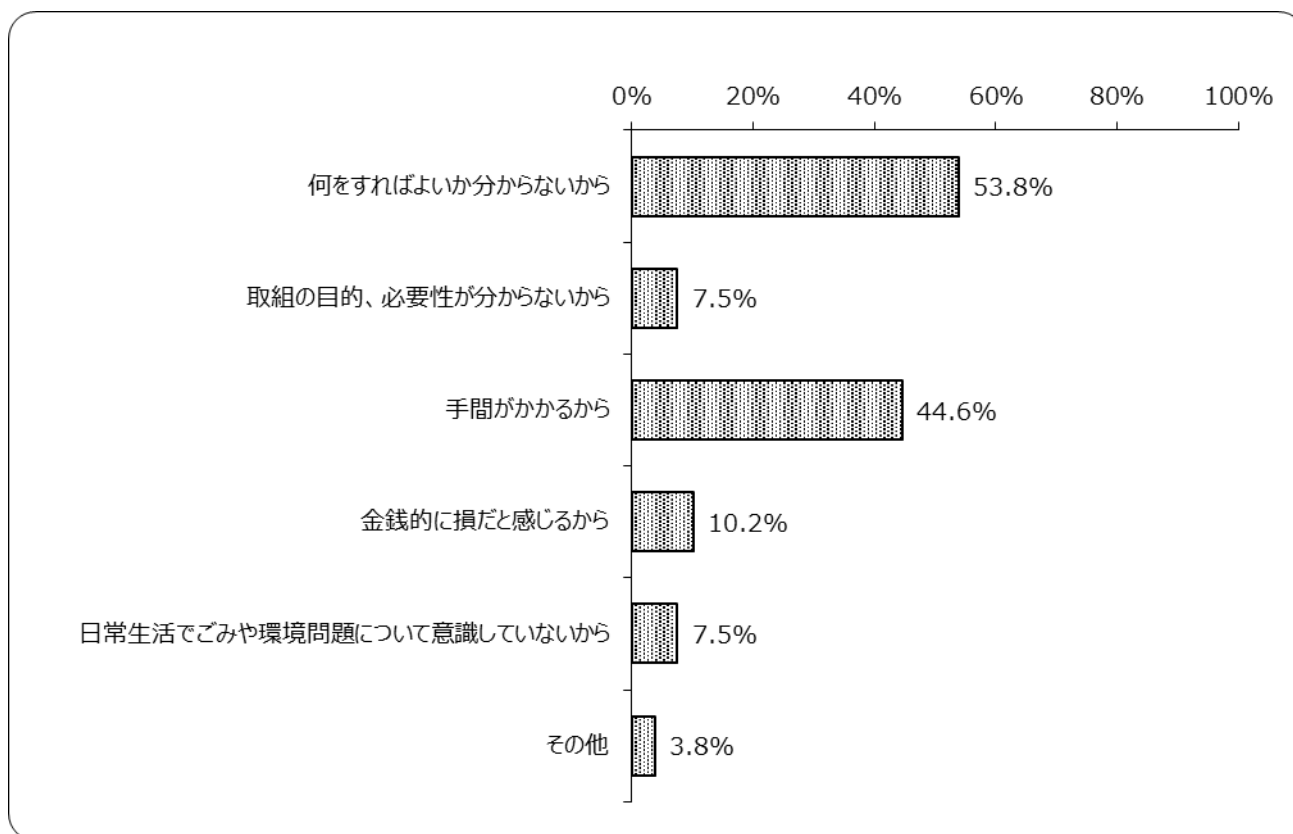
「何をすればよいか分からない」と回答した方は 53.8%であり、令和 4 年度の 47.7%から 6.1 ポイント増加した。
「手間がかかるから」と回答した方は 44.6%（令和 4 年度は 43.7%）であった。

	選択項目 (N=186)	回答数	回答数/N
1	何をすればよいか分からないから	100	53.8%
2	取組の目的、必要性が分からないから	14	7.5%
3	手間がかかるから	83	44.6%
4	金銭的に損だと感じるから	19	10.2%
5	日常生活でごみや環境問題について意識していないから	14	7.5%
6	その他	7	3.8%

[6 その他]

【主な回答】

- 新品にこだわりたい気持ちがあるため
- ついついもらえるものをもらってしまう。
- 捨てる量を減らす事は困難に感じる。家に溜め込むわけにもいかないから



(4) ごみ減量の具体的取組について

問 47. リユース（Reuse：繰り返し使う）に関して、現在どのような行動に取り組んでいますか。

【複数選択可：いくつでも】

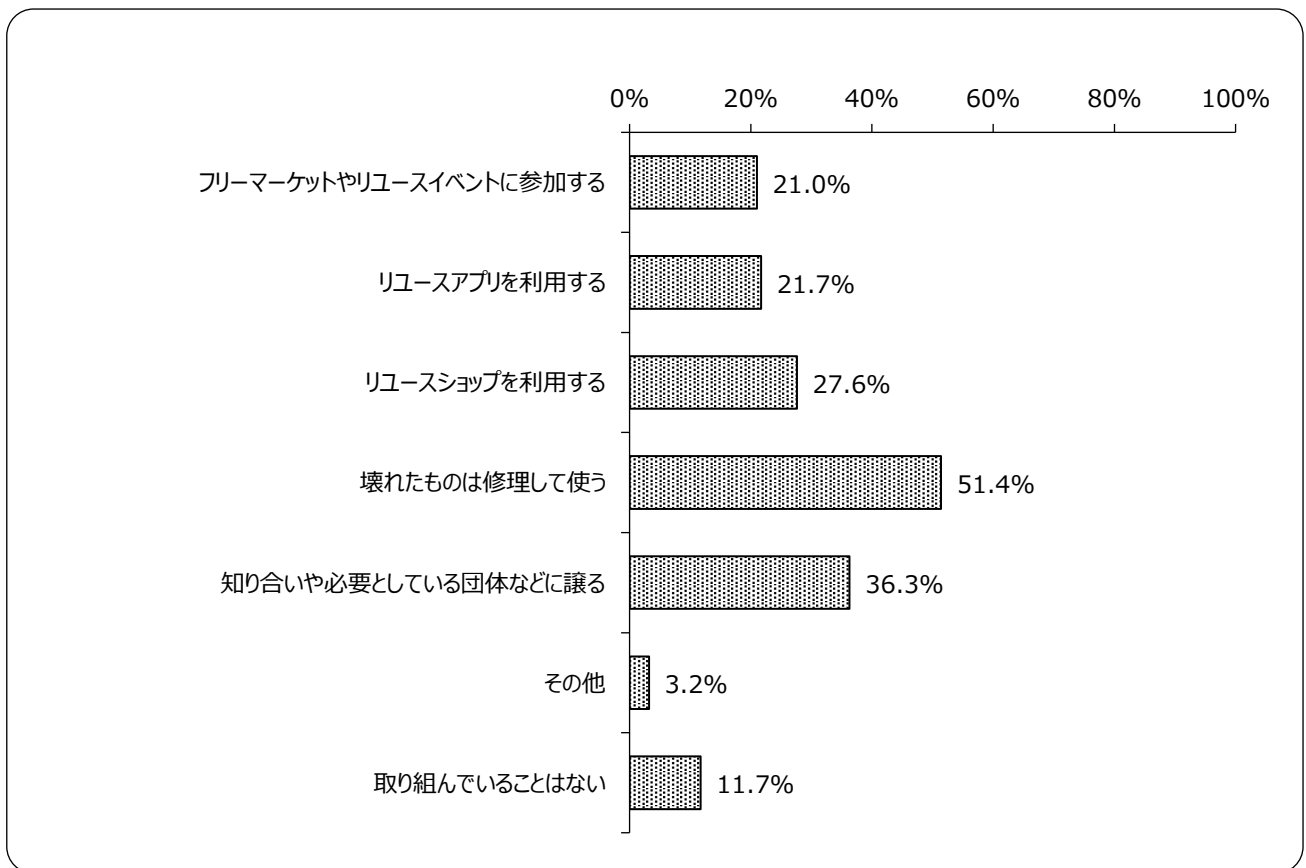
「壊れたものは修理して使う」と回答した方は 51.4%で、令和 4 年度の 54.9%から 3.5 ポイント減少した。
 「知り合いや必要としている団体などに譲る」と回答した方は 36.3%（令和 4 年度は 34.8%）であった。

	選択項目 (N=471)	回答数	回答数/N
1	フリーマーケットやリユースイベントに参加する	99	21.0%
2	リユースアプリを利用する	102	21.7%
3	リユースショップを利用する	130	27.6%
4	壊れたものは修理して使う	242	51.4%
5	知り合いや必要としている団体などに譲る	171	36.3%
6	その他	15	3.2%
7	取り組んでいることはない	55	11.7%

[6 その他]

【主な回答】

- ビニール袋を捨てずに再利用
- PTA 活動の 1 つに学用品のリユースがあるので参加している。



問 48. 使い捨てプラスチック削減に向けて、現在どのような行動に取り組んでいますか。

【複数選択可：いくつでも】

「マイバッグを持ち歩く」と回答した方は 84.3%で、令和 4 年度の 83.3%から 1.0 ポイント増加した。

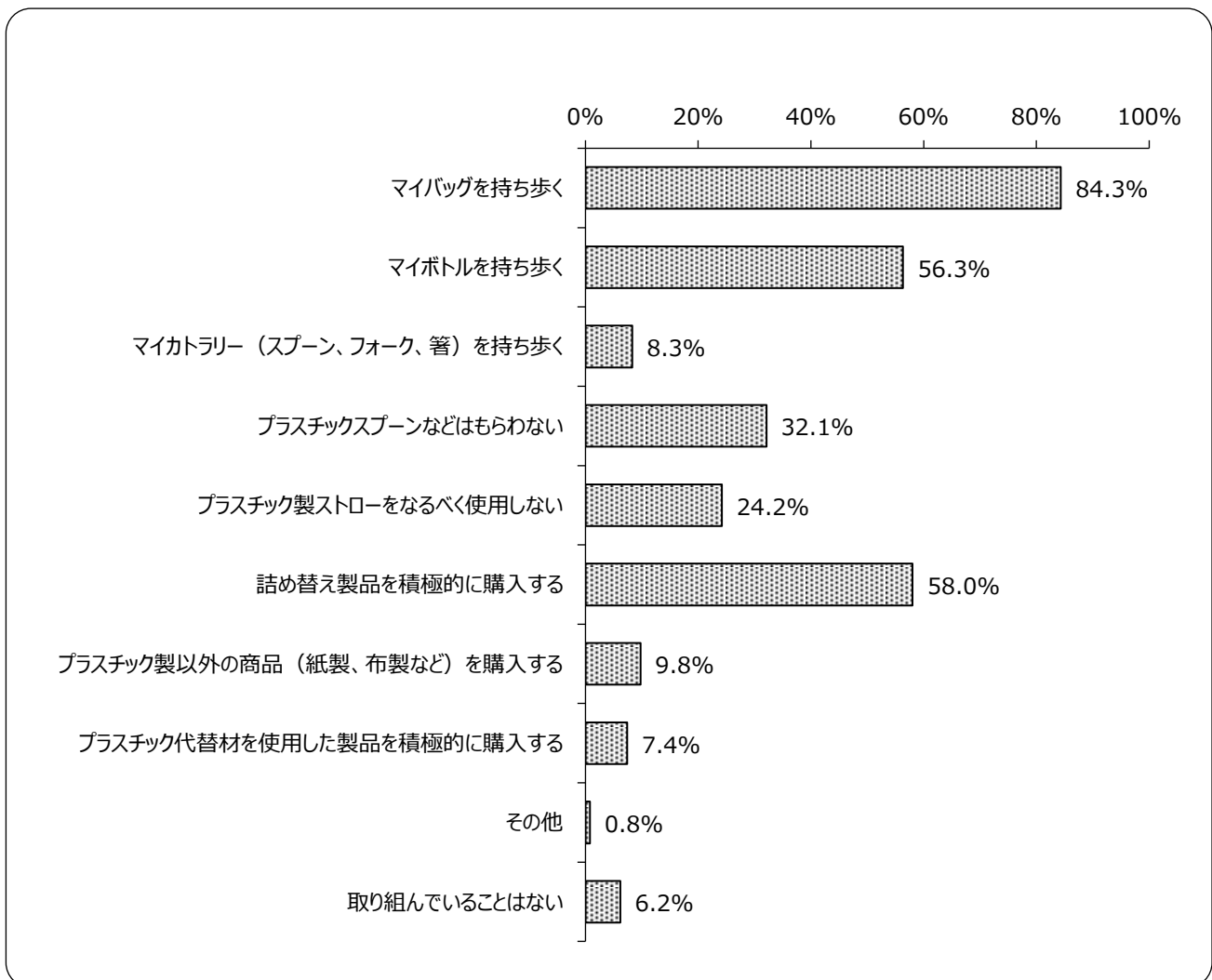
「マイボトルを持ち歩く」と回答した方は 56.3%で、令和 4 年度の 53.4%から 2.9 ポイント増加した。

	選択項目 (N=471)	回答数	回答数/N
1	マイバッグを持ち歩く	397	84.3%
2	マイボトルを持ち歩く	265	56.3%
3	マイカトラリー（スプーン、フォーク、箸）を持ち歩く	39	8.3%
4	プラスチックスプーンなどはもらわない	151	32.1%
5	プラスチック製ストローをなるべく使用しない	114	24.2%
6	詰め替え製品を積極的に購入する	273	58.0%
7	プラスチック製以外の商品（紙製、布製など）を購入する	46	9.8%
8	プラスチック代替材を使用した製品を積極的に購入する	35	7.4%
9	その他	4	0.8%
10	取り組んでいることはない	29	6.2%

[9 その他]

【主な回答】

- ゴミ袋は買わない。



問 49. 食品ロス（食べられる状態であるにも関わらず、捨てられている食品）削減に向けて、現在どのような行動に取り組んでいますか。 【複数選択可：いくつでも】

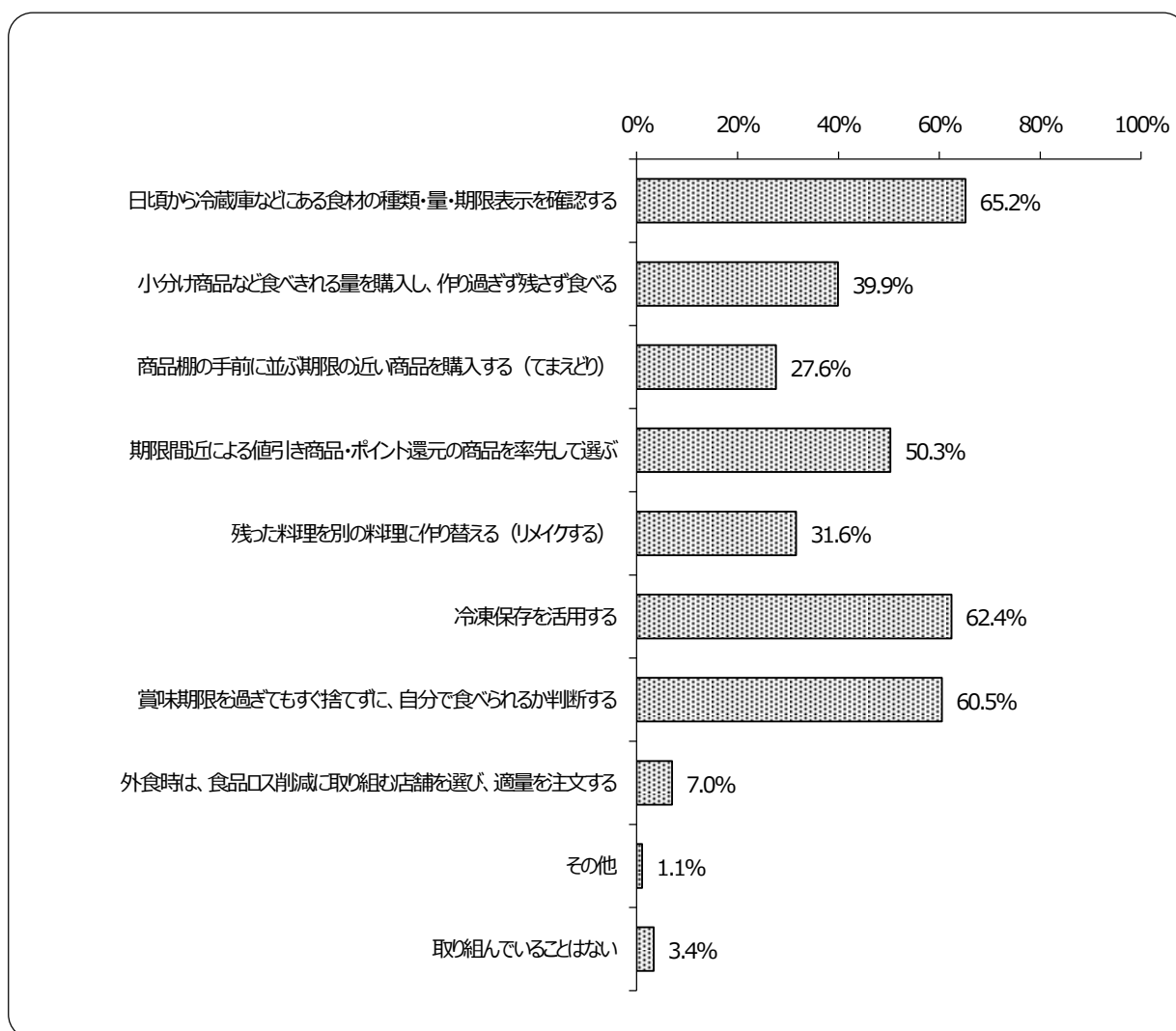
「日頃から冷蔵庫などにある食材の種類・量・期限表示を確認する」と回答した方は 65.2%（令和 4 年度 61.2%）であった。「冷凍保存を活用する」と回答した方は 62.4%で、令和 4 年度の 55.4%から 7.0 ポイント増加した。

	選択項目（N=471）	回答数	回答数/N
1	日頃から冷蔵庫などにある食材の種類・量・期限表示を確認する	307	65.2%
2	小分け商品など食べきれぬ量を購入し、作り過ぎず残さず食べる	188	39.9%
3	商品棚の手前に並ぶ期限の近い商品を購入する（てまどり）	130	27.6%
4	期限間近による値引き商品・ポイント還元の商品を率先して選ぶ	237	50.3%
5	残った料理を別の料理に作り替える（リメイクする）	149	31.6%
6	冷凍保存を活用する	294	62.4%
7	賞味期限を過ぎてもすぐ捨てずに、自分で食べられるか判断する	285	60.5%
8	外食時は、食品ロス削減に取り組む店舗を選び、適量を注文する	33	7.0%
9	その他	5	1.1%
10	取り組んでいることはない	16	3.4%

[9 その他]

【主な回答】

- 肥料にする。
- 余計なものは買わない。
- 買ったものは全て食べきる。



問 50. 古紙類の削減に向けて、現在どのような行動に取り組んでいますか。

【複数選択可：いくつでも】

「新聞、雑誌、段ボールを地域の集団回収に出してリサイクルする」と回答した方は 56.1%（令和 4 年度 55.8%）であり、「『その他の古紙』を地域に集団回収などに出してリサイクルする」と回答した方は 24.0%（令和 4 年度 22.7%）であった。

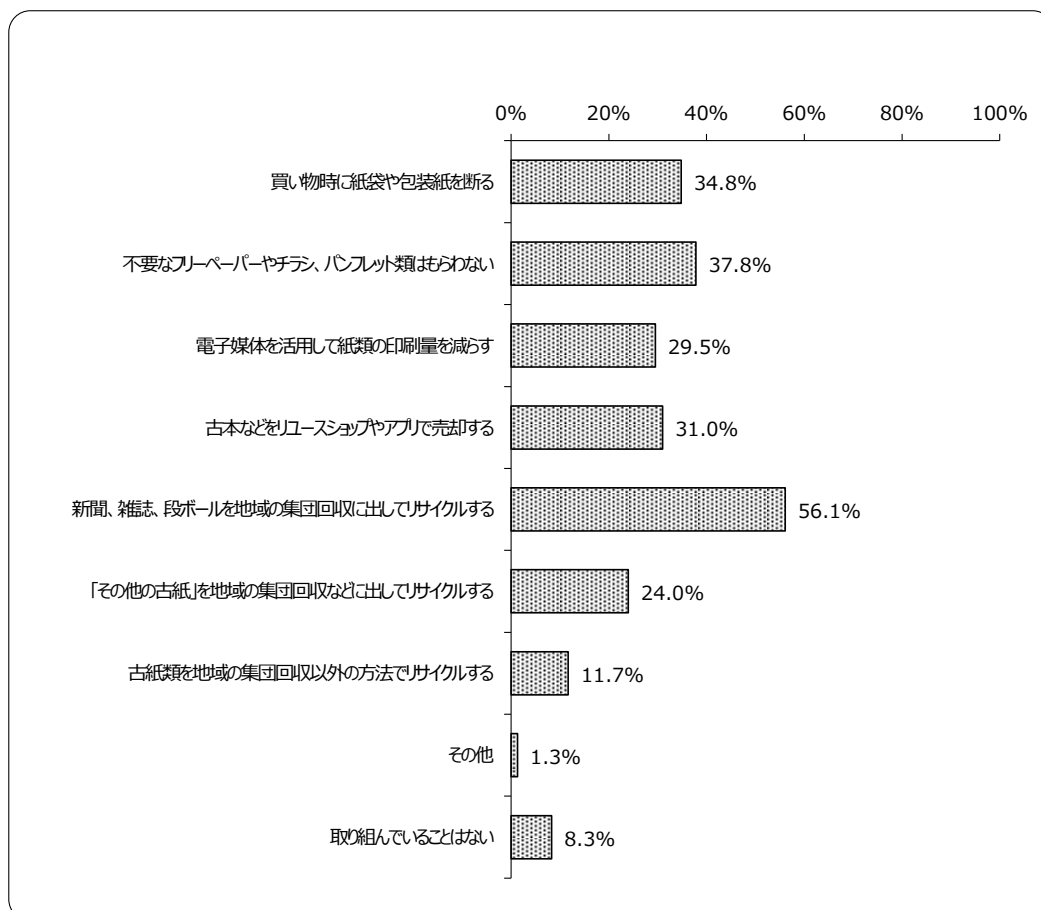
	選択項目 (N=471)	回答数	回答数/N
1	買い物時に紙袋や包装紙を断る	164	34.8%
2	不要なフリーペーパーやチラシ、パンフレット類はもらわない	178	37.8%
3	電子媒体を活用して紙類の印刷量を減らす	139	29.5%
4	古本などをリユースショップやアプリで売却する	146	31.0%
5	新聞、雑誌、段ボールを地域の集団回収に出してリサイクルする	264	56.1%
6	「その他の古紙」を地域の集団回収などに出してリサイクルする	113	24.0%
7	古紙類を地域の集団回収以外の方法でリサイクルする	55	11.7%
8	その他	6	1.3%
9	取り組んでいることはない	39	8.3%

※「その他の古紙」とはお菓子などの紙箱や包装紙、紙袋などのリサイクル可能な紙類のこと。

[8 その他]

【主な回答】

- リサイクル業者に持ち込む。
- 裏紙をメモ紙として使用
- いらない油を吸い取って再利用
- 不要になった本や絵本は図書館に寄付している。
- 図書館の利用



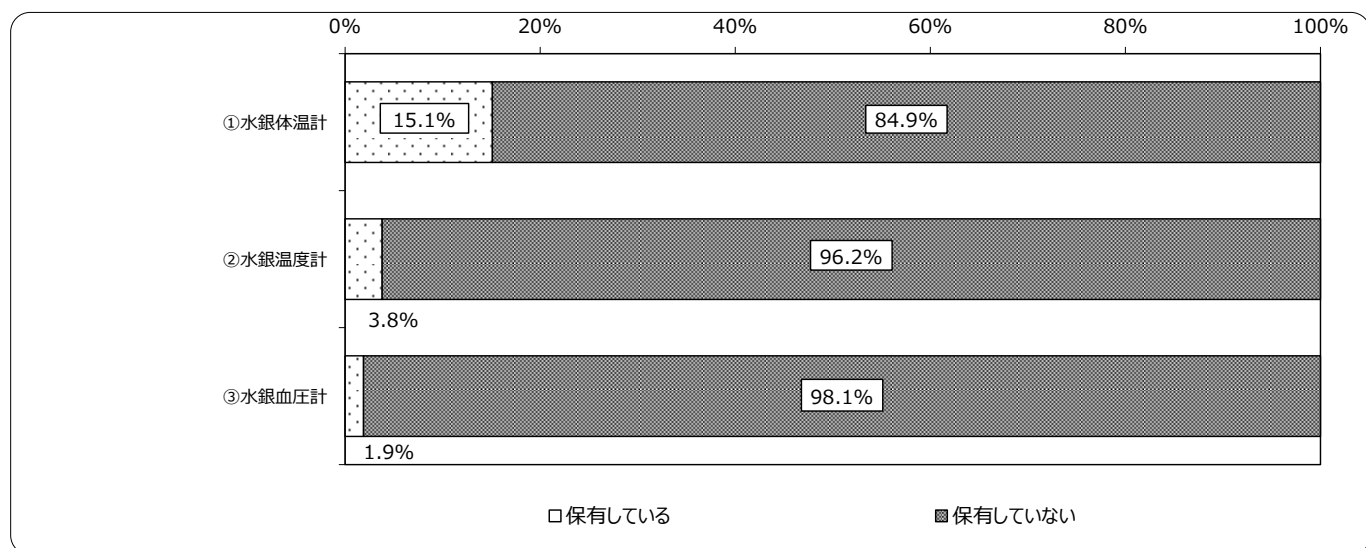
(5) 水銀使用製品の保有・使用状況について

問 51. 水銀が使用された体温計、温度計、血圧計を保有していますか。

【各項目：1つ選択】

水銀使用製品を「保有している」と回答した方の割合は、水銀体温計が 15.1%（令和 4 年度は 18.7%）、水銀温度計が 3.8%（令和 4 年度は 5.6%）、水銀血圧計が 1.9%（令和 4 年度は 1.5%）であり、令和 4 年度とほぼ同様であった。

選択項目(N=471)	保有している	保有していない	計 (回答総数)
①水銀体温計	71	400	471
	15.1%	84.9%	100.0%
②水銀温度計	18	453	471
	3.8%	96.2%	100.0%
③水銀血圧計	9	462	471
	1.9%	98.1%	100.0%



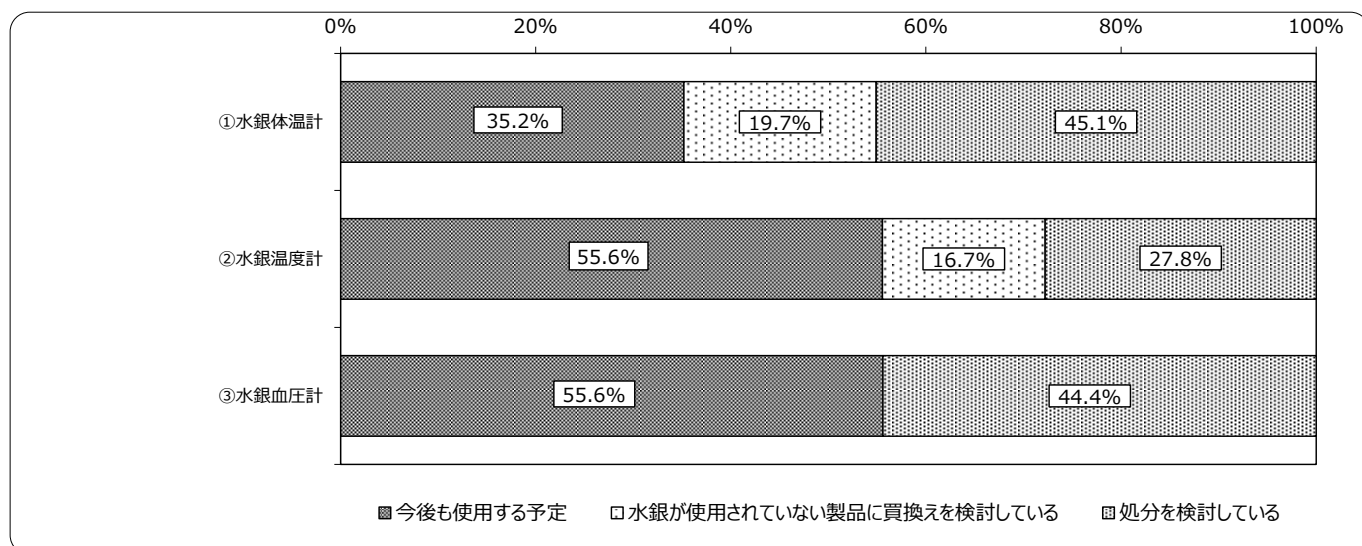
問 52. 問 51 でいずれかの項目について「1 保有している」と回答された方に伺います。

保有している各製品は今後も使用する予定ですか。

【各項目：1 つ選択】

「水銀が使用されていない製品に買換えを検討している」、「処分を検討している」の合計は、水銀体温計が 64.8%、水銀温度計が 44.5%、水銀血圧計が 44.4%であった。

選択項目 (N = 78)	今後も使用する予定	水銀が使用されていない製品に買換えを検討している	処分を検討している	計 (回答総数)
①水銀体温計	25	14	32	71
	35.2%	19.7%	45.1%	100.0%
②水銀温度計	10	3	5	18
	55.6%	16.7%	27.8%	100.0%
③水銀血圧計	5	0	4	9
	55.6%	0.0%	44.4%	100.0%



5. 大阪 880 万人訓練について

調査結果の概要

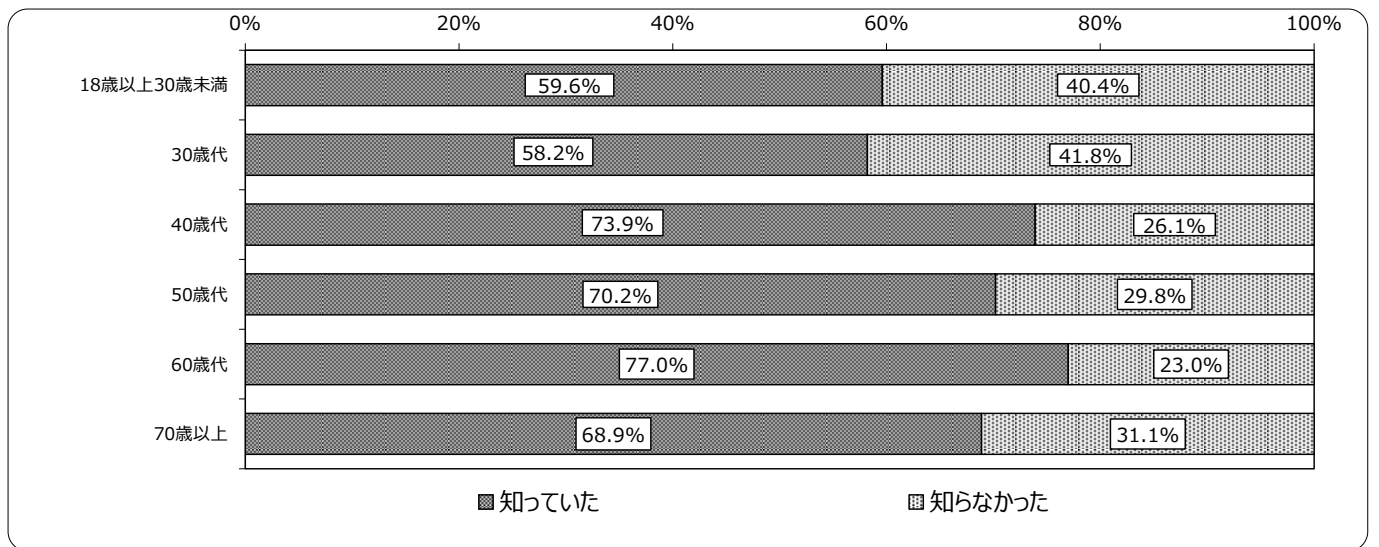
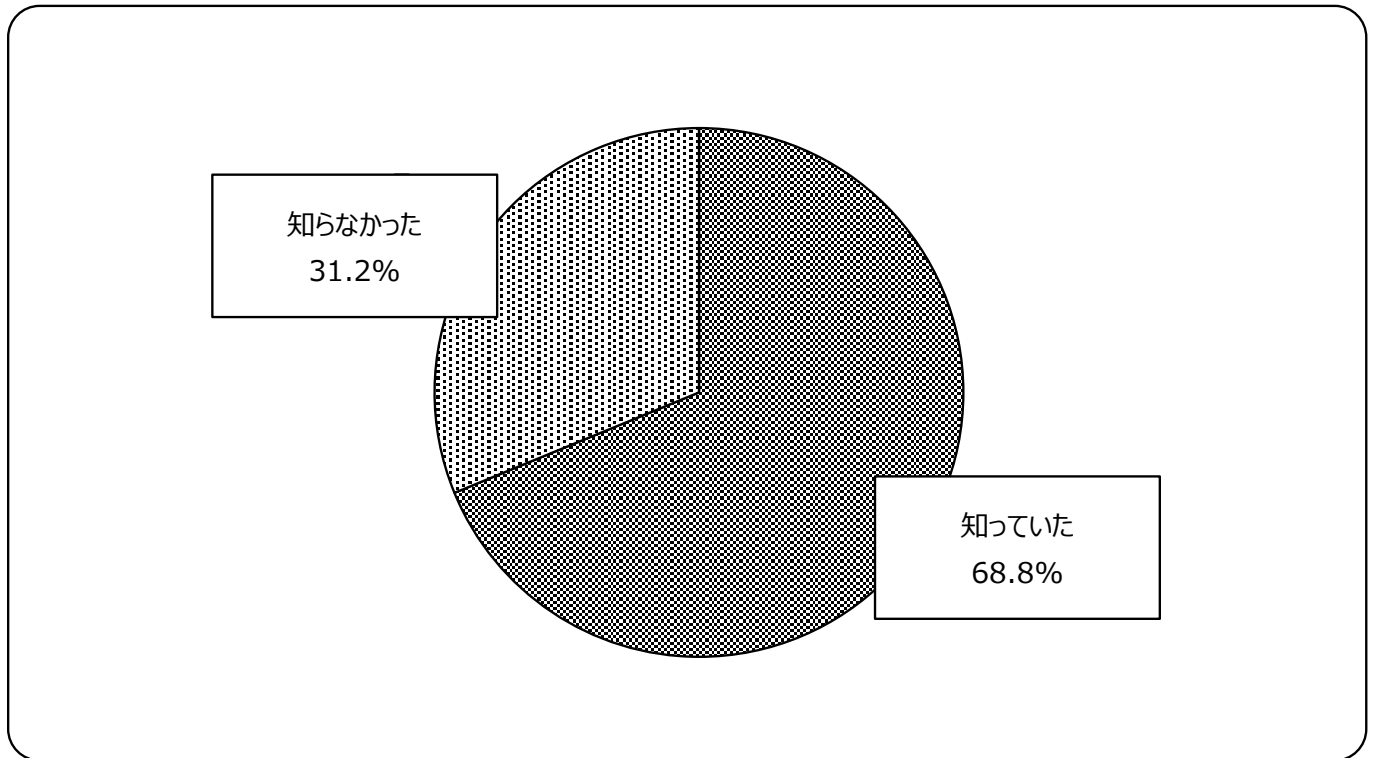
テーマ	大阪 880 万人訓練について
担当課	危機管理室 危機管理課
設問数	7 問
趣旨・目的	<p>令和 5 年度は、9 月 1 日に防災行政無線、緊急速報メールなどで南海トラフ巨大地震を想定した訓練情報を流し、その情報を受けた市民の皆様へ、ご家庭や学校・職場などそれぞれの場所で訓練を実施していただきました。</p> <p>今回のアンケートでは、皆様がこの訓練をどの程度知っていたかなどを検証します。また、次年度の訓練をより良いものにし、継続的な取組とすることにより、更なる防災意識の啓発につなげることを目的に実施します。</p>
調査結果	各設問のページをご覧ください。
調査結果に係る 担当課の所見	<ul style="list-style-type: none"> ・問 53 では、本訓練の開始日時について知らなかった方が全体で 31.2% でした。このうち、30 歳代においては 41.8%、18 歳以上 30 歳未満では 40.4% であり、これらの年齢層への広報も充実させます。 ・問 59 では、忙しかったことを理由に本訓練に参加しなかった方が全体で 49.2% でした。このうち 18 歳以上 30 歳未満では 59.5%、30 歳代では 57.1%、50 歳代では 55.4% であり、これらの年齢層への参加を促す取組が必要です。また、具体的に何をすればよいのか分からなかったことを理由に本訓練に参加しなかった方が全体で 31.3% でした。このうち 60 歳代で 40.8%、70 歳以上で 40.4% であり、これらの年齢層の方に、本訓練への参加方法や行動を分かりやすく伝達する取組が必要です。 ・以上の結果を受け、具体的な取組として、令和 6 年度から 18 歳以上 30 歳未満の方が防災情報の入手媒体・経路として多く利用する SNS に広報の重点をおき、市ホームページ、X（旧 Twitter）、Facebook 及び LINE への掲載回数を増やします。 ・また、すべての年齢層で防災情報の入手媒体として活用されているテレビ・ラジオによる周知を報道関係機関に依頼しました。この他、大阪府や大阪府市長会、大阪府町村長会に対して、大阪防災アプリの紹介や訓練参加者への参加認定証制度、訓練参加好事例集（マニュアル）の提供等を提言しました。

(1) 大阪 880 万人訓練について

問 53. 訓練開始日時（9月1日 13時30分）より前に、この訓練があることを知っていましたか。 【1つ選択】

「知らなかった」と回答した方が 30 歳代以下で約 4 割を占め、他の年代に比して多かった。

	選択項目 (N=471)	回答数	構成比
1	知っていた	324	68.8%
2	知らなかった	147	31.2%
	計 (回答総数)	471	100.0%



問 54. 問 53 で「1 知っていた」と回答された方に伺います。

今回の訓練についてどのような媒体・経路で知りましたか。

【複数選択可：いくつでも】

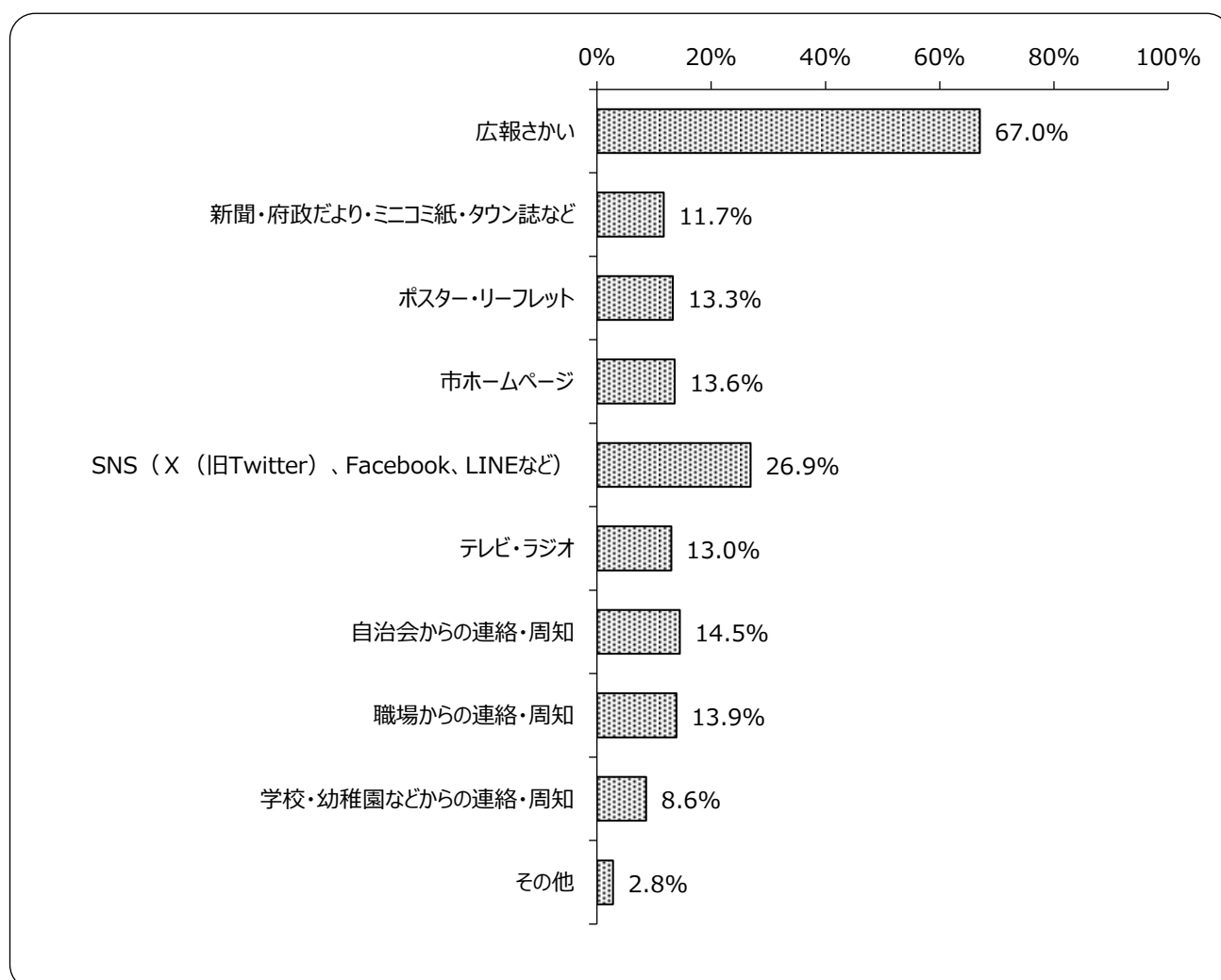
「SNS（X（旧 Twitter）、Facebook、LINE など）」と回答した方は 26.9%であり、令和 2 年度の 13.4%から増加した。

	選択項目 (N=324)	回答数	回答数/N
1	広報さかい	217	67.0%
2	新聞・府政だより・ミニコミ紙・タウン誌など	38	11.7%
3	ポスター・リーフレット	43	13.3%
4	市ホームページ	44	13.6%
5	SNS（X（旧Twitter）、Facebook、LINEなど）	87	26.9%
6	テレビ・ラジオ	42	13.0%
7	自治会からの連絡・周知	47	14.5%
8	職場からの連絡・周知	45	13.9%
9	学校・幼稚園などからの連絡・周知	28	8.6%
10	その他	9	2.8%

[10 その他]

【主な回答】

- 車内放送
- 毎年の訓練なので知っていた。
- 携帯メール
- 他市居住者からの連絡



問 55. 問 53 で「2 知らなかった」と回答された方に伺います。

近年、様々な媒体を通じて防災に関する情報が発信されていますが、こうした防災情報をどのような手段で受け取っていますか。
【複数選択可：いくつでも】

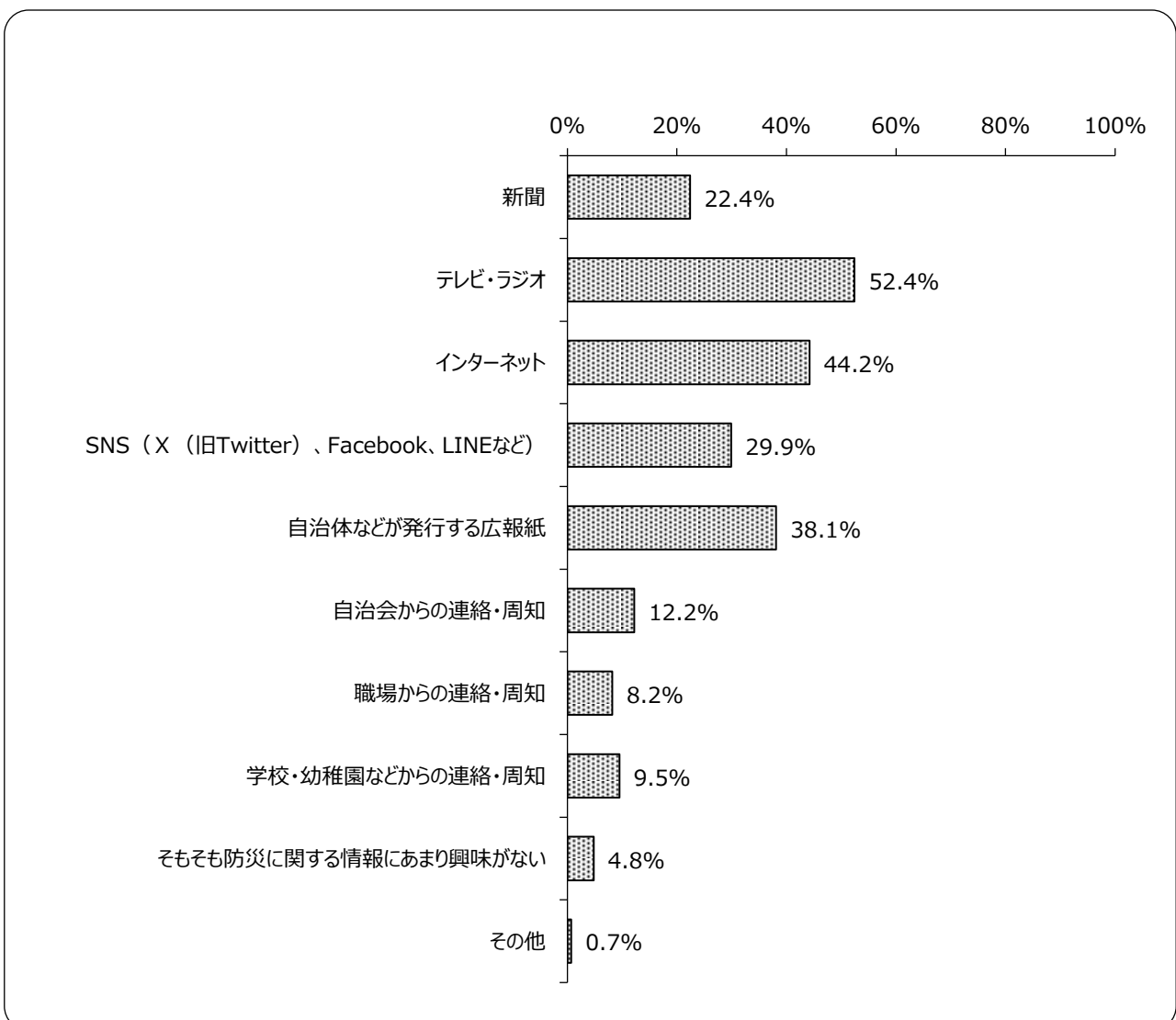
防災情報の入手手段としては、「テレビ・ラジオ」が 52.4%、「インターネット」が 44.2%であった。

	選択項目 (N=147)	回答数	回答数/N
1	新聞	33	22.4%
2	テレビ・ラジオ	77	52.4%
3	インターネット	65	44.2%
4	SNS (X (旧Twitter)、Facebook、LINEなど)	44	29.9%
5	自治体などが発行する広報紙	56	38.1%
6	自治会からの連絡・周知	18	12.2%
7	職場からの連絡・周知	12	8.2%
8	学校・幼稚園などからの連絡・周知	14	9.5%
9	そもそも防災に関する情報にあまり興味がない	7	4.8%
10	その他	1	0.7%

[10 その他]

【全回答】

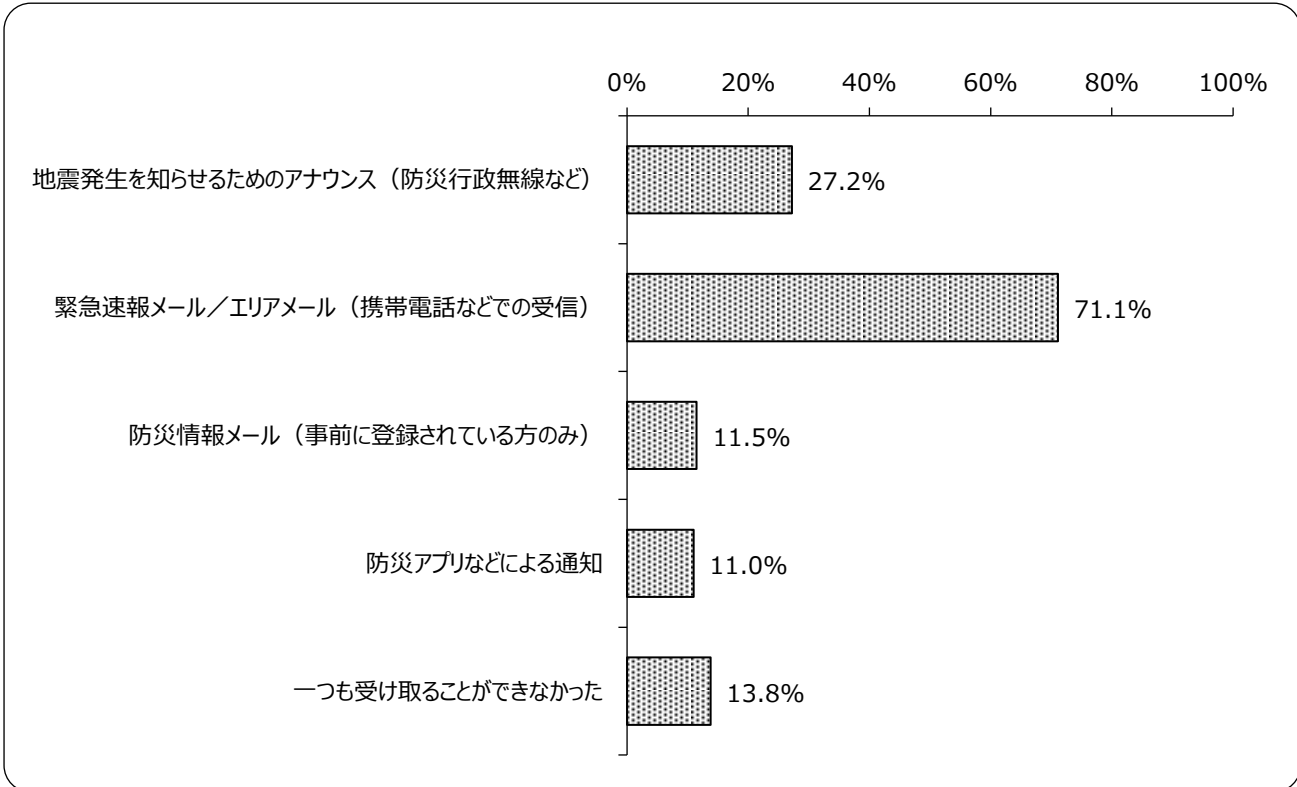
- 防災に関する情報をどこから得ればよいのか分からなかった。



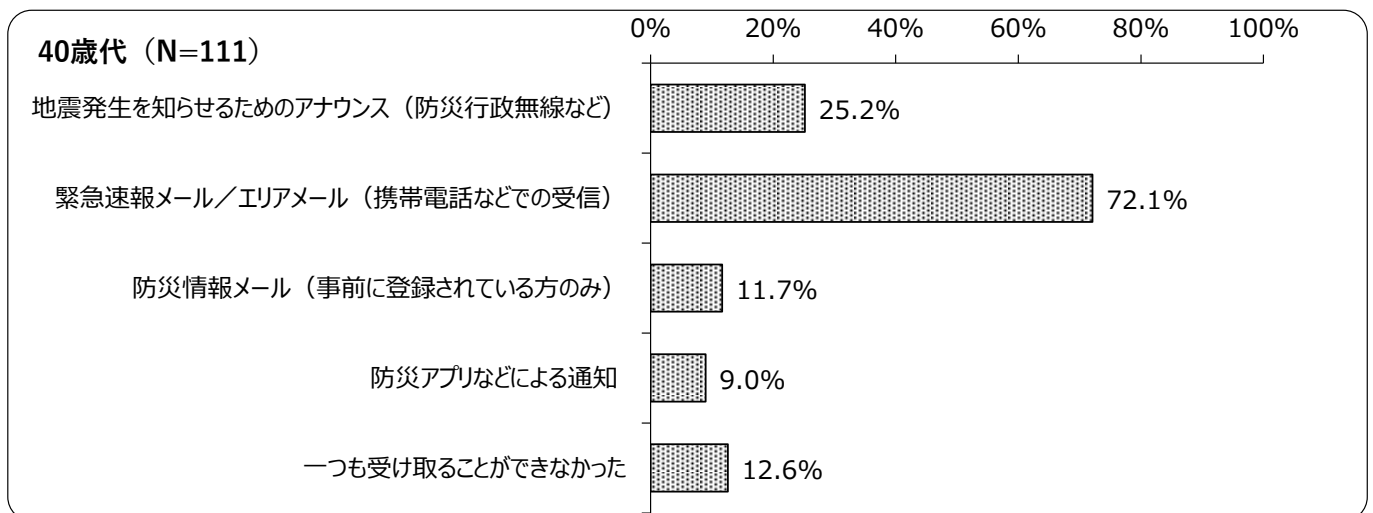
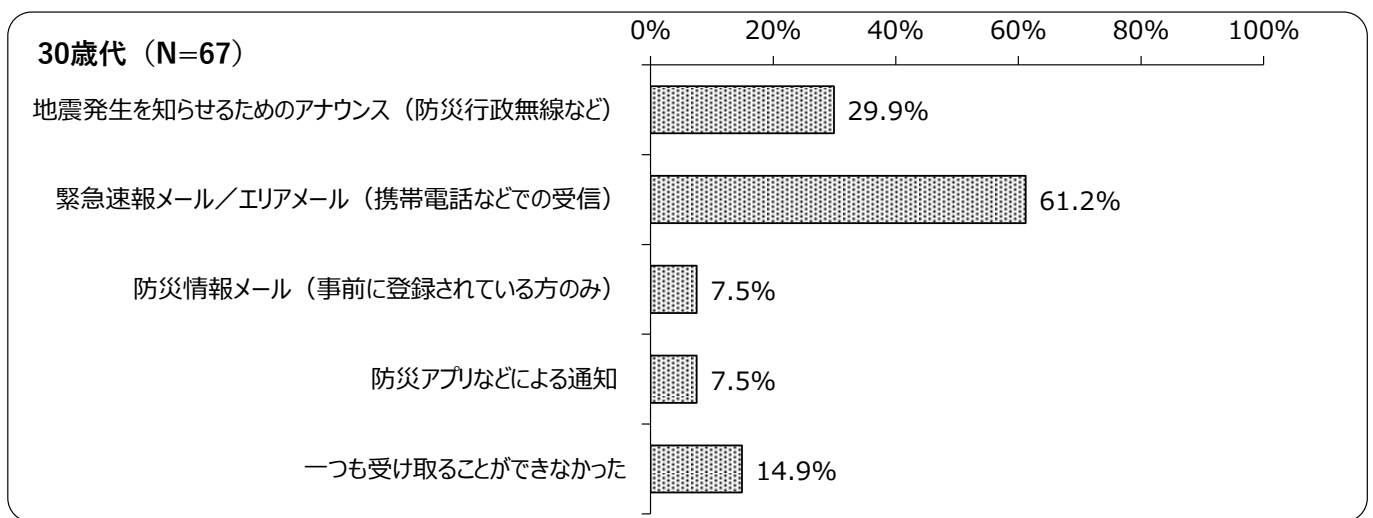
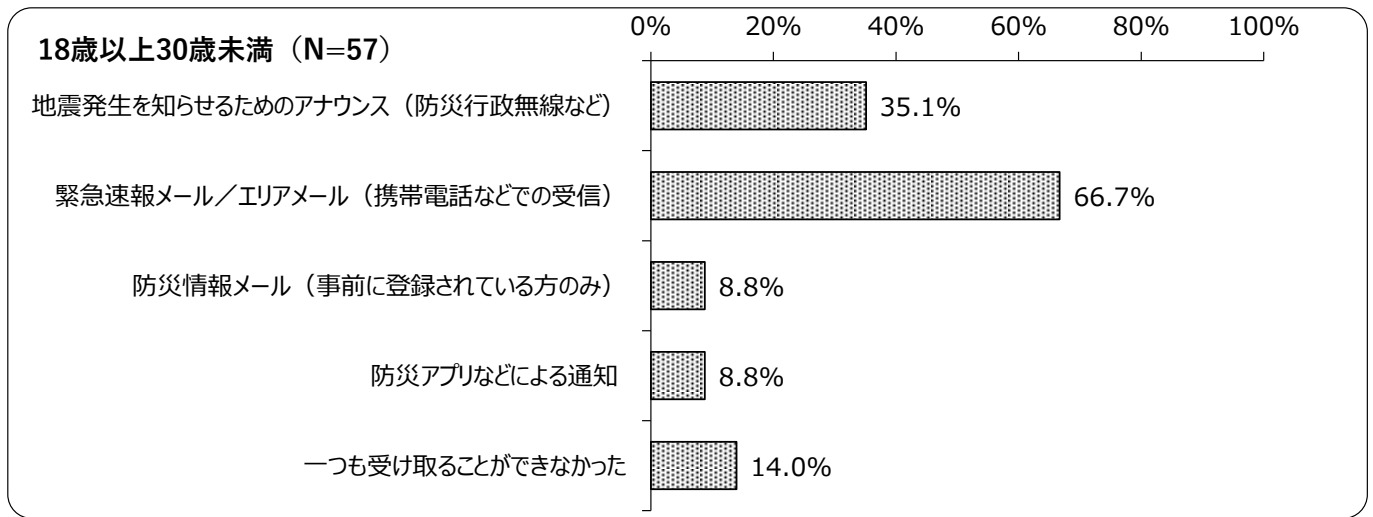
問 56. 訓練開始の合図として、4 種類アナウンスを行いました、あなたはどの合図を受け取ることができましたか。
【複数選択可：いつでも】

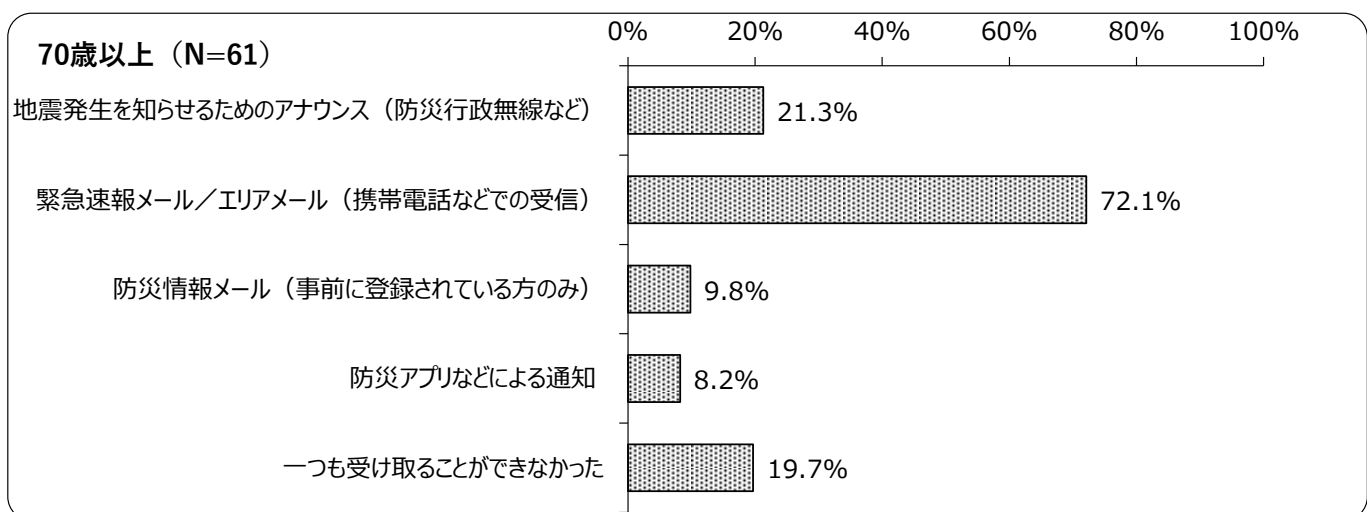
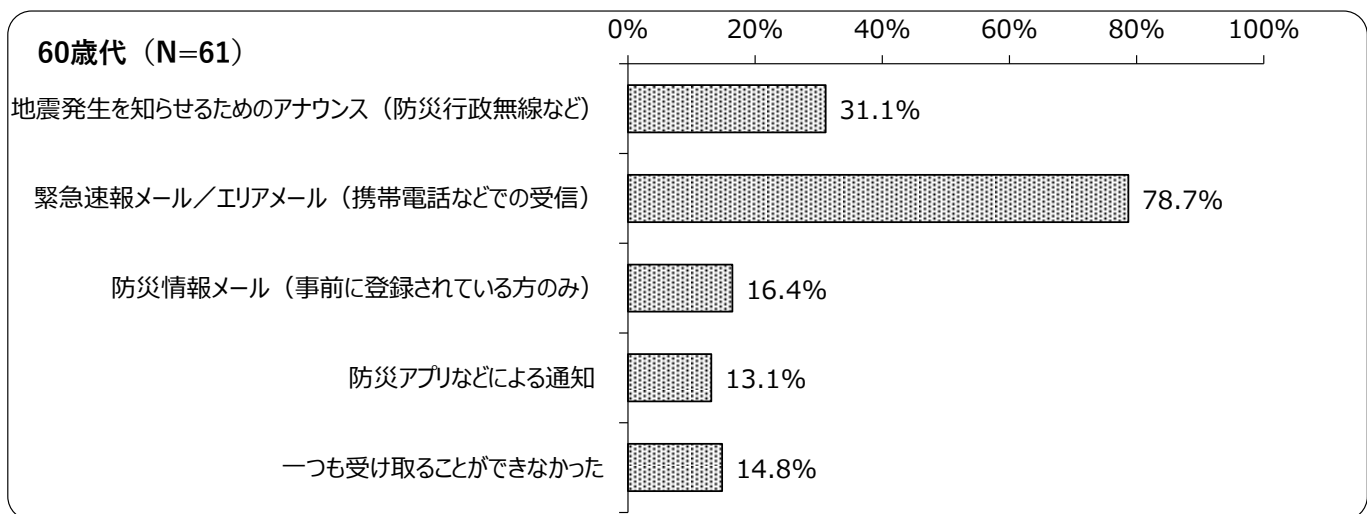
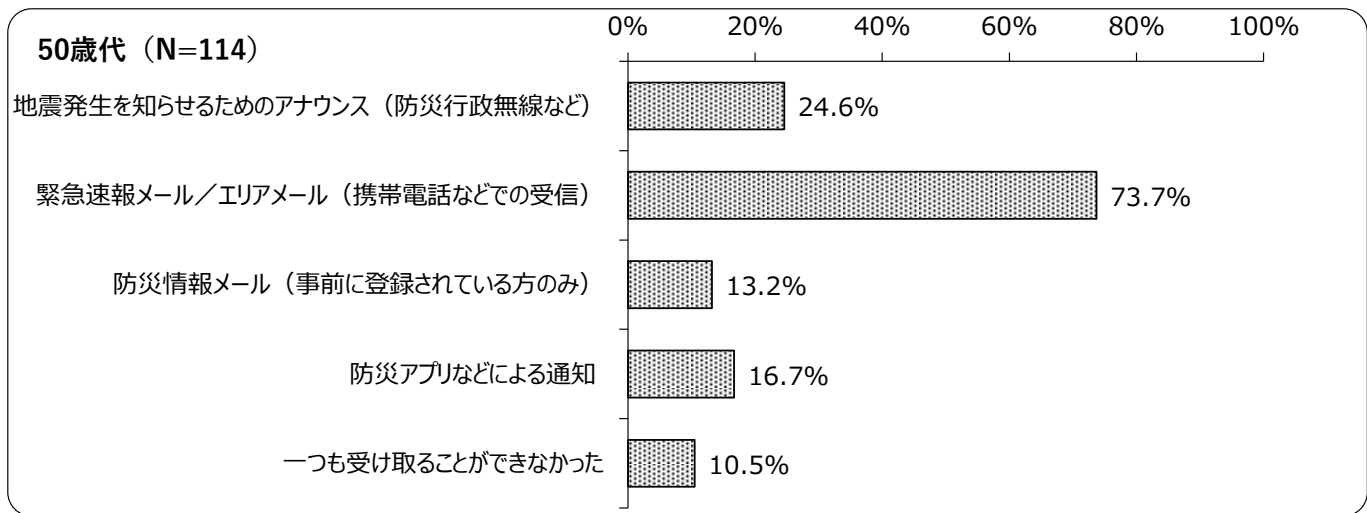
「一つも受け取ることができなかった」と回答した方の割合は 70 歳以上で約 2 割を占め、他の年代に比して多かった。

	選択項目 (N=471)	回答数	回答数/N
1	地震発生を知らせるためのアナウンス (防災行政無線など)	128	27.2%
2	緊急速報メール/エリアメール (携帯電話などでの受信)	335	71.1%
3	防災情報メール (事前に登録されている方のみ)	54	11.5%
4	防災アプリなどによる通知	52	11.0%
5	一つも受け取ることができなかった	65	13.8%



《年齢別》



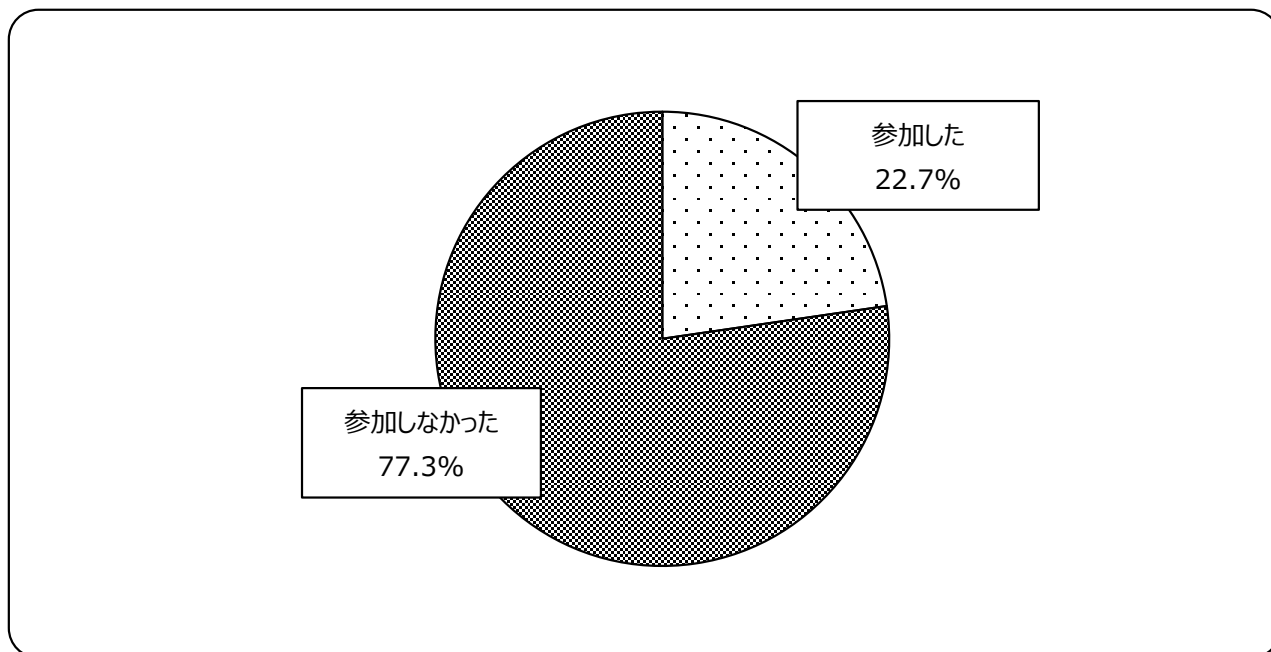


問 57. あなたは、今回の訓練に参加しましたか。

【1つ選択】

「参加した」と回答した方は 22.7%であり、令和 2 年度の 35.1%から減少した。

	選択項目 (N=471)	回答数	構成比
1	参加した	107	22.7%
2	参加しなかった	364	77.3%
	計 (回答総数)	471	100.0%

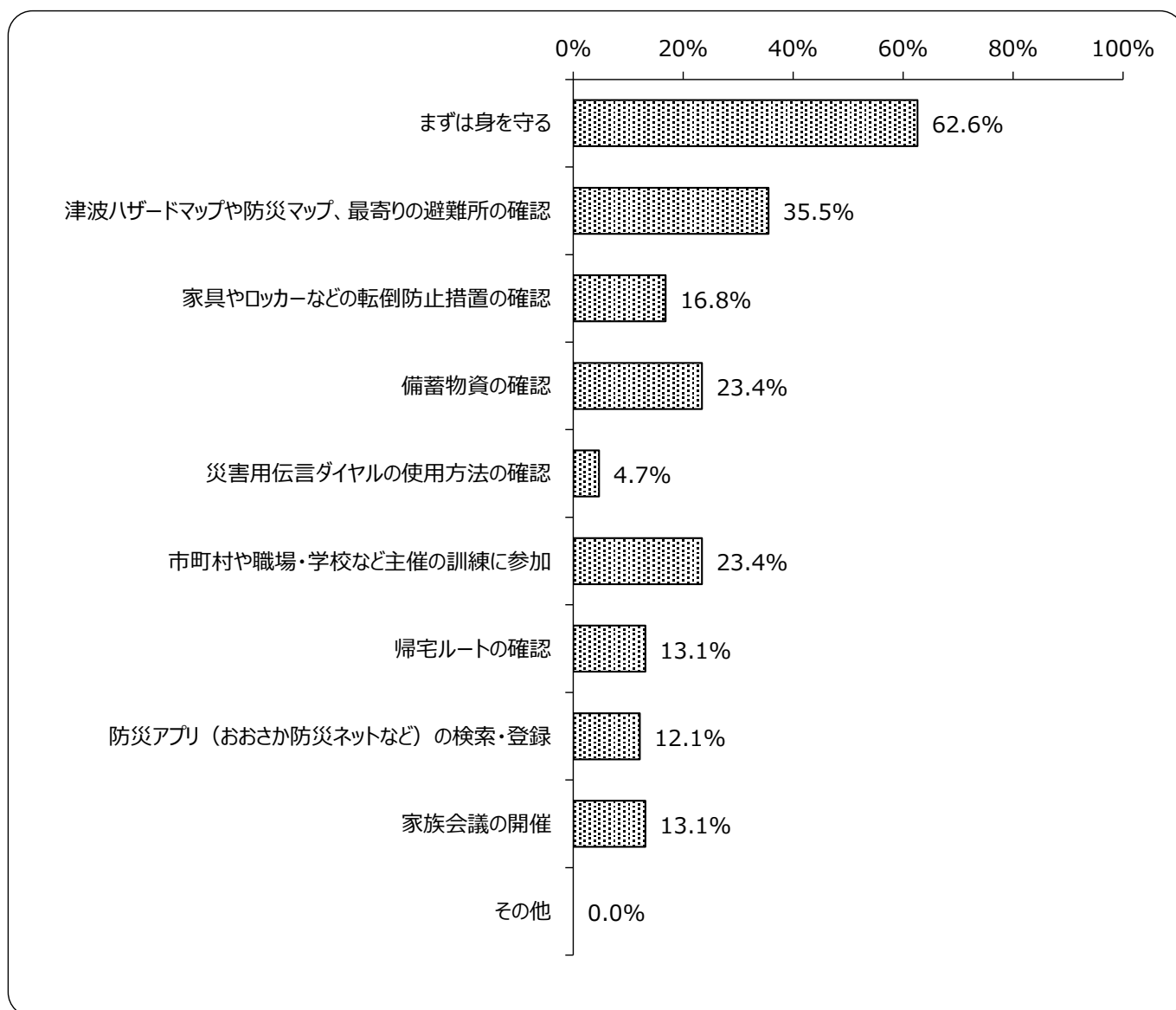


問 58. 問 57 で「1 参加した」と回答された方に伺います。どのような訓練に参加しましたか。

【複数選択可：いくつでも】

「まずは身を守る」と回答した方は約 6 割を占めた。

	選択項目 (N=107)	回答数	回答数/N
1	まずは身を守る	67	62.6%
2	津波ハザードマップや防災マップ、最寄りの避難所の確認	38	35.5%
3	家具やロッカーなどの転倒防止措置の確認	18	16.8%
4	備蓄物資の確認	25	23.4%
5	災害用伝言ダイヤルの使用方法の確認	5	4.7%
6	市町村や職場・学校など主催の訓練に参加	25	23.4%
7	帰宅ルートの確認	14	13.1%
8	防災アプリ（おおさか防災ネットなど）の検索・登録	13	12.1%
9	家族会議の開催	14	13.1%
10	その他	0	0.0%



問 59. 問 57 で「2 参加しなかった」と回答された方に伺います。

訓練に参加しなかった理由について教えてください。

【複数選択可：いくつでも】

「忙しかった」と回答した方は 50 歳代以下で半数以上を占めた。

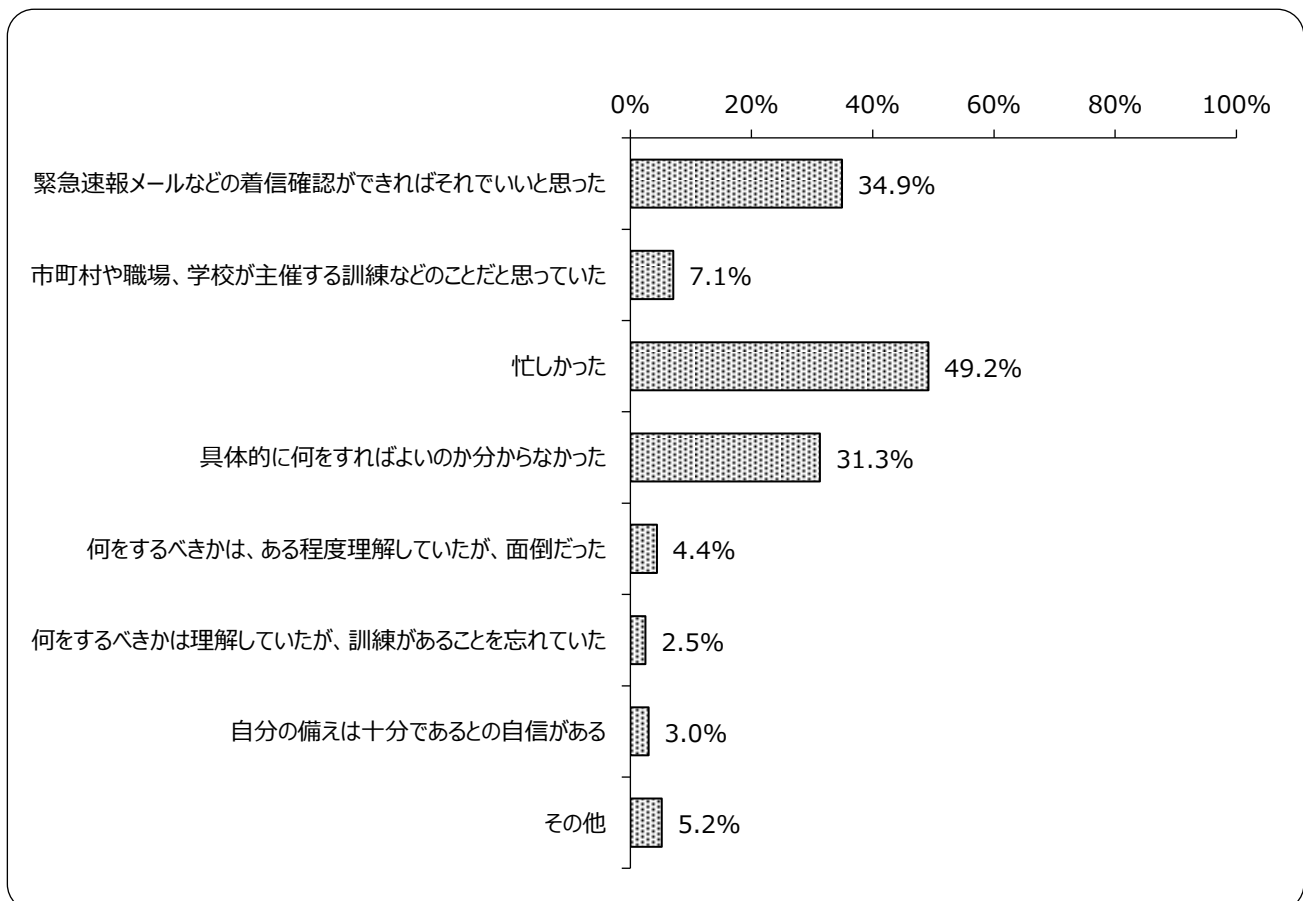
「具体的に何をすればよいのか分からなかった」と回答した方は 60 歳代以上で約 4 割を占めた。

	選択項目 (N=364)	回答数	回答数/N
1	緊急速報メールなどの着信確認ができればそれでいいと思った	127	34.9%
2	市町村や職場、学校が主催する訓練などのことだと思っていた	26	7.1%
3	忙しかった	179	49.2%
4	具体的に何をすればよいのか分からなかった	114	31.3%
5	何をすべきかは、ある程度理解していたが、面倒だった	16	4.4%
6	何をすべきかは理解していたが、訓練があることを忘れていた	9	2.5%
7	自分の備えは十分であるとの自信がある	11	3.0%
8	その他	19	5.2%

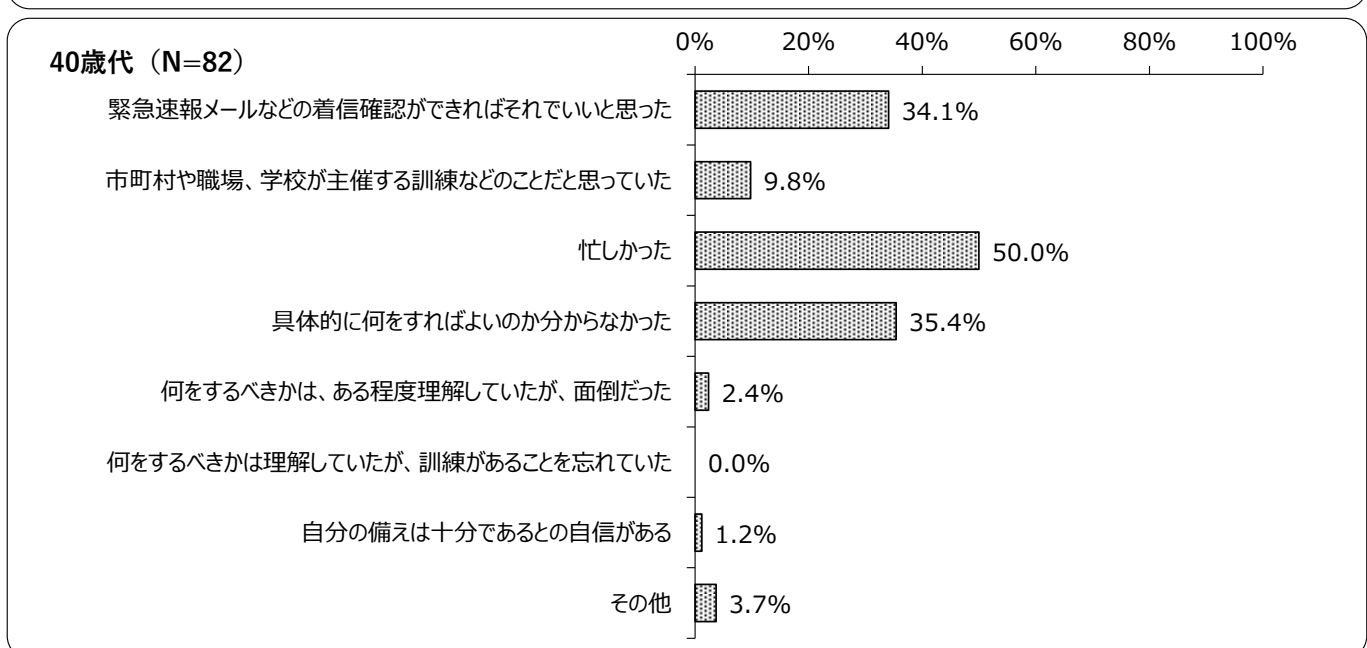
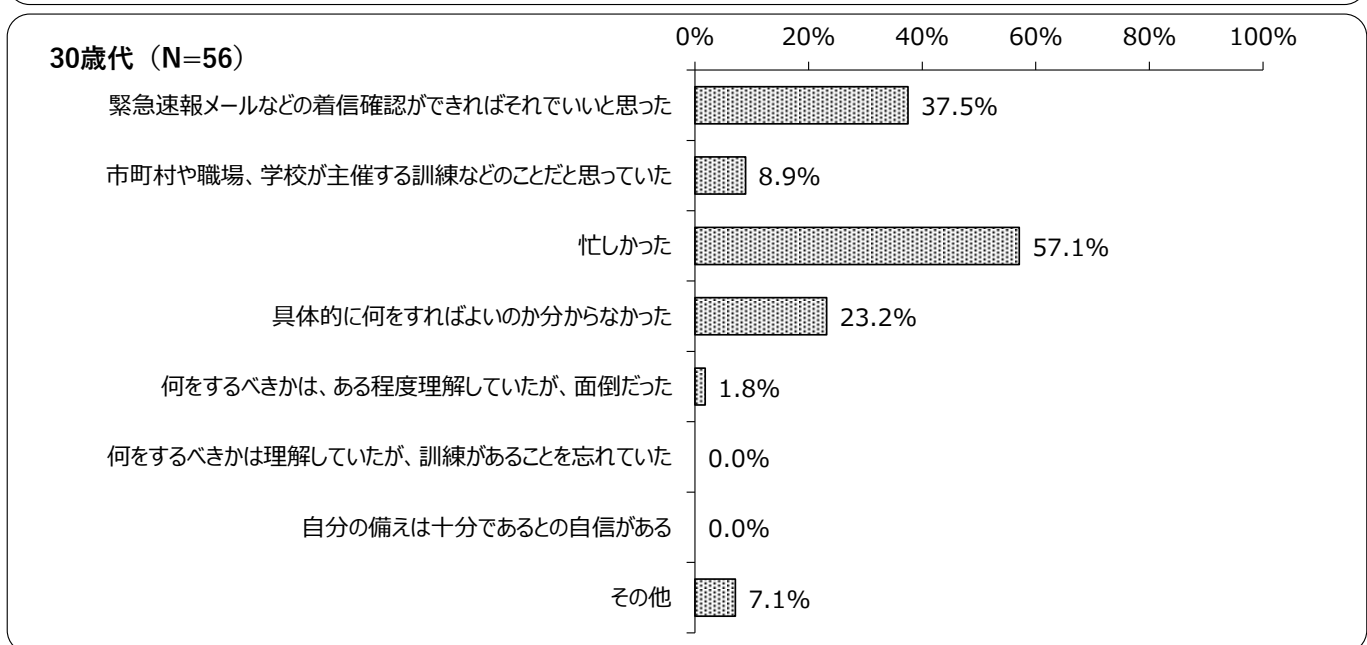
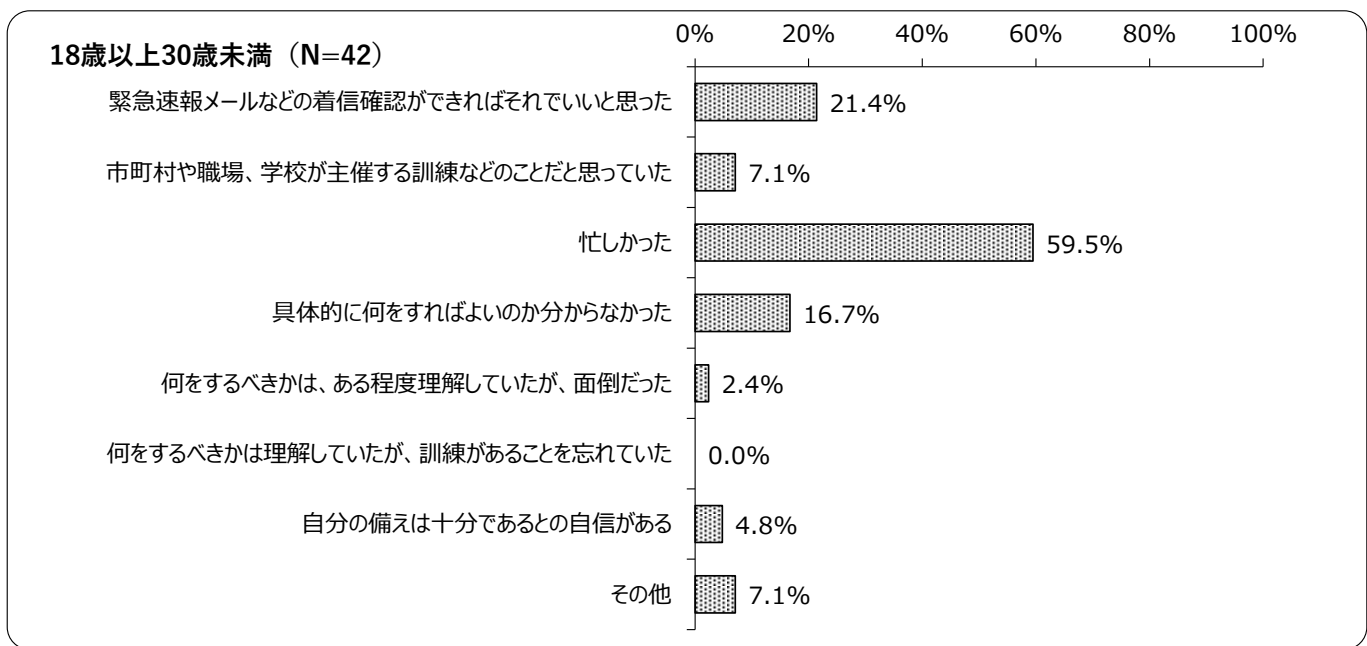
[8 その他]

【主な回答】

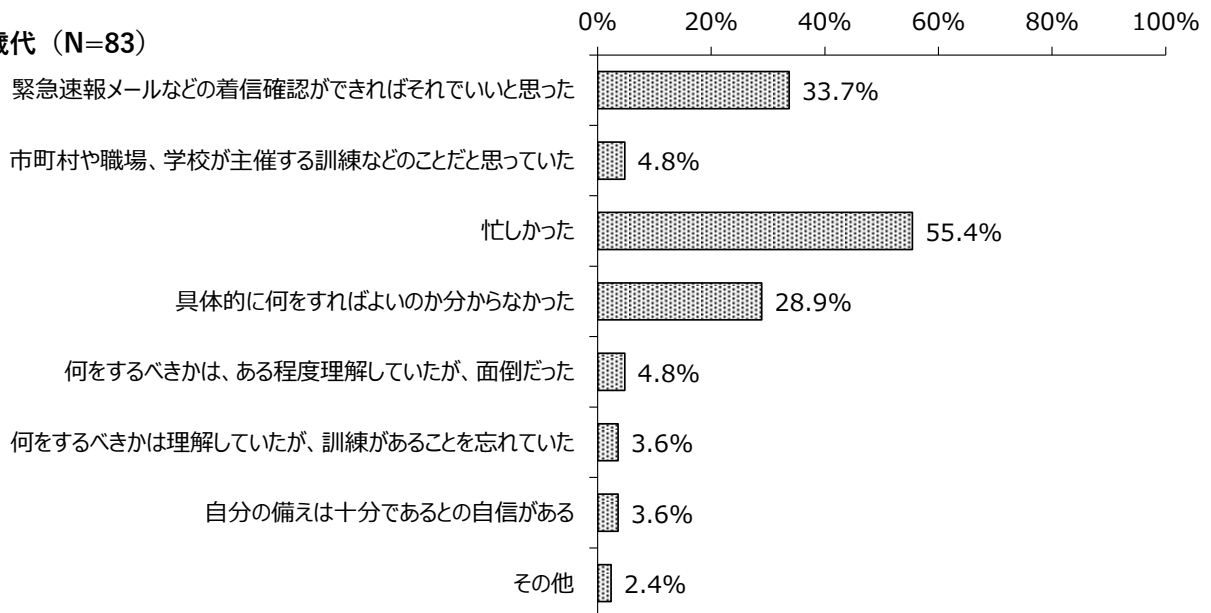
- 訓練があることを知らなかった。
- 大阪にいなかった。
- 業務中で何もできなかった。
- 高齢のため
- 障害者のため
- 携帯電話が反応せず、知らぬ間に終わっていた。
- どこで何をしているのか分からなかった。



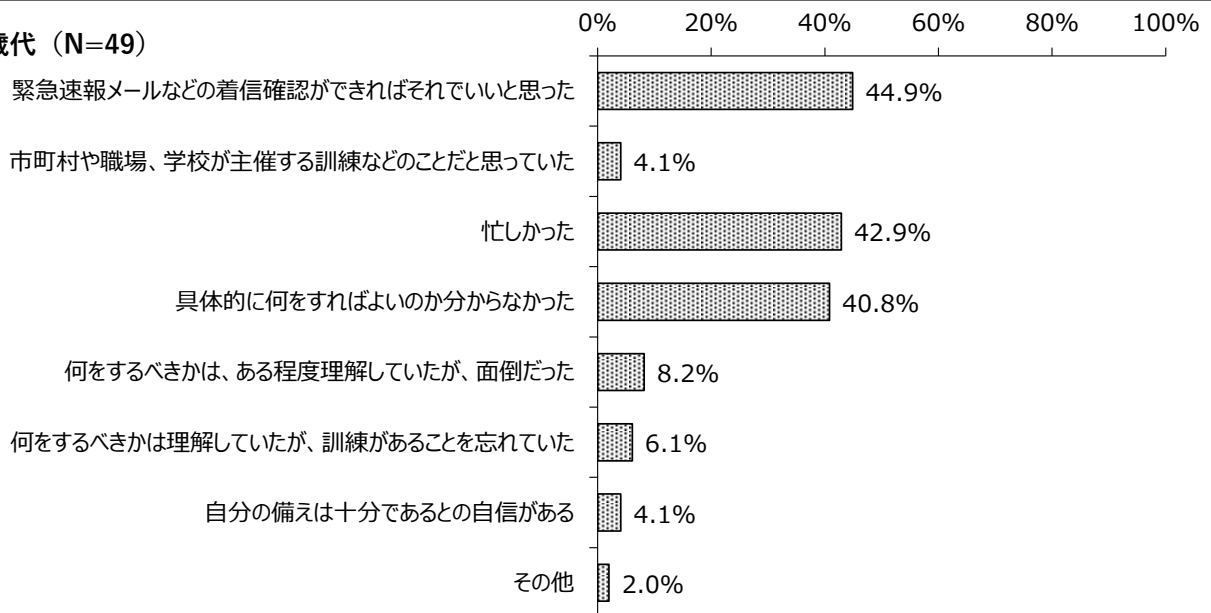
《年齢別》



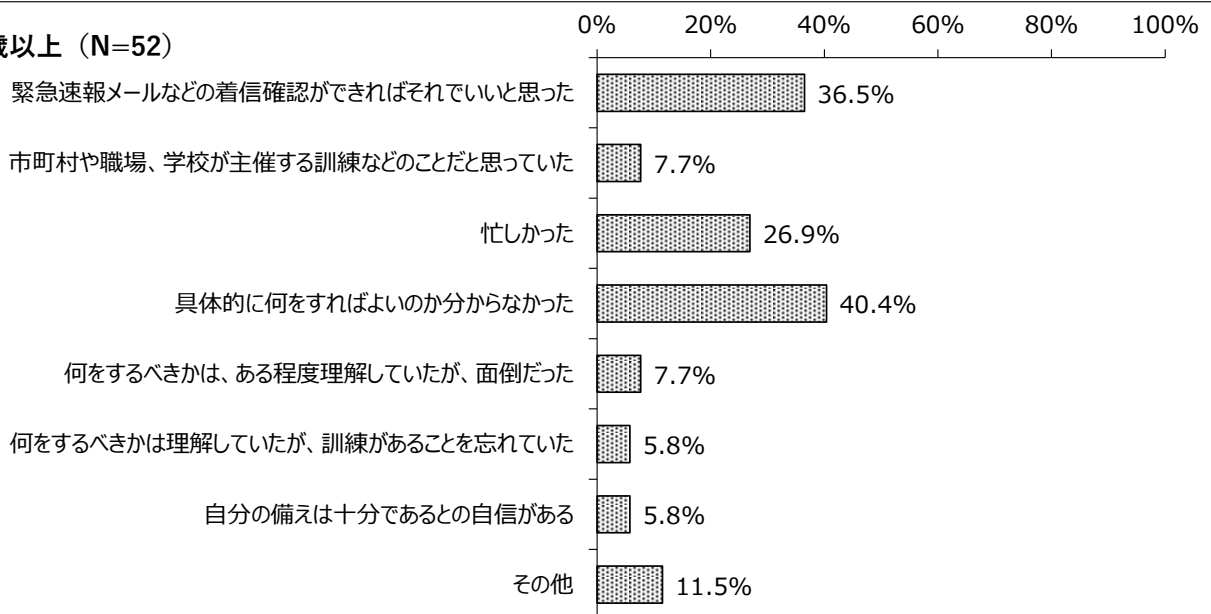
50歳代 (N=83)



60歳代 (N=49)



70歳以上 (N=52)



6. 広聴活動について

調査結果の概要

テーマ	広聴活動について
担当課	市長公室 広報戦略部 市政情報課
設問数	5 問
趣旨・目的	<p>本市では、市民ニーズを的確に把握し、市民と市との信頼関係を構築することや市民の市政参加を促し、協働社会の実現をめざすため、さまざまな広聴活動に取り組んでいます。</p> <p>今回のアンケートは、本市の広聴活動についての市民の皆様の意識や意見を調査し、今後の広聴活動の充実に活用したいと考えています。</p>
調査結果	各設問のページをご覧ください。
調査結果に係る 担当課の所見	<ul style="list-style-type: none">・問 60 では、市政への提案箱について、知らない方が 48.2%であり、令和 4 年度の 47.3%とほぼ同様の結果となりました。・問 61 では、パブリックコメント制度を知らない方が 52.0%となり、令和 4 年度の 52.9%と同様に過半数を占める結果となりました。 <p>問 60、61 の結果を受け、市民の皆様が円滑に市政への提案ができる取組として、広報さかい令和 6 年 2 月号から、市ホームページ「市政への提案箱」への二次元コードを表紙に掲載しました。また、パブリックコメント制度についても、広報さかいで制度周知の掲載回数を増やすなど、取組を強化します。</p> <ul style="list-style-type: none">・問 64 では、市民の声 Q&A に記載の市の考え方を「よく理解できた」「理解できた」の合計が 80.0%でした。 <p>市民の声 Q&A は、市民からの提案等を担当する課において作成していることから、市民の皆様にとって分かりやすい内容となるように担当課に対し、研修等で周知を図ります。</p>

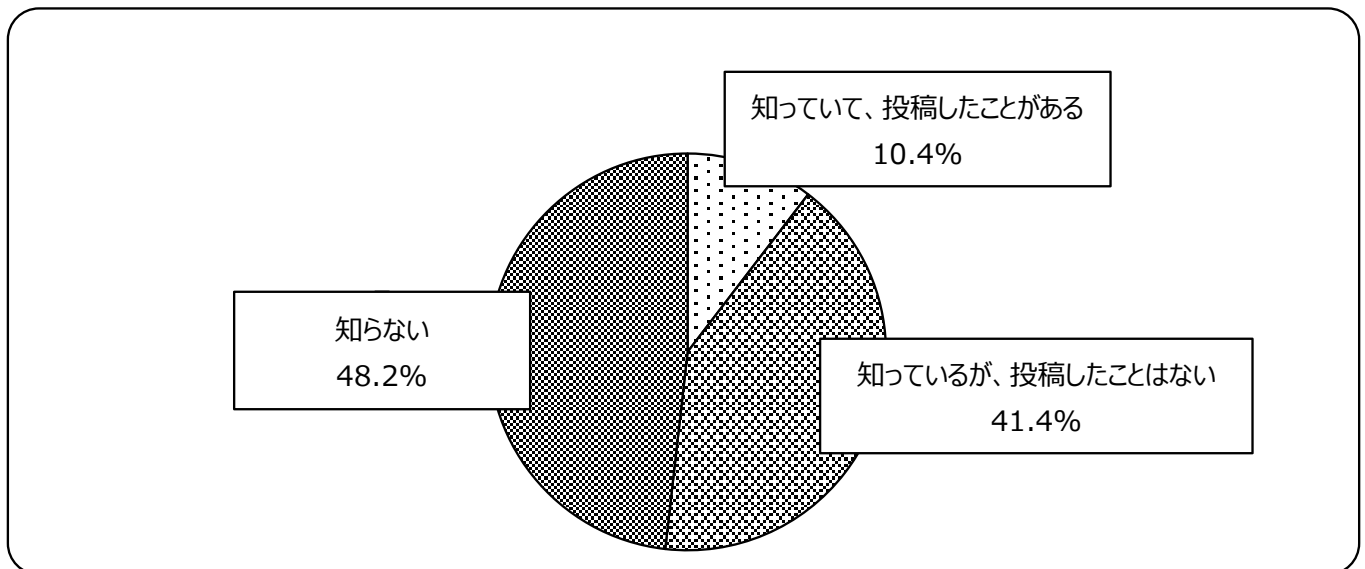
(1) 広聴について

問 60. 本市では、市政に関する提案などを募集するために、「市政への提案箱」専用ポストを区役所や図書館などの市施設 30 か所に設置したり、市ホームページに提案フォームを掲載していますが、そのことを知っていますか。

【1 つ選択】

「知らない」と回答した方は 48.2%であった。(令和 4 年度 47.3%)

	選択項目 (N=471)	回答数	構成比
1	知っていて、投稿したことがある	49	10.4%
2	知っているが、投稿したことはない	195	41.4%
3	知らない	227	48.2%
	計 (回答総数)	471	100.0%



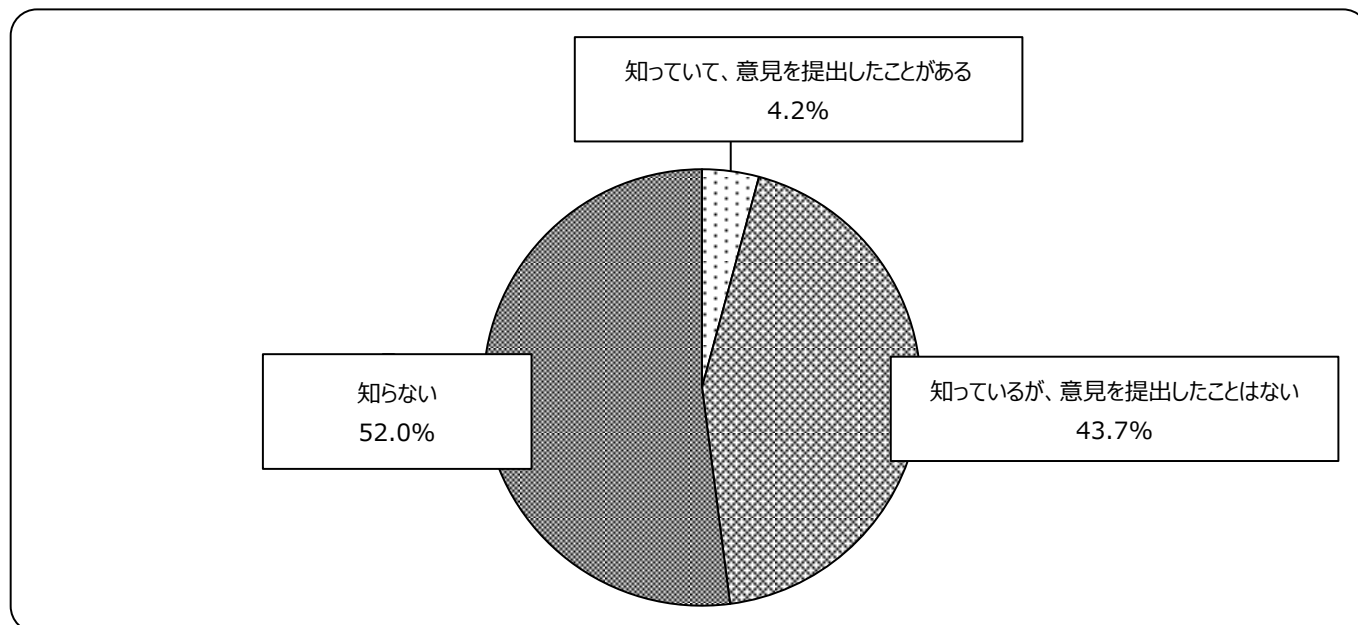
問 61. パブリックコメント制度※を知っていますか。

※パブリックコメント制度とは、市民生活に広く影響を及ぼす市政の基本的な計画などを立案する過程において、これらの案の趣旨、内容などを公表し、その案について市民の皆様から提出された意見を考慮して意思決定を行う一連の手続きのことです。

【1つ選択】

「知らない」と回答した方は 52.0%であった。(令和4年度 52.9%)

	選択項目 (N=471)	回答数	構成比
1	知っていて、意見を提出したことがある	20	4.2%
2	知っているが、意見を提出したことはない	206	43.7%
3	知らない	245	52.0%
	計 (回答総数)	471	100.0%



**問 62. 問 61 で「2 知っているが、意見を提出したことはない」と回答された方に伺います。
パブリックコメント制度を利用して意見を提出したことがないのはなぜですか。 【複数選択可：いくつでも】**

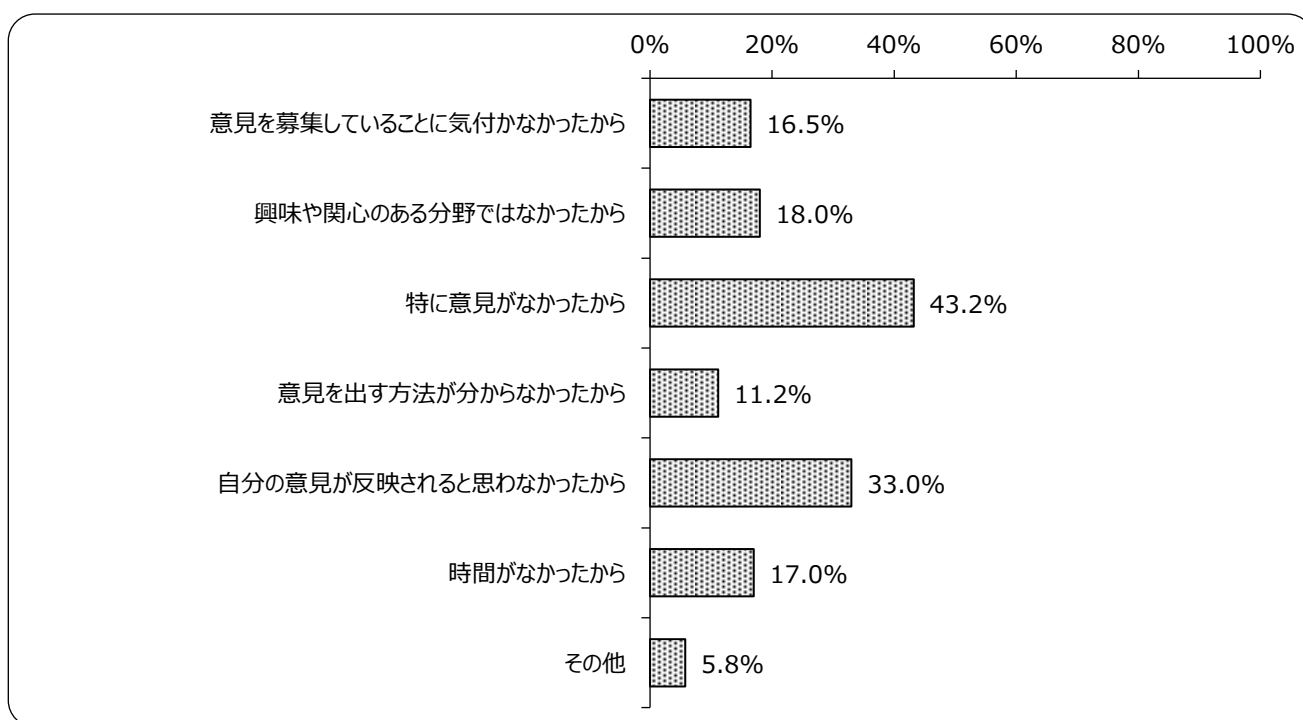
「特に意見がなかったから」が 43.2%であった。（令和 4 年度は、37.6%）

	選択項目 (N=206)	回答数	回答数/N
1	意見を募集していることに気付かなかったから	34	16.5%
2	興味や関心のある分野ではなかったから	37	18.0%
3	特に意見がなかったから	89	43.2%
4	意見を出す方法が分からなかったから	23	11.2%
5	自分の意見が反映されると思わなかったから	68	33.0%
6	時間がなかったから	35	17.0%
7	その他	12	5.8%

[7 その他]

【主な回答】

- 意見を投稿出来ることを知らなかった。
- 内容が難しいため、意見しにくい。
- 上手に文章表現する自信が無かったため
- わざわざ提出するほどの意見ではないと思ったため

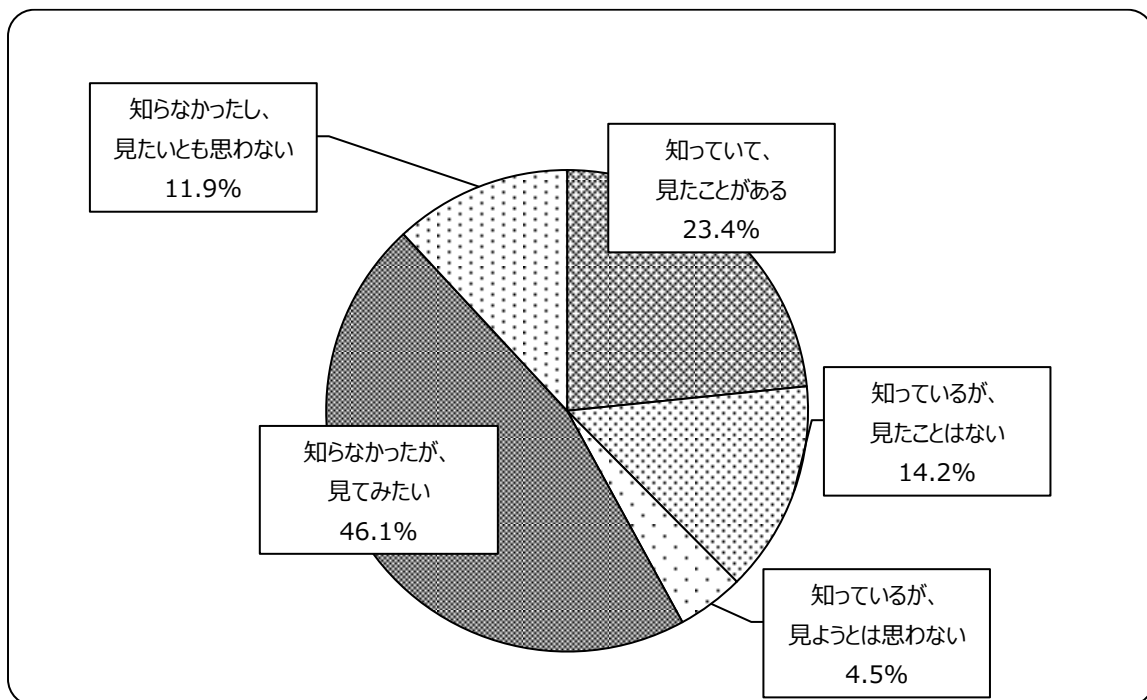


(2) 「市民の声」の公表について

問 63. 「市ホームページ」に市民の皆様から寄せられた提案・意見などの要旨とそれに対する市の考え方が「市民の声 Q&A」として掲載されていることを知っていますか。 【1つ選択】

「知っていて、見たことがある」、「知っているが、見たことはない」、「知っているが、見ようとは思わない」と回答した「知っている」方の合計が 42.1%であった。(令和4年度は 41.0%)

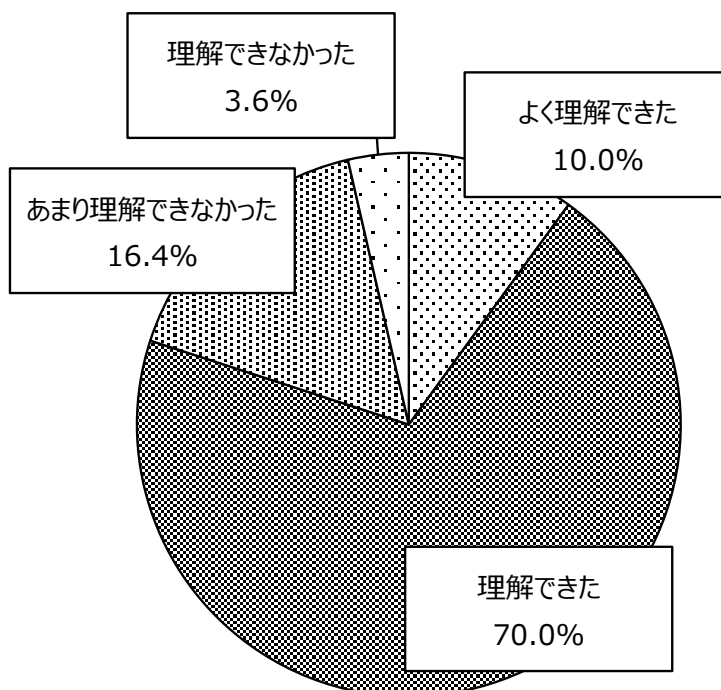
	選択項目 (N=471)	回答数	構成比
1	知っていて、見たことがある	110	23.4%
2	知っているが、見たことはない	67	14.2%
3	知っているが、見ようとは思わない	21	4.5%
4	知らなかったが、見てみたい	217	46.1%
5	知らなかったし、見たいとも思わない	56	11.9%
	計 (回答総数)	471	100.0%



問 64. 問 63 で「1 知っていて、見たことがある」と回答された方に伺います。
「市民の声 Q&A」をご覧になって、市の考え方を理解できましたか。
なお、この設問は、市の考え方の内容への賛否ではなく、書かれている文章の分かりやすさや理解度をお尋ねするものです。 【1 つ選択】

「よく理解できた」、「理解できた」と回答した方の合計は 80.0%を占めた。（令和 4 年度は 82.6%）

	選択項目 (N=110)	回答数	構成比
1	よく理解できた	11	10.0%
2	理解できた	77	70.0%
3	あまり理解できなかった	18	16.4%
4	理解できなかった	4	3.6%
	計 (回答総数)	110	100.0%



令和 5 年度 第 2 回 市政モニターアンケート報告書

1. 上下水道局の取組について
2. 里親制度に関する意識調査・広報啓発について
3. 自転車の利用環境について
4. ごみ減量化・リサイクル、適正排出について
5. 大阪 880 万人訓練について
6. 広聴活動について

発行月 令和 6 年 4 月

編集・発行 堺市 市長公室 広報戦略部 市政情報課

〒590-0078 堺市堺区南瓦町3番1号

TEL 072-228-7475

FAX 072-228-7444

URL <https://www.city.sakai.lg.jp/>

配架資料番号 1 - C3 - 23 - 0255